

科目名	探究ゼミ (FES0F310)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study III
担当教員名	山崎桂子(やまさきけいこ)
対象学年	3年
開講学期	通期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究ゼミ の目的を理解する
2回	プランニング(1) - 各自の進路目標を宣言する。
3回	プランニング(2) - キャリアアドバイザーの講話から学ぶ。
4回	プランニング(3) - ゲストティーチャーからの学びを整理する。
5回	プランニング(4) - これからの大学での学びを考える。(ゼミ)
6回	グループワーク(1) - 希望進路ごとに情報交換する。
7回	グループワーク(2) - 課題と対策を明確化する。
8回	プレゼンテーション - 互いの進路目標と対策を発表する。
9回	大学での学びのゴールを定める。
10回	ゼミ研究(1) 様々な研究を知る。
11回	ゼミ研究(2) 様々な研究を知る。
12回	ゼミ研究(3) 様々な研究を知る。
13回	ゼミ研究(4) 研究テーマを決定する。
14回	今後の学びと卒業後のキャリアの関連について検討する。
15回	最後の1年の過ごし方を定める。

回数	準備学習
1回	自分の進路について考えを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	発表の準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	改めて自己課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	2分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	残り2年間でどんな学びを深めたいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
6回	志望する業界について情報収集しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	目標達成のためにどうすればいいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各自プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	希望の研究テーマを確定しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	大学での学びと実社会との関係について考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「キャリア形成」を年間テーマにして、個々の学生が教員採用や就職、進学など、進路決定に向けた行動を探究することを目標とする。具体的には、教職への適性を考え、教員として教育現場で実践できるだけの基礎力を培うためにすべきことや、教員以外で希望する業界で可能性を生かすために必要なことはなにかといった課題を設定して、調査・報告などの活動を行うことによって進路への意識を高める。また、外部講師を招き、社会人としての持続可能な社会貢献等についても議論し理解を深める。 (中等教育学科学位授与の方針にもっとも強く関与する)
達成目標	「探究ゼミ」とは趣を変え、今度は気づきと学びを自分自身の内面で醸成する作業を通じて、大学生としての学びを研究に昇華すること、卒業後の自分の生き方を同時に考え、二つの目標に同時に取り組めるようになること。
キーワード	探究活動 意思決定
成績評価(合格基準)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	探究ゼミ 探究ゼミ
教科書	使用しない。
参考書	学生からの問い合わせに応じ、適宜、指示する。
連絡先	山崎研究室(A1 911)

注意・備考	グループディスカッション、グループワークを中心とするアクティブラーニング形式で行う。
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ (FES0F320)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study III
担当教員名	香ノ木隆臣(こうのきたかおみ)
対象学年	3年
開講学期	通期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究ゼミ の目的を理解する
2回	プランニング(1) - 各自の進路目標を宣言する。
3回	プランニング(2) - キャリアアドバイザーの講話から学ぶ。
4回	プランニング(3) - ゲストティーチャーからの学びを整理する。
5回	プランニング(4) - これからの大学での学びを考える。(ゼミ)
6回	グループワーク(1) - 希望進路ごとに情報交換する。
7回	グループワーク(2) - 課題と対策を明確化する。
8回	プレゼンテーション - 互いの進路目標と対策を発表する。
9回	大学での学びのゴールを定める。
10回	ゼミ研究(1) 様々な研究を知る。
11回	ゼミ研究(2) 様々な研究を知る。
12回	ゼミ研究(3) 様々な研究を知る。
13回	ゼミ研究(3) 研究テーマを決定する。
14回	今後の学びと卒業後のキャリアの関連について検討する。
15回	最後の1年の過ごし方を定める。

回数	準備学習
1回	自分の進路について考えを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	発表の準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	改めて自己課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	2分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	残り2年間でどんな学びを深めたいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
6回	志望する業界について情報収集しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	目標達成のためにどうすればいいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各自プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	希望の研究テーマを確定しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	大学での学びと実社会との関係について考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「キャリア形成」を年間テーマにして、個々の学生が教員採用や就職、進学などの学生自身の進路決定に向けた行動への企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自身の進路への意識を高める。また活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示および討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。(中等教育学科学位授与の爲 国語教育コース：A、英語教育コース：Dにもっとも強く関与)
達成目標	「探究ゼミ」「探究ゼミ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、自身の将来像について真剣に考え、その成果を効果的に発表するスキルを身につける。 そして他者の発表を自らと比較しながらそれぞれの長所を見出し、深く理解できるようになること。
キーワード	探究活動 意思決定
成績評価(合格基準60)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	探究ゼミ 探究ゼミ
教科書	使用しない
参考書	学生からの問い合わせに応じ、適宜、指示する。
連絡先	香ノ木研究室(A1 1010)

注意・備考	グループディスカッション、グループワークを中心とする、アクティブラーニング形式で行う。
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ (FES0Q110)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study I
担当教員名	札埜和男(ふだのかずお)
対象学年	1年
開講学期	通期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション。 問いを立てる意味に気づく。
2回	世の中に対して問いを立てる(1) 探究作業
3回	世の中に対して問いを立てる(2) 班内意見交換
4回	世の中に対して問いを立てる(3) 班内プレゼン
5回	班代表プレゼンテーション(1)
6回	自分自身を問う(1) 探究作業
7回	自分自身を問う(2) 班内意見交換
8回	自分自身を問う(3) 班内プレゼン
9回	班代表プレゼンテーション(2)
10回	大学生としてどう生きるか(1) 探究作業
11回	大学生としてどう生きるか(2) 意見交換、課題設定
12回	大学生としてどう生きるか(3) プラン&アクション1
13回	大学生としてどう生きるか(4) プラン&アクション2
14回	大学生としてどう生きるか(5) 成果の整理
15回	全体まとめ プレゼンテーション

回数	準備学習
1回	日常生活における不思議について考えておくこと。(標準学習時間30分)
2回	新聞等を読んで、自分が分からないことをまとめておくこと。(標準学習時間30分)
3回	第2回を踏まえて自分の意見を他者に伝える準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
4回	第3回を踏まえ、自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。(標準学習時間30分)
5回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
6回	自己認識、自己概念、Iとmeなどについて調べておくこと。(標準学習時間30分)
7回	他者と意見を交換し合うための準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
8回	自分の考えを説得的に表現できるよう準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
9回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
10回	小・中・高と違う大学の特徴について考えておくこと。(標準学習時間30分)
11回	どの課題を選ぶか考えておくこと。(標準学習時間30分)
12回	課題を踏まえて次に何をするか考えておくこと。(標準学習時間30分)
13回	引き続き、成果に結びつけるための方途を考えておくこと。(標準学習時間30分)
14回	成果として挙げられるものを理由も含めて考えておくこと。(標準学習時間30分)
15回	全体の場合でどのようにプレゼンテーションするか、準備しておくこと。(標準学習時間30分)

講義目的	「大学生としてどう生きるか？」を年間テーマとして、前半は科目履修の考え方やレポートの書き方等の大学生活への導入を行う。後半は5～6名のグループに分かれ、学修への姿勢や人間関係、そして理想的な教育の在り方など、主に大学4年間の過ごし方をめぐりさまざまな課題を自主的に取り上げ、検討し討論し合う活動が中心となる。活動の成果は学生個人がプレゼンテーションならびにレポートにまとめて提出する。
達成目標	大学生としての自分自身の立場、将来目標を明確に把握し、この先何をなすべきかを他者に分かりやすく説明できるほど明確に意識し、またそれを文章として表現できるようにする。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	探究ポートフォリオ(20%)、課題ごとのレポート(40%)、プレゼンテーションと最終レポート(40%)により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	探究ゼミ
教科書	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	fudano@ped.ous.ac.jp
注意・備考	探究ポートフォリオを毎回持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ (FES0Q120)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study I
担当教員名	坂本南美(さかもとなみ)
対象学年	1年
開講学期	通期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション 問いを立てる意味に気づく
2回	世の中に対して問いを立てる(1) 探究作業
3回	世の中に対して問いを立てる(2) 班内意見交換
4回	世の中に対して問いを立てる(3) 班内プレゼン
5回	班代表プレゼンテーション(1)
6回	自分自身を問う(1) 探究作業
7回	自分自身を問う(2) 班内意見交換
8回	自分自身を問う(3) 班内プレゼン
9回	班代表プレゼンテーション(2)
10回	大学生としてどう生きるか(1) 探究作業
11回	大学生としてどう生きるか(2) 意見交換、課題設定
12回	大学生としてどう生きるか(3) プラン&アクション1
13回	大学生としてどう生きるか(4) プラン&アクション2
14回	大学生としてどう生きるか(5) 成果の整理
15回	全体まとめ プレゼンテーション

回数	準備学習
1回	日常生活における不思議について考えておくこと。
2回	新聞等を読んで、自分が分からないことをまとめておくこと。
3回	第2回を踏まえて、自分の意見を他者に伝える準備をしておくこと。
4回	第3回を踏まえ、自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。
5回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。
6回	自己認識、自己概念、Iとmeなどについて調べておくこと。
7回	他者と意見を交換し合うための準備をしておくこと。
8回	自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。
9回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。
10回	小・中・高と違う大学の特徴について考えておくこと。
11回	どの課題を選ぶか、考えておくこと。
12回	課題を踏まえ次に何をするか考えておくこと。
13回	引き続き、成果に結びつけるための方途を考えておくこと。
14回	成果として挙げられるものを、理由も含めて考えておくこと。
15回	全体場でどのようにプレゼンテーションするか、準備しておくこと。

講義目的	“大学生としてどう生きるか？”を年間テーマとして、前半は科目履修の考え方やレポートの書き方等の大学生生活への導入を行う。後半は、5~6名のグループに分かれ、学修への姿勢や人間関係、そして理想的な教育のあり方など、主に大学4年間の過ごし方をめぐり学生たちが様々な課題を自主的に取り上げ、検討し討論し合う活動が中心となる。活動の成果は学生個人がプレゼンテーションならびにレポートにまとめて提出する。
達成目標	大学生としての自分自身の立場、将来目標を明確に把握し、この先何をなすべきかを他者に分かりやすく説明できるほど明確に意識し、またそれを文章として表現できるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準)	60 探究ポートフォリオ20%、課題ごとのレポート40%、プレゼンテーションと最終レポート40%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	探究ゼミ
教科書	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館10F 坂本研究室
注意・備考	探究ポートフォリオを毎回持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ (FES0U210)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study II
担当教員名	奥野新太郎(おくのしんたろう)
対象学年	2年
開講学期	通期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究テーマを考える
2回	プランニング(1) - 1st プロジェクトを構想する。
3回	プランニング(2) - 1st プロジェクトを決定する。
4回	プランニング(3) - プロジェクト発表(班代表) + 意見交換をする。
5回	プランニング(4) - プロジェクトを準備する。
6回	1st プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。
7回	1st プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。
8回	リフレクション(1) - 1st プロジェクトの振り返りをする。
9回	2nd プロジェクトを構想する。
10回	プランニング(5) - 2ndプロジェクトの内容を検討する。
11回	プランニング(6) - プロジェクトの内容を決定する。
12回	2nd プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。
13回	2nd プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。
14回	リフレクション(2) - 2nd プロジェクトの振り返り(クラス内プレゼンならびに選抜)をする。
15回	リフレクション(3) - 学年全体で選抜チームによるプレゼンをする。

回数	準備学習
1回	「探究ゼミ」の成果と今後の課題について整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	グループ討論の準備(アイデア準備)をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	第2回の議論を踏まえ、課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	10分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	決定したプロジェクト実現に必要な手順についてよく整理しておくこと。(標準学習時間30分)
6回	個々の役割分担等について整理しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	プロジェクトの円滑な進行に必要な条件を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各班でプレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	地域と関わる活動について考えておくこと。(標準学習時間30分)
10回	前回の議論に基づき各自プランを練っておくこと。(標準学習時間30分)
11回	前回の議論から、プランを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	各自の役割を明確にしておくこと。(標準学習時間30分)
13回	地域との関わりを明確にしておくこと。(標準学習時間30分)
14回	1st プロジェクトと同様にプレゼン準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「学びを深める」を年間テーマに、仲間や地域の人々との関わりの中で、マネジメント力・コーディネート力・ファシリテーション力の獲得を目指す。グループ単位で社会貢献活動等の企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自分と異なる意見を理解し尊重し、調和することの大切さを学ぶ。また活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示および討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。(中等教育学科学位授与の方針 国語教育コース：A、英語教育コース：Dにもっとも強く関与)
達成目標	「探究ゼミ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、学外の地域と人々との関わりの中で課題を発見し、取り組み、解決し、その成果を効果的に発表するスキルを身につける。そして他者の発表を自らと比較しながらそれぞれの長所を見出し、深く理解できるようになること。
キーワード	研究力 探究 フィールドワーク
成績評価(合格基準60)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	探究ゼミ
教科書	使用しない

参考書	
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno_ped.ous.ac.jp [@]
注意・備考	この授業ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ（奇数週）（FESOU220）
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study II
担当教員名	奥西有理（おくにしゆり）
対象学年	2年
開講学期	通期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究テーマを考える
2回	プランニング(1) - 1st プロジェクトを構想する。
3回	プランニング(2) - 1st プロジェクトを決定する。
4回	プランニング(3) - プロジェクト発表（班代表）+ 意見交換をする。
5回	プランニング(4) - プロジェクトを準備する。
6回	1st プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。
7回	1st プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。
8回	リフレクション(1) - 1st プロジェクトの振り返りをする。
9回	2nd プロジェクトを構想する。
10回	プランニング(5) - 2ndプロジェクトの内容を検討する。
11回	プランニング(6) - プロジェクトの内容を決定する。
12回	2nd プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。
13回	2nd プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。
14回	リフレクション(2) - 2nd プロジェクトの振り返り(クラス内プレゼンならびに選抜)をする。
15回	リフレクション(3) - 学年全体で選抜チームによるプレゼンをする。

回数	準備学習
1回	「探究ゼミ」の成果と今後の課題について整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	グループ討論の準備(アイデア準備)をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	第2回の議論を踏まえ、課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	10分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	決定したプロジェクト実現に必要な手順についてよく整理しておくこと。(標準学習時間30分)
6回	個々の役割分担等について整理しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	プロジェクトの円滑な進行に必要な条件を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
8回	各班でプレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9回	地域と関わる活動について考えておくこと。(標準学習時間30分)
10回	前回の議論に基づき各自プランを練っておくこと。(標準学習時間30分)
11回	前回の議論から、プランを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	各自の役割を明確にしておくこと。(標準学習時間30分)
13回	地域との関わりを明確にしておくこと。(標準学習時間30分)
14回	1st プロジェクトと同様にプレゼン準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
15回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「学びを深める」を年間テーマに、仲間や地域の人々との関わりの中で、マネジメント力・コーディネート力・ファシリテーション力の獲得を目指す。グループ単位で社会貢献活動等の企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自分と異なる意見を理解し尊重し、調和することの大切さを学ぶ。また活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示および討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。(中等教育学科学位授与の方針 英語教育コース：Dにもっとも強く関与)
達成目標	「探究ゼミ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、学外の地域と人々との関わりの中で課題を発見し、取り組み、解決し、その成果を効果的に発表するスキルを身につける。そして他者の発表を自らと比較しながらそれぞれの長所を見出し、深く理解できるようになること。
キーワード	探究力、プロジェクトワーク、プレゼンテーション、課題発見
成績評価（合格基準60）	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	探究ゼミ
教科書	使用しない

参考書	学生からの問い合わせに応じ、適宜、指示する。
連絡先	奥西研究室 (A1号館 1009号室) okunishi@ped.ous.ac.jp 086-256-9634
注意・備考	この授業はアクティブラーニングの一環としてPBL (プロジェクト学習) を採用する。
試験実施	実施しない

科目名	教育現場観察実習 (FES0Z210)
英文科目名	Observation Training for Middle Schools
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお), 笹山健作 (ささやまけんさく), 原田省吾 (はらだしょうご), 坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	2年
開講学期	通期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・実習目的理解のための演習 (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
2回	事前演習(1)・・・観察視点の明確化 (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
3回	観察実習 (施設観察・授業観察・活動観察) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
4回	観察実習 (施設観察・授業観察・活動観察) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
5回	観察実習 (施設観察・授業観察・活動観察) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
6回	観察実習の振り返り演習(1) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
7回	事前演習(2)・・・観察視点の明確化 (発達段階に着目する) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
8回	観察実習(2) (施設観察・授業観察・活動観察) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
9回	観察実習(2) (施設観察・授業観察・活動観察) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
10回	観察実習の振り返り演習(2) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
11回	事前演習(3)・・・参加テーマの設定、確認 (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
12回	参加実習 (学級経営・授業補助・学級活動) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
13回	参加実習 (学級経営・授業補助・学級活動) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
14回	参加実習 (学級経営・授業補助・学級活動) (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)
15回	まとめを行う。 (全教員, 札埜 和男, 坂本 南美, 原田 省吾, 笹山 健作)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで授業予定を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	観察対象についてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)

3回	予期した観察イメージと現場との一致・ずれを意識しながら臨むこと。(標準学習時間60分)
4回	予期した観察イメージと現場との一致・ずれを意識しながら臨むこと。(標準学習時間60分)
5回	予期した観察イメージと現場との一致・ずれを意識しながら臨むこと。(標準学習時間60分)
6回	予期した観察イメージと現場との一致・ずれを明確に表現できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	学校教育と生徒の発達段階との関係について調べ・考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	発達の観点から、生徒の年齢的特徴を丁寧に観察できるようにすること。(標準学習時間60分)
9回	発達の観点から、児童の年齢的特徴を丁寧に観察できるようにすること。(標準学習時間60分)
10回	年齢に応じた発達の進行・特徴について観察したことを明確に表現できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	参加実習における自身の目標を考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	半日参加におけるスケジュール(特に授業の)をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	半日参加におけるスケジュール(特に授業の)をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	半日参加におけるスケジュール(特に授業の)をよく理解しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	これまでの実習から得た知見をよく整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	教職に向けた学修を開始するにあたり、中・高の教育現場をあらためて観察し、これまでの学習者の視点から教師の視点への“視点の転換”及び“教職への動機づけ”を主たる目的としている。(中等教育学科国語教育コースのディプロマポリシーE、英語教育コースのディプロマポリシーBに最も強く関与する。)
達成目標	教員の職務および学校運営について客観的に理解すること。
キーワード	教職 学校
成績評価(合格基準)	事前演習における小レポート(30%)、振り返り演習のレポート(70%)により、60%以上を合格とする。
関連科目	教職論
教科書	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 各担当教員の研究室。
注意・備考	実習受け入れ校の事情により、実習内容に変化の生ずる場合がある。 実習時の時間・服装・態度等に細心の注意を払うこと。(問題のある者は実習に参加させない。) = 単位を取得できない)
試験実施	実施しない

科目名	教育史【月1水1】(FES1A210)
英文科目名	History of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。
2回	教育の始まり。教育の原初形態及び古代・中世における西洋の教育の特質について理解を図る。
3回	リアリズムと教育。統一学校とコメニウスを中心に、近代黎明期における教育の特質について理解を図る。
4回	近代思想と子どもの発見(1)。18世紀の西洋における教育について、ルソーの教育思想を中心に理解を図る。
5回	近代以降における教育観の変遷。社会の動向との関連について、年表を通して考察する。
6回	近代思想と子どもの発見(2)。18世紀の西洋における教育について、ペスタロッチの教育思想・実践を中心に理解を図る。
7回	公教育と教育思想。19世紀の教育について、フレーベルの幼児教育思想とヘルバルトの段階教授説を中心に理解を図る。
8回	新教育の理念と展開。20世紀初頭の教育について、児童中心の教育観とデューイの民主主義教育論を中心に理解を図る。
9回	日本教育史の概観及び古代・中世日本の教育。古代・中世における日本の教育の特質について理解を図る。
10回	近世日本の教育。寺子屋、私塾、藩校を通して近世における教育の特質について理解を図る。
11回	近代日本の教育。西洋式の教育制度・教育内容の整備をめぐる葛藤の観点から教育の特質について理解を図る。
12回	西洋教育の受容と変容。西洋化と自立化の観点から近代日本における教育の特質について理解を図る。
13回	大正期と昭和戦前期の教育。大正期自由教育運動を中心に近現代日本における教育の特質について理解を図る。
14回	戦後教育の理念と制度。民主化をめざす教育改革の取り組みを中心に、戦後教育の理念とその特質について理解を図る。
15回	教育の現状と課題。現代における教育課題の特質を教育史の視点からとらえ直す。
16回	最終評価試験を実施する。筆答試験を基本とするが、受講状況によっては課題の作成とその提出または発表を加える場合がある。

回数	準備学習
1回	教育の歴史及び思想に関する知識について、教職との関連、必要とされる範囲や水準を概観するとともに、シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと(標準学習時間80分)。
2回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間100分)。
3回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、近代黎明期の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ルソー著『エミール』から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	中学校または高等学校の歴史分野の教材、教育学原論(または教育基礎論)及び本科目の教科書に目を通し、関心のある時代について社会情勢の特質と主な教育観との関連を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ペスタロッチの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、フレーベル、ヘルバルト、スペンサーのいずれかの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、デューイの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間100分)。
9回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世日本における教育の実践や思想から

	具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
10回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、江戸時代における帰省先の学校・人物の教育思想・実践等から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
11回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治初期における教育の実践や思想から自由と統制にかかわる具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間120分）。
12回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治期におけるお雇い外国人または海外派遣留学生から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、大正から昭和戦前期にかけての教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
14回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、終戦後間もない時期における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
15回	教科書と配付資料全体を読み直すとともに、自らの教育実践の指針として参考にすべき理念を複数の異なる観点から整理しておくこと（標準学習時間180分）。
16回	これまでの学習全体を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間100分）。

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条に基づき、教育の実践、制度及び思想を中心とした教育の歴史及びそれらの特質を、それぞれの時代情勢及びそれらの変化に即して理解できるようにすることを目標とする。 現代の教育は多様な問題への対応を求められている。本授業科目はそれらの教育事象を歴史的視点から捉え直し、人間と社会の未来を創造する教育のあり方を考察するための手がかりの一つを提供しようとするものである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与)
達成目標	教育実践にとって教育史や教育思想史を学ぶことがなぜ必要であるかを説明することができる。 西洋における各時代の教育の主な特質について、現実の教育事象と関連づけて説明することができる。 日本における各時代の教育の主な特質について、現実の教育事象と関連づけて説明することができる。
キーワード	教職課程、教育理念、教育観、教育思想、教育制度、学校、教師
成績評価（合格基準60）	平素の学習の取り組み（提出物）（30～40%）、最終評価試験の評定点（60～70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。
関連科目	1年次開講の教職関連科目をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。
教科書	刊行物の形態のものは使用しない。配付資料を適宜用いる。
参考書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 近現代教育史（新版） / 斉藤利彦・佐藤学（編著） / 学文社 / ISBN978-4762025976 教師教育テキストシリーズ教育史 / 古田常雄・米田俊彦（編） / 学文社 / ISBN978-4762016530 教師教育講座第2巻 教育の歴史・理念・思想 / 鈴木理恵・三時眞貴子（編著） / 協同出版 / ISBN978-4319106714 新教職教育講座第1巻 教育の思想と歴史 / 新井保幸・上野耕三郎（編） / 協同出版 / ISBN978-4319106608 中学校社会科（歴史的分野）の学習で使用した教科書、図説、資料集等。 そのほか適宜指示する。
連絡先	B2号館（旧13号館）3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	教職をめざす者として、高い目的意識をもち、謙虚にかつ不断に学業に取り組むことが望ましい。 授業で課された提出物には、個別に添削することを原則とする。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 授業形態は講義を基本とするが、アクティブラーニングの形態を加味する場合もある。 C1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。 専攻分野の学業と、人々がそれらを継承発展させてきた歴史に関する読書も励行することが望ましい。

試験実施

実施する

科目名	現代人の科学 (FES1C110)
英文科目名	Science Literacy I
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4回	静電気力を使った技術(コピー機など)を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7回	前回に引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供(疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8回	この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスをを行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8回	この授業全体について復習をしておくこと。Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代の科学技術文明社会を生きる市民は、よりよい判断を行うために一定の科学リテラシー(教養)をもつことが望ましい。同時に、科学の楽しさを知ることは、人生を豊かにしてくれる。本講義では、身の回りの材料を使った演示実験(主に物理・化学分野)とその解説などを通じて、自然科学を学び続けるために役立つ科学リテラシーの基礎を伝えるとともに、受講生の自然科学への興味・関心を高めることを目指す。また、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方について話題提供し、受講生間で意見交換もしながら、自分なりの意見を持てるようにする。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。また、可能な限り双方向的な授業手法(クリッカー等のICT活用も含む)を取り入れて、学生の能動的な学修を促す。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	1. 科学・技術全般に関心を持ち、学び続けようとする意欲をもつ。 2. 原子論、物質循環、DNAなどの現代科学の重要概念について一定のイメージを持ち、それを他者に説明できる。 3. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見を持ち、それを他者に説明で

	きる。
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方
成績評価（合格基準60	課題提出状況（65%）および最終評価試験の点数（35%）によって評価する。
関連科目	他の科学技術教育科目
教科書	特になし
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・Momo-campusで出題した確認テストは自動採点され結果がフィードバックされる。Momo-campus経由で出された意見・質問については、Momo-campus上で回答するとともに、主なものは次の講義で紹介するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学 (再) (FES1E110)
英文科目名	Science Literacy I
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科(~17)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4回	静電気力を使った技術(コピー機など)を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7回	前回に引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供(疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8回	この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスをを行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8回	この授業全体について復習をしておくこと。Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代の科学技術文明社会を生きる市民は、よりよい判断を行うために一定の科学リテラシー(教養)をもつことが望ましい。同時に、科学の楽しさを知ることは、人生を豊かにしてくれる。本講義では、身の回りの材料を使った演示実験(主に物理・化学分野)とその解説などを通じて、自然科学を学び続けるために役立つ科学リテラシーの基礎を伝えるとともに、受講生の自然科学への興味・関心を高めることを目指す。また、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方について話題提供し、受講生間で意見交換もしながら、自分なりの意見を持てるようにする。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。また、可能な限り双方向的な授業手法(クリッカー等のICT活用も含む)を取り入れて、学生の能動的な学修を促す。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	1. 科学・技術全般に関心を持ち、学び続けようとする意欲をもつ。 2. 原子論、物質循環、DNAなどの現代科学の重要概念について一定のイメージを持ち、それを他者に説明できる。 3. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見を持ち、それを他者に説明で

	きる。
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方
成績評価（合格基準60	課題提出状況（65%）および最終評価試験の点数（35%）によって評価する。
関連科目	他の科学技術教育科目
教科書	特になし
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・Momo-campusで出題した確認テストは自動採点され結果がフィードバックされる。Momo-campus経由で出された意見・質問については、Momo-campus上で回答するとともに、主なものは次の講義で紹介するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	探究活動 (FES1X110)
英文科目名	Investigation Activities I
担当教員名	紙田路子(かみたみちこ), 山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、観察の視点の持ち方や事象へのアプローチの方法を、事例を基にして説明する。 (全教員)
2回	標本作製の目的や手順を十分に理解した上で、本キャンパス内の木本植物で葉の標本作製を行う。 (全教員)
3回	十分に乾燥させた標本を冊子にし、葉の特徴や標準和名・学名等を記載した後、フィールドに出て実際の植物の外観を観察する。 (全教員)
4回	キャンパス内で観察される木本植物を選択し、その植物についての解説をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。 (全教員)
5回	地域調査、およびフィールドワークの意味を理解し、追求するテーマを設定する。調査活動についての計画の立案をする。(場所、データ収集の観点、準備物等) (全教員)
6回	計画をもとにフィールドワークを行う。 (全教員)
7回	グループごとにフィールドワークの結果を地図にまとめ、発表する。(ワークショップ形式) (全教員)
8回	フィールドワークと実地調査を振り返り探究活動の意義について話し合う。最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	第2回までに両担当の講義概略を確認しておくこと。(60分)
2回	第2回の準備物として水彩画用の平筆または大筆、木工用ボンド、新聞紙1枚が必要。植物図鑑でキャンパス内の植物が大まかに同定できるようにしておくこと。(60分)
3回	第4回のプレゼンテーションに備えて、最低5本のTEDを視聴し、学習した点を記録すること。(60分)
4回	木本植物をあらかじめ決定しておき、第4回のプレゼンテーションの準備を十分に行うこと。(60分)
5回	フィールドワークの観点を設定できるように、岡山理科大学構内、および周辺の地図を概観しておくこと。(60分)
6回	第1回フィールドワークの目的やコース、収集すべき情報をグループで確認しておくこと。(60分)
7回	フィールドメモをもとに、フィールドノーツを作成すること。(100分)
8回	フィールドワークや実地調査の意義や手法、分析について復習しておくこと。(120分)

講義目的	教師に求められる実践的指導力は、科学的、客観的態度で物事の本質を追究し続ける力が基盤となっている。この授業では課題に気づき、考え、理解し、発信する学習サイクルを重視し、そのために必要な探究する力と言葉の力を培うための基礎能力をアクティブラーニングによって養うことを目標とする。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のE・C・Dに強く関与する)
達成目標	環境に恵まれた本学周辺エリアの自然・文化・歴史等について理解を深め、グループ単位で

	<p>ームを設定することができる。(E)</p> <p>観察や見学, 調査・討論などの他者と協同して問題を解決するための活動の方法や思考法を身につける。(C)</p> <p>グループ単位でプレゼンテーションを行い, 成果を共有するとともに批判的な視点から議論を深めることができる。(D)</p>
キーワード	探究する力・言葉の力
成績評価(合格基準60)	最終評価試験50%(主に達成目標1・2を評価), プレゼンテーション40%(主に達成目標2・3を評価), レポート10%(主に達成目標1を評価)により評価し, 総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	探究活動 A、探究活動 B、探究活動 C
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室、10F 山下研究室
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動 は主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の意義と基本的な方法を習得するための講義である。自ら進んで参加する姿勢をもって講義に臨むこと。 ・指導計画は受講状況により変更することがある。 ・講義中の録音, 録画, 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	教育心理学【月4水4】(FES2D110)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の概要について説明する。
2回	教育心理学の教育における位置づけと歴史について説明する。
3回	学習の過程(1): 外界からの情報を取り入れるまでの過程について説明する。
4回	学習の過程(2) S-R連合理論について説明する。
5回	学習の過程(3) 認知学習について説明する。
6回	動機・情緒・フラストレーションについて説明する。
7回	記憶のメカニズムと特徴について説明する。
8回	忘却のメカニズムについて説明する。
9回	心身の発達(1) 発達の規定要因について説明する。
10回	心身の発達(2) 発達の原理について説明する。
11回	発達段階について説明する。
12回	発達課題について説明する。
13回	発達がい概念や基礎について説明する。
14回	発達障がいのある生徒の援助について説明する。
15回	教育評価と学校におけるルールについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】学校教育の目的について、教育基本法、学校教育法を読んで考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校教育の目的について復習すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育心理学の位置付けについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育心理学の位置付けについて復習すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】感覚・知覚・認知について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】感覚・知覚・認知について復習すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】S-R連合理論について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】S-R連合理論について復習すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】認知学習について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習の理論や特徴について復習すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】動機・情緒・フラストレーションについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習の動機付けについて復習すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】記憶について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】記憶の理論と勉強の仕方について復習すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】忘却のメカニズムについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】忘却のメカニズムについて復習すること(標準学習時間120分)。
9回	【予習】発達の規定要因について予習すること(標準学習時間60分)。 【復習】発達の規定要因について復習すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】発達の原理について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達の原理について復習すること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】発達段階について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達段階について復習すること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】発達課題について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育における発達課題を整理しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】発達障がいについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障がいの種類や特徴について復習すること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】発達障がいの困難感について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】発達障がいがある生徒の支援について復習すること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】教育評価について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育評価と学校におけるルールについて復習すること(標準学習時間120分)。
16回	【予習】1回から15回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと(標準学習時間180分)

	0分)。
講義目的	本講義では、教育心理学の主な柱である、学習、発達、適応、評価のうち、学習と学習に関連する理論、発達障がいを含めた発達の諸特徴、そして、教育評価の理論を理解しながら、教育を効果的に行うための知識を習得することを目的とする。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B - 2にもっとも強く関与)
達成目標	学習や発達(発達障がいを含む)とはどのような概念かが理解できるようになる。 教育活動の効果的実践のための知識が理解できるようになる。 教育評価のやり方について理解ができるようになる。
キーワード	学習、発達、教育、評価、心理学
成績評価(合格基準60)	講義後の小テスト(40%)、最終評価試験(60%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育相談の理論と方法
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司(編著) / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の場で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。講義後の小テストは、次の回に解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育相談の理論と方法【月2水2】(FES3B210)
英文科目名	Theory and Approach of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 講義の概要について説明する。
2回	教育相談の歴史と位置付けについて説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アルペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の概要について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の歴史と位置付けについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談の歴史と位置付けを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションについて調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションについて復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を実際に試してみること(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】模擬面接を行なってみること(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】自閉症スペクトラム障がいについて調べておくこと(標準学習時間60分)。1回から1

	5回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学ぶことで、カウンセリングマインドの理解を目指す。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-2にもっとも強く関与）
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解できるようになる。 適切な相談・助言について理解できる。 カウンセリングマインドについて理解できる。
キーワード	教育、相談、発達障害、カウンセリング、カウンセリングマインド
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。
試験実施	実施する

科目名	教育相談の理論と方法【月3水3】(FES3C210)
英文科目名	Theory and Approach of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 講義の概要について説明する。
2回	教育相談の歴史と位置付けについて説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アルペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の概要について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の歴史と位置付けについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談の歴史と位置付けを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションについて調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションについて復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を実際に試してみること(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】模擬面接を行なってみること(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】自閉症スペクトラム障がいについて調べておくこと(標準学習時間60分)。1回から1

	5回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学ぶことで、カウンセリングマインドの理解を目指す。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-2にもっとも強く関与）
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解できるようになる。 適切な相談・助言について理解できる。 カウンセリングマインドについて理解できる。
キーワード	教育、相談、発達障害、カウンセリング、カウンセリングマインド
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法【月1集中】(FES5A310)
英文科目名	Theory and Approach of Special Activities
担当教員名	尾島卓*(おじまたく*), 松田智子*(まつだともこ*)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (尾島 卓*)
2回	学校教育課程の構造と特別活動の役割 (尾島 卓*)
3回	教育実践の歴史性と特別活動の役割 (尾島 卓*)
4回	特別活動の目標と内容1:学級活動の教育的意義 (尾島 卓*)
5回	特別活動の目標と内容2:生徒会活動の教育的意義 (尾島 卓*)
6回	特別活動の目標と内容3:学校行事の教育的意義 (尾島 卓*)
7回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義1:人間関係の現状を中心に (尾島 卓*)
8回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義2:人間関係の現状を中心に (尾島 卓*)
9回	特別活動の歴史的変遷1:学習指導要領の変遷 (尾島 卓*)
10回	特別活動の歴史的変遷2:H29学習指導要領を中心に (尾島 卓*)
11回	学級活動の理論の具体化について (松田 智子*)
12回	生徒会活動の理論の具体化について (松田 智子*)
13回	学校行事の理論と具体化について (松田 智子*)
14回	学校行事と地域との関連の具体化について (松田 智子*)
15回	特別活動が学校教育での果たす役割を实践面でまとめる (松田 智子*)

回数	準備学習
1回	以下の観点から被教育体験を想起しておく。

	義務教育段階の学校生活のうち最も心に残っている教科学習以外の体験
2回	教科書5～19ページを事前に読んでおくこと。
3回	第2回配付資料を事前に読んでおくこと。
4回	教科書24～28ページを事前に読んでおくこと。
5回	教科書29～32ページを事前に読んでおくこと。
6回	第5回配布資料を事前に読んでおくこと。
7回	第6回配布資料を事前に読んでおくこと。
8回	第7回配布資料を事前に読んでおくこと。
9回	第8回配布資料を事前に読んでおくこと。
10回	インターネットを利用して、次期小学校学習指導要領の特別活動を一読しておくこと
11回	教科書の実践編の学級活動の指導案について 目を通し自分ならどうするかを考えること
12回	教科書の実践編の児童会（生徒会）活動の 指導案に目を通し自分の考えをもっておくこと
13回	教科書の実践編の学校行事の指導案について 目を通し目標と関連付けて考えをもつこと
14回	中等：地域との連携の具体例を持ってくる
15回	教科書の理論編を読んでくる

講義目的	本講では、特別活動についての基礎的知識を習得し、学校教育の中でどのように展開するのか、どのような意義を持ち、どのような課題があるのか、生徒にどのような力を備えさせるべきかを学習する。特に、特別活動の内容の中で、その中核的な役割を果たしている「学級活動」を具体的に指導できる担任としての実践的力量を習得することに留意する。
達成目標	(1) 特別活動の意義と役割、目標を理解する。 (2) 特別活動の内容と特質を理解する。 (3) 学級経営の視点から、生徒の発達特性や社会文化の変化について理解する。 (4) 特別活動の具体的な活動を理解する
キーワード	
成績評価（合格基準60	合格基準は60点とする。配点は、講義出席50%、講義中に課す小レポート20%および最終レポート30%の割合で評価する
関連科目	
教科書	ERP出版 コードISBN978-4-907104-43-6 2018年年2月 800円 特別活動の指導法—各教科、道徳、総合的な学習の時間の連携を通して— 著者 松田智子、新川靖、林真太郎
参考書	船越勝・宮本誠貴他『共同グループを育てる 今こそ集団づくり』クリエイツかもがわ、2002年（2200円）。 篠崎純子・溝部清彦『子どもとの対話に強くなる がちゃがちゃクラスをガラッと変える』高文研、2006年（1300円） 湯浅恭正『困っている子と集団づくり』クリエイツかもがわ、2008年（1905円）
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	英米文学概論 (FES5B110)
英文科目名	Introduction to English and American Literature
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英米文学の特質を紹介した後、(英)古英語と中英語の文学(『ベオウルフ』、チャーター)について解説する。
2回	(英)シェイクスピアの四大悲劇、史劇を概観する。
3回	(英)中世の詩人たち、とくに形而上派詩人の特徴を紹介する。
4回	(英)小説の誕生の背景となる市民社会の成立と、作品について解説する。
5回	(英)ロマン主義の成立の背景事情、革命と詩、自然観の変化について解説する。
6回	(米)アメリカン・ルネッサンスに特有の神秘的人間観・人間性の肯定と、作品について解説する。
7回	(米)アメリカン・ルネッサンスの代表的作品を、「罪」を核にした人間観から解説する。
8回	(英)ビクトリア朝の文学に見られる、社会への批判意識を中心に作品を解説する。
9回	(米)リアリズムの文学に見られる、現実への関心を反映した作品を解説する。
10回	(英・米)モダニズム文学における革新的芸術運動と、背景にある戦争、人間観の変化について解説する。
11回	(米)ロスト・ジェネレーションの文学について、第一次世界大戦後の文学及び繁栄とその影という二面性に基つき作品を解説する。
12回	(米)第二次世界大戦後の価値観が多様化した社会を反映する文学を、さまざまな作家たちを通して解説する。
13回	(米)第二次世界大戦後の価値観が多様化した社会を反映する文学を、階級と性差を超えてという観点から解説する。
14回	(英・米)現代詩の世界について、独自の秩序の構築を目指す詩人たちを中心に解説する。
15回	(英・米)同時代の文学について、現在の英米文学及び英語圏文学の現状を中心に紹介する。
16回	論述形式による最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	英米文学の代表的作品について、自分の読んだことがあるものを思い出し、その内容を考えておくこと。(標準学習時間30分)
2回	初期の英文学の特徴について復習し、シェイクスピアの作品の概要を配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
3回	シェイクスピアについて復習し、形而上派詩人の作品の抜粋を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
4回	形而上派詩人について復習し、小説の勃興の背景について配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
5回	小説の成立事情について復習し、ロマン派詩人の概要を配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
6回	ロマン派詩人の特徴を復習し、アメリカン・ルネッサンスの特徴をイギリスと対比させて把握しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	アメリカン・ルネッサンスの特徴を復習し、代表的作品について抜粋を読んでおくこと。(標準学習時間30分)
8回	アメリカン・ルネッサンスの代表的作品の意義について復習し、ビクトリア朝文学の概要を配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
9回	ビクトリア朝文学の特徴について復習し、リアリズム文学について特徴を配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
10回	リアリズム文学の特徴について復習し、モダニズム文学の成立事情について配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
11回	モダニズム文学について復習し、ロスト・ジェネレーションとの連続性について配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	ロスト・ジェネレーションの特徴について復習し、人種という問題について配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)
13回	文学と人種問題について復習し、階級と性差について概要を配布物に基つき把握しておくこと。(標準学習時間30分)

	標準学習時間30分)
14回	階級と性差について復習し、現代詩の抜粋を読んでおくこと。(標準学習時間30分)
15回	現代詩の特徴について復習すること。これまでの講義内容を振り返っておくこと。(標準学習時間30分)

講義目的	英米文学研究の基礎となる、作家の人生や作品の概略を始めとする文学史の諸知識を、背景となる歴史とのかかわりのなかで把握することを目的とする。イギリスとアメリカを中心とするが、その他の英語圏文学も言及の対象とする。イギリスとアメリカそれぞれの文学を別箇の存在とみなさず、双方を融合して経時的に通史として扱う。(中等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する。)
達成目標	文学を通して、語学力の向上と英米史の基本的知識を得ることが目標である。英米文学の作家・作品についての基本知識の修得、ならびに文学作品の原文からの抜粋を積極的に用いることによる英語力そのものの向上の双方を期する。この授業は、「文学作品の原文そのものを読む」態度を重視し、作家・作品についての概要、文学と社会との関係、英語を読むことという3点を基本とする。
キーワード	イギリス文学、アメリカ文学、文学と社会
成績評価(合格基準60)	毎回の授業時に課す小テスト(30%)、最終評価試験(50%)、長篇小説についての小論文(20%) 評価の観点: 英語の解釈力(小テスト)、文学史についての知識(最終評価試験)、作品の理解(小論文)
関連科目	2年次で、「英米文学史」、「英米文学講読」の双方を履修することが望ましい。
教科書	21世紀から見るアメリカ文学史 アメリカニズムの変容 / 早瀬博範 / 英宝社 / 9784269520073 : イギリス文学史 / 川崎寿彦 / 成美堂 / 9784791934034
参考書	イギリス文学: 川崎寿彦, 『イギリス文学史』成美堂, 1988年. アメリカ文学: 亀井俊介, 『アメリカ文学史講義』全3巻, 南雲堂, 1997年.
連絡先	A1号館 10階 香ノ木研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による論述形式とする。具体的な問題形式や試験時の参照物件等は、初回の講義時に説明する。講義資料は講義時のみに配付し、後日の配付はしない。講義中の録画・録音や撮影は認めない。毎回の提出課題は、4回分をまとめて返却する。
試験実施	実施する

科目名	日本語学概論 (FES5B120)
英文科目名	Introduction to Japanese Linguistics
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	日本語と国語の違いについて、説明する。日本語とはどんな言語か、形態的に、系統的に、説明する。
2回	言語とは何かについて、説明する。言語の起源について説明する。
3回	記号体系としての言語の枠組と言語表現との関係を説明する。
4回	発達とことばについて、説明する。ことばの習得のプロセスについて、説明する。
5回	幼児語の特色について、説明する。
6回	幼稚園児の日記にみる言語発達 (語彙、表記、基本文法) について、説明する。
7回	少年期の言語発達 (日本語の脈絡と要素) について、説明する。
8回	青年期の言語表現 (心象の表現と意味) について、説明する。
9回	言語表現と場 (脈絡、状況) との関係について、説明する。
10回	ことばの単位 (語構成、連語) について、説明する。
11回	音声と音韻について、説明する。
12回	音節と単音 (母音、子音) について、説明する。
13回	アクセントの特色について、説明する。
14回	漢字の受容と仮名の成立、漢字の音・訓について、説明する。
15回	異字同訓、熟字訓について、説明する。
16回	評価試験を実施し、試験後に解説する。

回数	準備学習
1回	日本語と国語の違いについて、考えてみること。(標準学習時間60分)
2回	ことばとは何かについて、考えてみること。(標準学習時間60分)
3回	広い意味での記号にはどのようなものがあるか、考えてみること。(標準学習時間60分)
4回	ことばを習得する場面について、考えてみること。(標準学習時間60分)
5回	幼児語を五語、探してみること。(標準学習時間60分)
6回	第5回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
7回	第6回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
8回	第7回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
9回	第8回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
10回	第9回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
11回	第10回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
12回	第11回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
13回	第12回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
14回	第13回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
15回	第14回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	ことばの本質を踏まえた日本語の特質について、考察する。発達の観点から、ことばの習得について理解し、幼児期・少年期・青年期における言語表現を資料として、基本的な語彙・文法・表現などについて、考察する。さらに、表現と場、ことばの単位、音声と表記などについて、探究する。(ディプロマポリシーAに対応する。)
達成目標	ことばの起源、記号体系としての言語の枠組、場(脈絡、状況)を踏まえた言語表現・理解を目標とする。本講義はディプロマポリシーA、B、Dに該当する。ことばの習得と発達、意味と文法、語彙体系、ことばの単位、日本語の音声・表記の特色などについて、理解する。
キーワード	膠着語、記号体系、三項関係、幼児語、表現の場、意味、語構成、形態素、語基、接辞、音声、音韻、音節、拍、単音、音素、有声音、無声音、母音三角形、高低アクセント、アクセント型の対応、六書、熟字訓、異字同訓、万葉仮名、ローマ字ヘボン式
成績評価(合格基準60)	課題20%、定期試験80%により評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	「日本語文法」「日本語表現」「国語科内容論A」「国語科教材分析・開発演習A」
教科書	金田一春彦(1988)『日本語新版(上)』『日本語新版(下)』岩波新書

参考書	沖森卓也ほか『図解日本語』三省堂、築島裕（1964）『国語学』東京大学出版会 『ことばの知識百科』（2005）三省堂、小池清治ほか（1997）『日本語学キーワード事典』朝倉書店 小池清治・河原修一（2005）『語彙探究法』朝倉書店
連絡先	A1号館9階910研究室（直通電話086-256-9774、eメールkawahara@ped.ous.ac.jp）
注意・備考	国語辞典（電子辞書可）を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	国語科教育法 (FES5B210)
英文科目名	Teaching of Japanese I
担当教員名	札埜和男(ふだのかずお)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	主に現場での国語科の授業開きの内容、意義、方法について説明する。
2回	国語科教育と国語教育の違いや、国語科学習指導要領の目標・内容・全体構造について説明する。
3回	国語科教育観の変遷に触れながら、国語科学習指導要領とPISA型読解力の関係について説明する。
4回	国語科教育と「主体的・対話的・深い学び」(アクティブ・ラーニング)の関係性について、実践を念頭に置きながら説明する。
5回	国語科学習指導要領と教科書および検定制度の関連について説明する。
6回	学習指導要領を踏まえながら、中学国語と高校国語の違いについて説明する。
7回	「国語」と「日本語」の違いについて説明する。
8回	共通語と方言、話し言葉と書きことばや授業での取扱いについて説明する。
9回	言語事項の授業実践例や模擬授業化について考える。
10回	文学教材の内容分析、指導方法、教材研究の方法、授業実践例について説明する。
11回	説明的文章教材の内容分析、指導方法、教材研究の方法、授業実践例について説明する。
12回	詩歌教材の内容分析、指導方法、教材研究の方法、授業実践例について説明する。
13回	古典作品(古文・漢文)教材の内容分析、指導方法、教材研究の方法、授業実践例について説明する。
14回	話すことや書くこと(作文・小論文)の指導法や実践例などについて説明する。
15回	学習指導案作成の留意点を押さえながら、これまでの講義のまとめを行う。

回数	準備学習
1回	中学校・高校時代に受けた最も印象に残る国語の授業やその際の授業開きについて整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	国語科学習指導要領解説や紹介した文献に目を通しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	PISA型読解力について予習しておくとともに紹介した文献に目を通しておくこと(標準学習時間60分)
4回	紹介しておいた文献に目を通しつつ「主体的・対話的・深い学び」とは何か自分なりに考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	紹介しておいた文献に目を通しつつ教科書検定制度について調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自身の経験をもとに、中学校での国語の授業と高校での国語の授業の違いを整理しつつ、中学と高校の教科書を見ながら国語科学習指導要領を一通り読んでおくこと。(標準学習時間60分)
7回	紹介しておいた文献に目を通しつつ「国語」と「日本語」の違いについて考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	紹介しておいた文献に目を通しつつ「共通語」と「方言」についてその役割について考えておくこと。(標準学習時間60分)
9回	紹介しておいた文献に目を通しつつ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
10回	文学教材の授業実践例についてあらかじめ調べ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
11回	説明的文章教材の授業実践例についてあらかじめ調べ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
12回	詩歌教材の授業実践例についてあらかじめ調べ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
13回	古典教材の授業実践例についてあらかじめ調べ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
14回	これまでの授業実践例をあらかじめ調べ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
15回	これまでの授業内容をおさらいして、重要なポイントを整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	国語科教員はどのようにして「ことば」に向き合うのか、
------	----------------------------

	「国語とは何か」を常に考える姿勢を持ち続ける必要がある。 その基本的な姿勢を身につけることが目的の1つである。 さらに、将来の「ことば」の専門家としての国語科教育の担い手になるために、 国語科の指導法の基礎を身につけることも目的の1つである (本科目はカリキュラムポリシーのうち「日本語表現および指導法」の修得を目的とする)。
達成目標	国語科教育に関する基本的知識とスキルを持つことができる。 学習指導要領について基本的な知識を得て理解することができる。 国語科教員を目指す者としてことばに対する問題意識を持つことができる。 本科目はディプロマポリシーのうち(C)(A)に相当する。
キーワード	国語・日本語・国語科・国語科教育・学習指導要領・アクティブラーニング
成績評価(合格基準60)	授業ごとの提出課題50%。最終レポート課題50%。
関連科目	国語科教育法 . . . を続けて履修することが望ましい。
教科書	中学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/東洋館出版社/978-4491-034-706 高等学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/出版社未定
参考書	国語教育を学ぶ人のために /1995/ 糸井通浩, 植山俊宏編/世界思想社/479070 579X 高等学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/教育出版/978-4-316-30021-4 検定教科書/現代の国語2/三省堂/978-4-385-70519-4 検定教科書/精選国語総合新訂版/大修館書店/978-4-469-623192 ほか、適宜授業中に紹介する。
連絡先	fudano@ped.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループディスカッション等を行う。 ・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・学生の理解度により内容、進度、順番を調整・変更することがある。また講義内容によってはゲストを招いて行うことがある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので事前に相談すること。 ・提出課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを心がける。
試験実施	実施しない

科目名	英語科教育法 (FES5C210)
英文科目名	Teaching of English I
担当教員名	坂本南美(さかもとなみ)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語科教育法とは何か、英語教育の実情について説明する
2回	英語教育の基本的問題を把握し、取り組みを説明する
3回	学習指導要領の理解を深める
4回	英語で授業を行うための工夫とクラスルームイングリッシュを解説する
5回	教材研究：教材を見る視点・教材を使う視点について解説する
6回	コミュニケーション能力を育成する活動について協議する
7回	小学校英語活動におけるコミュニケーション活動をもとに協議する
8回	英語科授業におけるコミュニケーション活動の模擬授業の発表をもとに協議する
9回	コミュニケーションの授業におけるコミュニケーション活動の模擬授業の発表をもとに協議する
10回	タスク中心の授業構成と4技能統合型の授業構成について模擬授業の発表をもとに協議する
11回	学習者要因：生徒・児童の発達段階に合わせて自律した学習者を育成するための支援について、模擬授業の発表をもとに協議する
12回	家庭学習の支援に向けた教材作りを解説する
13回	英語科の評価について解説する
14回	英語授業づくりで大切なこと：クラスルームコミュニティをどう作り上げていくかを協議する
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを行う
16回	1回～15回の総括を説明し、最終評価試験を実施する

準備学習	毎回の講義で中心となる内容の復習を行うこと 次時の授業で取り上げられる言葉や鍵概念、活動、教材について述べられるように予習し、準備しておくこと 活動発表の準備も丁寧に行うこと
講義目的	現在の日本の英語教育を理解するために、基本的な知識や授業実践について体得することを目的とする。 英語教師として授業をデザインするための実践的知識と指導技術を解説する。それらの学びを基にして、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となり、教壇で15分ほどの活動を模擬で行い、ディスカッションを行う。また、ポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師の礎を育てる。
達成目標	中学校・高等学校の英語科教員に必要な知識を身につける(A, C) 教育現場での実践的な英語指導法を身につける(A, D) 生徒に即した英語科活動デザインを行っていく力をつける(B, E) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語教育 / グローバル人材育成 / コミュニケーション能力 / 学習支援
成績評価(合格基準60)	定期試験による評価50%、模擬授業をルーブリックで評価25%、提出課題による評価50% ・評価の観点：理論的知識と実践との往還ができている 実際の英語授業における応用ができている
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法
教科書	小学校英語活動資料『Hi, friends!』 巻, 巻 / 東京書籍：中学校英語教科書『New Crown』(1, 2, 3年生用) / 三省堂：高等学校英語教科書『UNICORN - English Communication -』 / 文英堂
参考書	『学習指導要領』文部科学省のサイトを参照
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションや発表を行う 講義資料は授業で配布する
試験実施	実施する

科目名	英語科内容論 B (FES5C310)
英文科目名	English as a Subject B
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語科教育と文学について、具体的事例を示しながら講義する。
2回	文学批評の成立と方法論について講義する。19世紀末になって文学を批評するという概念が誕生した背景と、批評の方法論の変遷の概要について紹介する。
3回	19世紀末から20世紀初頭の思想界の激変について講義する。とりわけ、フロイトと第一次世界大戦とが及ぼした影響が、文学批評にいかに関係したかについて紹介する。
4回	「ニュークリティシズム」の方法論と成立背景について講義する。作品を作者から切り離す批評が生まれた背景について論じた後、具体的に作品を解釈する方法を紹介する。
5回	中等英語科教材に対する「ニュークリティシズム」的読解の可能性について、受講する学生間で議論し、結果について簡単な発表を行う。
6回	「精神分析批評」の方法論と成立背景について、具体的な作品をもとに解釈の実例を示しながら講義する。
7回	中等英語科教材に対する「精神分析批評」的読解の可能性について、具体的解釈の方法を紹介する。
8回	「ニュークリティシズム」と「精神分析批評」に基づく作品解釈の発表と意見交換を学生間で行い、簡単な発表をする。
9回	「フェミニズム批評」の方法論と成立背景について講義する。
10回	中等英語科教材に対する「フェミニズム批評」的読解の可能性について、具体的作品に基づきながら講義する。
11回	「ポストコロニアリズム批評」の方法論と成立背景について講義する。
12回	「ポストコロニアリズム批評」と「エコクリティシズム」の連続性について、具体的作品の解釈を交えつつ講義する。
13回	「フェミニズム批評」に基づく作品解釈の発表と意見交換を学生間で行い、簡単な発表をする。
14回	「ポストコロニアリズム批評」と「エコクリティシズム」に基づく作品解釈の発表と意見交換を学生間で行い、簡単な発表を行う。
15回	英語科教材の読解における方法論と社会的関心の重要性について、これまでの内容を振り返りながら講義する。
16回	定期試験(論述形式)を行う。

回数	準備学習
1回	中等高等学校での自身の受けた英語の授業で物語が使われていたかどうか、振り返っておくこと。(標準学習時間15分)
2回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	事前配付資料に基づき、作品の解釈について自身の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	事前配付資料を熟読しておくこと。作品の解釈について、自身の考えをまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	事前配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	作品の解釈について、自身の考えをまとめておくこと。(標準学習時間90分)
14回	作品の解釈について、自身の考えをまとめておくこと。(標準学習時間90分)
15回	これまでの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	ニュークリティシズム、精神分析批評、フェミニズム、ポストコロニアリズム、エコクリティシズ
------	--

	<p>△等の文学批評の基本概念を学ぶ。物語や小説などを精読するだけでなく、批評によって作品中の主題が明らかになることを、いくつかの文学作品を例に探る。鑑賞の手段としての批評の方法論を意識することの重要性について学生間で意見交換をすすめ、中等英語科教員としての幅を広げるための土台とする。（中等教育学科英語教育コース卒業認定・学位授与方針 A, D に強く関連する。）</p>
達成目標	<p>中等教育における英語科の授業で論説文を扱う際に、鑑賞の手段としての批評の方法論を意識することの重要性を理解する。英米文学の批評に関する代表的な方法論の主題の変遷が、いかに社会思潮に密着したものであるのかを検証することをテーマに、英語科教員として把握すべき教材の特質について理解を深めることを目標とする。</p>
キーワード	<p>文学批評 文学と社会 文学と歴史</p>
成績評価（合格基準60	<p>論述試験(60%)、授業時の発表内容(40%)により評価する。評価の観点：個々の批評の方法論への理解、ならびに独創性と論の展開力（論述試験）。発表内容が理論的解釈の基礎を踏まえていること。</p>
関連科目	<p>「英米文学概論」「英米文学史」「英米文学講読」を履修していることが望ましい。</p>
教科書	<p>指定せず、ハンドアウトを配付する。当該授業時間以降の配付はしない。</p>
参考書	<p>テリー・イーグルトン著 大橋洋一訳、『文学とは何か 現代批評理論への招待』新版，岩波書店，1997年。（岩波文庫版あり）</p>
連絡先	<p>A1号館10階 香ノ木研究室</p>
注意・備考	<p>アクティブラーニング（グループディスカッション、レスポンスシート）を取り入れる。最終試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による論述形式とする。具体的な問題形式や試験時の参照物件等は、初回の講義時に説明する。講義資料は講義時のみに配付し、後日の配付はしない。講義中の録画・録音や撮影は認めない。提出課題は4回分をまとめて返却する。</p>
試験実施	<p>実施する</p>

科目名	国語科内容論B (FES5C320)
英文科目名	Japanese as a Subject B
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 概説1 (時代背景・歌物語・成立・作者・在原業平) をする。
2回	概説2 (書名・伝本・内容と構成) をする。 担当段と日程の調整をする。
3回	モデルとして初段 初冠の演習を行い、資料作成の方法、発表の仕方等を説明する。参考文献を紹介する。
4回	第4段 月やあらぬ の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
5回	第5段 関守 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
6回	第6段 芥川 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
7回	第9段 東下り の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
8回	第23段 筒井筒 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
9回	第24段 梓弓 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
10回	第40段 すける物思ひ の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
11回	第45段 行く蛸 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
12回	第69段 狩の使ひ の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
13回	第82段 渚の院 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
14回	第83段 小野の雪 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。
15回	第84段 長岡の母、第125段 つひに行く道 の演習 (受講者が2~3人で担当し発表、質疑応答) を行う。 総まとめ

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	テキストの概説を読んで内容を理解しておくこと。【標準学習時間120分】
3回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
4回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
5回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
6回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
7回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
8回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
9回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
10回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。 担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
11回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
12回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。 担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
13回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
14回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
15回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】

講義目的	定番教材である『伊勢物語』を演習形式で読む。歌物語の特色を理解した上で、簡潔な文章と和歌からなる原文を丁寧に読み解くことにより、人間の愛情の種々相をいかに描いているか、昔男業平はどのように描かれているか、作品の魅力はどこにあるのかを理解する。その上で教材研究の要点や指導上の工夫を身につけ、古文教材としての意義と可能性を探っていく。本科目はカリキュラムポリシーのうち、「歴史・文化、幅広い教養」の獲得を目的とする。
達成目標	原文を声に出して正しく読み、古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 参考文献を用いて各段の内容を理解し、説明できる。 教材としての理解を持ち、古文の授業で適切に指導できる。 本科目はディプロマポリシーのうち、Bに相当する。
キーワード	古文、歌物語、伊勢物語、在原業平、教材研究
成績評価（合格基準60	演習 資料作成・発表・質疑応答（70%）、レポート(30%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	国語科教育法 ～ 、日本文学概論、日本文学史、日本文学（古典）、国語科教材分析・開発演習B
教科書	新校注 伊勢物語 / 片桐洋一・田中まき / 和泉書院 / 2016 / 978-4757607958
参考書	新編日本古典文学全集12『伊勢物語他』 / 小学館 / 1994 / 978-4096580120 新潮日本古典集成『伊勢物語』 / 新潮社 / 2017 / 978-4106208096 片桐洋一 / 伊勢物語全読解 / 和泉書院 / 2013 / 978-4757606906
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 E-Mail: yamasaki_ped.ous.ac.jp (@)
注意・備考	古語辞書(電子辞書可)を毎回持参すること。 演習なので受講者数により進度や内容が変更することもある。 訂正した演習資料を再提出させる。検印の上、コメントを付して返却する。 講義中の録音のみ個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	教育行政学 (FES5D210)
英文科目名	Education Administration
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育行政とは何かを説明する。
2回	2つの公教育思想－国家主義型と自由主義型－を紹介する。
3回	西欧諸国における義務教育制度の成立過程を概説する。
4回	日本教育行政小史1 戦前の教育行政を概説する。
5回	日本教育行政小史2 戦後改革と教育行政を概説する。
6回	教育行政と教育法規の関連を概説する。
7回	日本国憲法の教育条項と教育基本法を概説する。
8回	これまでのまとめと中間テストをする。
9回	現代教育行政の基本原則を概説する。
10回	中央教育行政の組織と機能を概説する。
11回	地方教育行政の組織と機能を概説する。
12回	学校の管理と運営1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。
13回	学校の管理と運営2 教育課程の法制及び学校の安全と保健について概説する。
14回	教職員の種類と職務及び教員免許について概説する。
15回	教員の任免、服務及び研修について概説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】試験の準備をすること(標準学習時間180分)。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
16回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度
------	---

	<p>の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。</p> <p>(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与)</p>
達成目標	<p>近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。</p> <p>欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握する。</p> <p>明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解する。</p> <p>憲法や教育基本法の教育条項を理解する。</p> <p>文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握する。</p> <p>学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員の服務・研修についての基本的な事柄を把握する。</p>
キーワード	公教育、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営
成績評価(合格基準60)	提出課題20%、中間テスト20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育学原論、教育史
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比兎 / 大学教育出版 / 9784864293006
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第8回で実施する中間テストについて、第9回の授業で正答例を示しながら解説する。教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	国語科内容論C (FES5D310)
英文科目名	Japanese as a Subject C
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 国語科における漢文学について論じる。
2回	遣唐使以前の漢文学の受容について論じる。
3回	平安時代の漢文について論じる。
4回	平安時代の漢文について論じる。
5回	和歌と漢文について論じる。
6回	鎌倉時代の漢文について論じる。
7回	室町時代の漢文について論じる。
8回	戦国時代の漢文について論じる。
9回	江戸時代の漢文教育について論じる。
10回	江戸時代の漢文について論じる。
11回	江戸時代の漢文について論じる。
12回	明治以後の漢文教育について論じる。
13回	戦後以降の漢文教育について論じる。
14回	明治以降の文学と漢文について論じる。
15回	講義のまとめを行う。
16回	期末試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。【30分】
2回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
3回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
4回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
5回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
6回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
7回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
8回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
9回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
10回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
11回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
12回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
13回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
14回	事前に示された課題・調べ物を行ってこよう【120分】
15回	これまでの学習を総括しておくこと。【60分】
16回	試験に備えて準備しておくこと。

講義目的	本講義では、日本における漢文学受容の歴史を通じて、我が国の国語及び国語教育における漢語 = 漢文学の重要性を学ぶ。また、日本漢文学史を学ぶことで、国語学史の重要な一側面を補うとともに、日本漢文教材開発のための基礎知識を習得する。 本講義はカリキュラムポリシーのうち、B・C・Dに該当する。
達成目標	日本漢文学史の知識を得る。 日本語の形成や特質を学ぶ。 多様な漢文資料に通暁する。 本講義はディプロマポリシーのうち、A・B・Cに該当する。
キーワード	漢学 中国学 日本漢文学史 漢文教育 日本教育史 日本語史
成績評価 (合格基準60)	小テスト・課題30%、期末試験70% 合計60点未満は不可とする
関連科目	漢文学概論 漢文学 漢文学 日本文学史
教科書	使用しない

参考書	<p>中国文化叢書 日本漢学 / 水田 紀久・頼 惟勤 / 大修館書店 / 1968年 : 中国文化叢書 日本文化と中国 / 尾藤 正英 / 大修館書店 / 1968年 : 日本漢文学史 / 戸田 浩暁 / 武蔵野書院 / 1995年 : 日本漢文学史 / 岡田 正之 / 吉川弘文館 / 4-642-08516-5 : 日本漢文学史概説 / 市川 太一郎 / 大安 / 1969年 : 日本漢文学史 / 猪口 篤志 / 角川書店 / 1984年 : 菅原道真と平安朝漢文学 / 藤原 克己 / 東京大学出版会 / 4-13-080064-7 : 日本の古典と漢文学 / 金原 理 / 熊本出版文化会館 / 978-4-915796-78-4 : 上代漢詩文と中国文学 / 波戸岡 旭 / 1989年 : 平安朝漢詩文の研究 / 金原 理 / 九州大学出版会 / 1981年 : 平安朝の漢文学 / 川口 久雄 / 吉川弘文館 / 1981年 : 東瀛詩選 / 兪 樾 / 中華書局 / 978-7-101-11501-7 : 思想史の中の日本語 / 中村 春作 / 勉誠出版 / 978-4-585-21041-2 :</p> <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>
連絡先	<p>A 1号館 9 F 奥野研究室(912) Mail: okuno_ped.ous.ac.jp (@)</p>
注意・備考	<p>予習必須。 授業資料は授業開始時に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。 学生のレベル・理解度に応じて、内容や進度を変更することがある。</p>
試験実施	実施する

科目名	現代人とことば (FES5E110)
英文科目名	Present-day People and Their Words
担当教員名	河原修一(かわはらしゅういち), 奥西有理(おくにしゆり), 山崎桂子(やまさきけいこ), 地村彰之(ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣(こうのきたかおみ), 奥野新太郎(おくのしんたろう)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「現代人とことば」について、担当教員がそれぞれ内容を紹介し、共通するテーマを確認し、講義の概要や評価について説明する。質疑応答を含む。 (全教員)
2回	日本語の語彙に、和語、漢語、外来語、混種語の四種類があり、それぞれ場面に応じて使い分けられていることを説明する。 (河原 修一)
3回	日本語の語彙には、人間関係、生活感情、世相を示す敬語、方言、流行語があり、それぞれ場面に応じて使い分けられていることを説明する。 (河原 修一)
4回	日本語には、内面を表すことばと外界を表すことば(他者の内面を推測することばを含む)があることを説明する。 (河原 修一)
5回	現代に生きる古典として「いろはかるた」を取り上げ、それぞれの札のことわざ・たとえの真意・意味のゆれを時代背景とともに解説する。 (山崎 桂子)
6回	処世訓や生活の知恵を機知に富んだことばと絵で表す「平成のいろはかるた」を作成し、発表する。ワークショップ形式で行う。 (山崎 桂子)
7回	現代人と漢語表現(1) 古代漢語に由来する現代日本語の表現や語彙について論じる。 (奥野 新太郎)
8回	現代人と漢語表現(2) 古代漢語に由来する現代日本語の表現や語彙について論じる。 (奥野 新太郎)
9回	現代人の言語生活と英語(1)「日本語と英語の言葉と文化」について考察する。 (地村 彰之)
10回	現代人の言語生活と英語(2)「日本語と英語の語彙構造」について考察する。 (地村 彰之)
11回	現代人の言語生活と英語(3)「日本語の中の外来語」について考察する。 (地村 彰之)
12回	現代の日本文学と翻訳 「翻訳で残るものと失われるもの」について、村上春樹の小説を題材にして考察する。 (香ノ木 隆臣)
13回	現代の英語短詩型文学 「英米圏に定着した日本文学のかたち」について、俳句を題材にして考察する。

	(香ノ木 隆臣)
14回	現代人と日本的コミュニケーションについて考察し、ロールプレイを実施する。
	(奥西 有理)
15回	現代人と多文化コミュニケーションについて考察し、ロールプレイを実施する。
	(奥西 有理)

回数	準備学習
1回	現代人にとって、ことばはどのように関わるのか、それぞれ考えてみること。(標準学習時間60分)
2回	和語、漢語、外来語の複合語としての混種語(「桜(さくら)前線」「コーヒー豆(まめ)」「玄関マット」など)の例を十語探してみること。(標準学習時間60分)
3回	自分の出身地の方言、現代の流行語を三語ずつ(共通語での意味を含む)探してみること。(標準学習時間60分)
4回	自分の心情を表すことば(「楽しい」と他者の心情の推測を表すことば(「楽しそうだ」)の組合せを三例探してみること。(標準学習時間60分)
5回	「いろはかるた」について事前に調べ、概略を理解しておくこと。意味のわからない札については辞典等で調べてみること。(標準学習時間120分)
6回	いろは48文字の中から1文字を選び、ことば(字札)とふさわしい図柄(絵札)を考え、原案を作成して来ること。(標準学習時間60分)
7回	配付資料を熟読すること。(標準学習時間60分)
8回	配付資料を熟読すること。 前回の授業で課された課題をやってくること。 (標準学習時間120分)
9回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
10回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
11回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
12回	第11回目の講義で配付された資料を読んでおくこと。日本語と英語、それぞれの文章についての印象をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
13回	第12回目の講義で配付された資料を読んでおくこと。単語のもつ「イメージ」について考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
14回	第13回目の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	ことばは情報を整理し、発信し、理解する方法の一つであり、自己表現と他者受容による円滑な人間関係の構築には、場に応じたことばの運用能力が求められる。発見的感受性および論理的思考力を支えることばの重要性を理解し、「国語」「英語」指導のエキスパートを目指す。(国語教育コースのディプロマポリシーA・B、英語教育コースのディプロマポリシーD・Eに対応する)
達成目標	現代を生きる日本人の多様な生活の中で、日本語と英語がどのような場面や状況でどのように使われているのかを探究することによって、ことばの意義を理解した上で、その適切な運用能力の基礎を培う。
キーワード	語彙、語彙量、和語、漢語、外来語、混種語、敬語、方言、流行語、いろはカルタ、ことわざ、意味論、語彙構造、語形成、音韻変化、多文化コミュニケーション
成績評価(合格基準60)	小テストまたは小レポート(活動報告)により各担当者が評価した点数を合計し、60点以上を合格とする。3回授業担当者2人は各20点、2回授業担当者4人は各15点を満点として評価する。
関連科目	「比較言語文化論」(3年次)
教科書	使用しない。
参考書	担当教員が随時紹介する。
連絡先	A1号館9階 河原研究室、山崎研究室、奥野研究室 A1号館10階 地村研究室、香ノ木研究室、奥西研究室
注意・備考	国語辞典、漢和辞典、英和辞典等の辞書(電子辞書可)を各自用意すること。
試験実施	実施しない

科目名	教育行政学 (FES5E210)
英文科目名	Education Administration
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育行政とは何かを説明する。
2回	2つの公教育思想－国家主義型と自由主義型－を紹介する。
3回	西欧諸国における義務教育制度の成立過程を概説する。
4回	日本教育行政小史1 戦前の教育行政を概説する。
5回	日本教育行政小史2 戦後改革と教育行政を概説する。
6回	教育行政と教育法規の関連を概説する。
7回	日本国憲法の教育条項と教育基本法を概説する。
8回	これまでのまとめと中間テストをする。
9回	現代教育行政の基本原則を概説する。
10回	中央教育行政の組織と機能を概説する。
11回	地方教育行政の組織と機能を概説する。
12回	学校の管理と運営1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。
13回	学校の管理と運営2 教育課程の法制及び学校の安全と保健について概説する。
14回	教職員の種類と職務及び教員免許について概説する。
15回	教員の任免、服務及び研修について概説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
4回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
8回	【予習】試験の準備をすること(標準学習時間180分)。
9回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
12回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること(標準学習時間120分)。
16回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度
------	---

	<p>の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。</p> <p>(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与)</p>
達成目標	<p>近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。</p> <p>欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握する。</p> <p>明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解する。</p> <p>憲法や教育基本法の教育条項を理解する。</p> <p>文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握する。</p> <p>学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員の服務・研修についての基本的な事柄を把握する。</p>
キーワード	公教育、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営
成績評価(合格基準60)	提出課題20%、中間テスト20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育学原論、教育史
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比兎 / 大学教育出版 / 9784864293006
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第8回で実施する中間テストについて、第9回の授業で正答例を示しながら解説する。教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	国語科教育法 (FES5E310)
英文科目名	Teaching of Japanese III
担当教員名	札埜和男(ふだのかずお)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	シティズンシップを培うことを念頭に置きながら文学作品の模擬授業の準備を行う。
2回	シティズンシップを培うことを念頭に置きながら小説教材の模擬授業を行う。
3回	シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、メディアリテラシー・言語・情報に関する評論等の教材の模擬授業を行う。
4回	シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、科学・環境・社会といった現代的課題に関する教材の模擬授業を行う。
5回	シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、国際化・グローバル・文化といった現代的課題に関する教材の模擬授業を行う。
6回	シティズンシップを培うことを念頭に置きながら、平和・人権・生命といった現代的課題に関する教材の模擬授業を行う。
7回	古典(上古～中世の古文)、笑いや芸能といったテーマの古典教材の模擬授業を行う。
8回	古典(近世の古文、擬古典文)、笑いや古典芸能といったテーマの古典教材の発展的な模擬授業について考える。
9回	新しい実践研究動向として国語科における法言語教育(模擬裁判・憲法の条文等)について、教材を用いながらワークショップ的に展開する。
10回	新しい実践研究動向として国語科における主権者教育について、教材を用いながらワークショップ的に展開する。
11回	新しい実践研究動向として国語科における実用的な文章について、教材を用いながらワークショップ的に展開する。
12回	漢文に関する模擬授業を行う。
13回	地域方言や音声言語等の言語事項に関する模擬授業を行う。
14回	科目横断的な国語科の模擬授業を考える。
15回	教材の発掘や協同授業を念頭に置いて、臨床こくご学の理論に基づく模擬授業化を考える。

回数	準備学習
1回	国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら、模擬授業の構想を練ること。(120分)
2回	国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
3回	国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
4回	国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
5回	国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
6回	国語科におけるシティズンシップについて考えを巡らせながら模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
7回	模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
8回	授業実践例をあらかじめ調べ、どのように授業を発展させることができるか考えること。(120分)
9回	あらかじめ指定した文献を読んでおくこと。(60分)
10回	あらかじめ指定した文献を読んでおくこと。(60分)
11回	あらかじめ指定した文献を読んでおくこと。(60分)
12回	模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
13回	模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
14回	模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)
15回	指定された文献を予め読み、模擬授業の構想を練り、準備すること。(120分)

講義目的	国語の授業の営みは、言うまでもなく社会における活動の一つである。扱う内容も社会と関連している。一方で、国語科の教員は教材内容を社会と切り離して「国語科」の内容として
------	--

	<p>取り上げる傾向が見られる。国語科教育法 ・ が「基本」編とすれば、この講義は「応用」編にあたる。国語科は、市民として一人一人の思想や世界観の礎をつくる教科でもある。新しい学習指導要領にもあるように、社会生活とのつながりを意識し授業を創造していく「臨床こくご学」の理念や方法を説明しながら、社会とのつながりを意識し、「生活」の中のことばに着目する国語科教員の素養を培う内容としたい。</p> <p>(本科目はカリキュラムポリシーのうち「日本語表現および指導法」の修得を目的とする)</p>
達成目標	<p>授業をデザインし、実践できる基本的な力を身につける。</p> <p>国語科(教育)を社会の中で捉えて、授業を構想する力をつける。</p> <p>協同授業や臨床こくご学の理論を理解できる。</p> <p>(本科目はディプロマポリシーのうち(C)(A)に相当する)</p>
キーワード	模擬授業、シティズンシップ、協同授業、臨床こくご学、主体的・対話的・深い学び
成績評価(合格基準60)	授業中に指示した課題や発表内容(50%)及び最終レポート(50%)
関連科目	国語科教育法 ・ ・
教科書	<p>中学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/東洋館出版社/ 高等学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/出版社未定 検定教科書/現代の国語2/三省堂/978-4-385-70519-4 検定教科書/精選国語総合新訂版/大修館書店/978-4-469-623192</p>
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	fudano@ped.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループディスカッション等を行う。 ・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・学生の理解度により内容、進度、順番を調整・変更することがある。また講義内容によってはゲストを招いて行うときもある。 ・演劇的手法を用いたり、フィールドワーク等の体験実践型の方法を用いることもある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので事前に相談すること。 ・提出課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを心がける。
試験実施	実施しない

科目名	生徒・進路指導論 (FES5F210)
英文科目名	Student/Career Guidance and Counseling
担当教員名	松岡律 (まつおかただし)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション・・・中等教育における生徒・進路指導の特性を理解する。
2回	生徒理解の重要性と困難性・・・生育環境と思春期危機について理解する
3回	学校内における問題と指導・・・生徒 - 生徒、生徒 - 教師関係について理解する。
4回	学校外における問題と指導・・・校外における指導について理解する。
5回	保護者との関係性・・・思春期親子を取り巻く状況を考える。
6回	教育課程としての生徒・進路指導・・・組織づくり、計画・意識の共有について理解する。
7回	学校 - 地域連携の構築と生徒・進路指導・・・地域のサポートのあり方について理解する。
8回	学級経営と生徒・進路指導・・・個別指導と学級経営との相補的関係を理解する。
9回	個別面談による指導の実際・・・指示的指導・非指示的指導の利点と問題を理解する。
10回	関係諸機関との連携・・・教師の限界 (守備範囲) を知る。
11回	理想自己像と実社会との調停・・・職場体験学習機会の利用について理解する。
12回	中学校における指導の実例とポイント・・・「介入」と「受容」のバランスを理解する。
13回	高校における指導の実例とポイント・・・「進学か就職か」適正と可能性を見きわめる。
14回	教育相談の限界を知る・・・学校x 家庭x 社会の関係性から理解する。
15回	まとめ・・・生徒指導と進路指導の一体性を理解する。

回数	準備学習
1回	小学校との違いについて考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	心身の発達と家庭環境について考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	生徒と教師の関係性はどうあるべきか考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	教師の行う校外指導にどんなものがあるか整理しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	保護者との協調・トラブルについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	学校組織としての指導のあり方はどうあるべきか考えておくこと。(標準学習時間60分)
7回	どのような形の地域サポートがあり得るか、考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	集団指導と個別指導の特徴について調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	自身が経験した生徒指導面談について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	教師の職分について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11回	キャリア教育の意義について考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	中学生特有のトラブルについて考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	指導のポイントは何か、考えておくこと。(標準学習時間60分)
14回	社会における学校の位置づけについて考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	これまでの講義の内容をおさらいしておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	<p>中等教育段階では、生徒の身体発達と精神発達とのずれに由来する指導上の困難が多く発生する。身体的成長の分、問題がより深刻になることも少なくない。またこの時期は、進学や就職など、以降の人生をある程度方向づける重要な時期でもある。それゆえ中等段階における指導は、学校生活への適応だけでなく、大人社会への出立を支援する意図をもって行われる必要があり、教師は生徒の心の状態を常に理解し将来のキャリア形成に資する助言を適切に行えるよう配慮せねばならない。</p> <p>本講義では、思春期の生徒にどう対応すればいいのか、また自己実現に向けたサポートはどうあるべきかについて考えていく。</p> <p>(中等教育学科の学位授与方針：国語教育コースE、英語教育コースBに最も強く関与する)</p>
達成目標	<p>発達に応じた生徒への対応や学習指導との関連の理解、青年期特有の心の問題や家庭との連携および、キャリア開発に向けた中等段階における効果的な指導の在り方について深く理解する。</p>
キーワード	
成績評価 (合格基準60)	毎回の小レポート(50%)、および定期試験(50%)を総合評価する。
関連科目	

教科書	
参考書	・関根正明 『生徒指導担当教師のための教育相談基礎の基礎』 学事出版 ・柳井修 『キャリア発達論』 ナカニシヤ出版
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	日本文学概論 (FES5G110)
英文科目名	Introduction to Japanese Literature
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 文学とは何か(日本文学・古典文学・韻文・散文)概説する。三大和歌集(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)について解説する。
2回	万葉集の概略を述べた上で、代表歌数首 を取り上げ解説する。原文書写を行う。
3回	の続きの解説をする。 の復習小テスト
4回	古今和歌集の概略を述べた上で、代表歌数首 を取り上げ解説する。原文書写を行う。
5回	の続きの解説をする。 の復習小テスト
6回	新古今和歌集の概略を述べた上で、代表歌数首 を取り上げ解説する。原文書写を行う。
7回	の続きの解説をする。 の復習小テスト
8回	レポート提出 源氏物語への導入として、平安時代の恋と結婚について解説する。
9回	源氏物語のDVDを視聴し、源氏物語と紫式部について概説する。
10回	桐壺の巻 を読む。物語の舞台、登場人物について解説する。原文書写を行う。
11回	桐壺の巻 を読む。主人公光源氏の誕生と母桐壺更衣の死を物語のテーマ「母恋い」の観点から解説する。
12回	桐壺の巻 を読む。物語の伏線となる「高麗の相人の予言」を解説する。
13回	桐壺の巻 を読む。通過儀礼(袴着・読書始・元服)について解説する。
14回	桐壺の巻 を読む。藤壺の入内と光源氏の藤壺への思慕を解説する。
15回	第9～14回のまとめを行う。この後の物語の展開について概略を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	万葉集について調べておくこと。【標準学習時間120分】
3回	前回の復習をし、小テストの勉強をしてこること。【標準学習時間120分】
4回	古今和歌集について調べておくこと。【標準学習時間120分】
5回	前回の復習をし、小テストの勉強をしてこること。【標準学習時間120分】
6回	新古今和歌集について調べておくこと。【標準学習時間120分】
7回	前回の復習をし、小テストの勉強をしてこること。【標準学習時間120分】
8回	第1～7回までをふりかえり、この内から和歌1首を選びレポートにまとめる。【標準学習時間120分】
9回	日本史における平安時代、源氏物語と紫式部について調べておくこと。【標準学習時間120分】
10回	前回の復習をすること。桐壺の巻 を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
11回	前回の復習をすること。桐壺の巻 を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
12回	前回の復習をすること。桐壺の巻 を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
13回	前回の復習をすること。【標準学習時間120分】
14回	前回の復習をすること。桐壺の巻 を読み内容を把握しておくこと。【標準学習時間120分】
15回	前回の復習をすること。第8～14回を通しての疑問点を整理してくること。【標準学習時間120分】

講義目的	言葉の芸術である文学について日本の古典文学を通して考える。韻文から三大和歌集の歌を、散文から源氏物語を取り上げ、作品の鑑賞を交えながらその魅力を解説する。本科目はカリキュラムポリシーのうち「歴史・文化、幅広い教養」「教科の内容」の修得を目的とする。
達成目標	文学について自分なりの見解が述べられる。日本文学のジャンル、韻文・散文の別を明確に述べられる。三大和歌集とそれらの特徴を述べられる。源氏物語の概略と作品の意義について述べられる。本科目はディプロマポリシーのうち、A,Cに相当する。
キーワード	韻文、散文、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集、源氏物語
成績評価(合格基準60)	小テスト(20%)、中間レポート(30%)および最終評価レポート(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	日本文学史、日本文学 (古典)
教科書	大島本源氏物語 桐壺 / 森一郎 / 和泉書院 / 1991 / 978-4870884595

参考書	新編日本古典文学全集/万葉集/古今集/新古今和歌集/源氏物語/小学館 鈴木日出男/知識ゼロからの源氏物語/幻冬舎/2008/978-4344901308
連絡先	新1号館9F 山崎研究室 E-Mail: yamasaki_ped.ous.ac.jp ()@
注意・備考	レポートは検印の上、コメントを付して返却する。 講義中の録音のみ個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	英語探究 (FES5G120)
英文科目名	Advanced English I
担当教員名	香ノ木隆臣(こうのきたかおみ)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	リーディング:(R) ライティング:(W) 英文パラグラフと文を構成する論理について学習する。
2回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
3回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
4回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
5回	(W) パラグラフの論理について:「自己紹介」パラグラフを構成する論理を学び、授業時間中にパラグラフを書き提出する。
6回	(W)パラグラフの論理について:「自己紹介」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間内に書き直して再提出する。 (R)ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
7回	(W) パラグラフの論理について:「自己紹介」の返却と講評:添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
8回	(W) パラグラフの論理について:「時間の順序」について学び、授業時間外課題として「指示」についてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
9回	(W) パラグラフの論理について:「指示」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外課題として書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
10回	(W) パラグラフの論理について:「指示」 についてさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
11回	(W)パラグラフの論理について:「客観的報告」 身近な出来事を、ニュース記事のように書き、自己を客観視するテーマ。 時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
12回	(W) パラグラフの論理について:「客観的報告」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外課題として書き直して再提出する。 (R)ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
13回	(W) パラグラフの論理について:「客観的報告」についてさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R)ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
14回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
15回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。 これまでの学習内容を振り返る。英語探究 にむけての事前課題を配布する。

回数	準備学習
1回	パラグラフという概念について考えておくこと。(標準学習時間30分)

2回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
4回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
5回	事前に示されたテーマに基づき、書く内容をメモしておき授業に持参すること。(標準学習時間30分)
6回	自分の書いたパラグラフの英語について、疑問点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
7回	自分の書いたパラグラフの英語について、疑問点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
8回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
9回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
10回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
11回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
12回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
13回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
14回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
15回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)

講義目的	時事英語の講読と、パラグラフ・ライティングを組み合わせた授業を行うことにより、英語の論理を複眼的視点で理解することを目的とする。リーディングについては、最新の社会的事象についての新聞・雑誌のニュース、論説などの記事を題材に、基本文法と英文の論理の展開の双方に配慮しつつ精読を行う。関連する別の文章を時間外課題とし、授業時にquizを行う。ライティングでは、パラグラフを展開する論理について学ぶために文章を書く。総じて、予習にかなりの努力を必要とするクラスである。(中等教育学科英語教育コースの卒業認定・学位授与の方針項目Aに強く関与する。)
達成目標	リーディングとライティングの両面から学ぶことで、立体的に英語の論理を把握し、今後の専門的学習の基礎となる高度な英語運用能力を確立することを達成目標とする。
キーワード	パラグラフの論理 レトリック 精読 時事英語
成績評価(合格基準60)	試験70%,ライティング提出物30% 評価の観点 ・英語に対する正確な理解ができていること。 ・英語の文章の論理が読み取れること。 ・英語の論理に基づいたパラグラフが書けること。
関連科目	英語探究
教科書	特定のテキストは指定せず、ハンドアウトを配付する。ニュース記事は、実際に報じられているものを題材にして授業で扱う。
参考書	各種の辞書、文法やパラグラフ・ライティングについての書籍を随時紹介する。
連絡先	A1号館 10F 香ノ木研究室
注意・備考	ライティングでは、辞書(電子辞書/書籍)を持参のこと。講義資料は講義時のみに配付し、後日の配付はしない。講義中の録画・録音や撮影は認めない。提出課題は当該講義の次週に返却する。
試験実施	実施する

科目名	英語探究 (FES5G310)
英文科目名	Advanced English V
担当教員名	奥西有理(おくにしゆり)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本授業における学習や課題の具体的進め方について説明する。
2回	Show & Tell: スピーチコミュニケーションの基礎について学習する。
3回	Show & Tell: ペア練習とプレゼンテーションを実施する。
4回	Show & Tell: スピーチ・コミュニケーションのテストを実施する。
5回	スピーチ課題1: ニュース記事のスピーチについて学習する。
6回	スピーチ課題1: 主張、論理展開、理由付け、具体例、ストーリーテリングについて学習する。
7回	スピーチ課題1: グループ別発表をフィードバックを実施する。
8回	スピーチ課題1: 全体発表を実施する。
9回	スピーチ課題1: 全体発表と講評およびシャドーイング課題1のテストを実施する。
10回	スピーチ課題2: 文学作品に関するスピーチについて学習する。
11回	スピーチ課題2: 主張、論理展開、理由付け、具体例、ストーリーテリングについて学習する。
12回	スピーチ課題2: グループ別発表をフィードバックを実施する。
13回	スピーチ課題2: 全体発表を実施する。
14回	スピーチ課題2: 全体発表と講評およびシャドーイング課題2のテストを実施する。
15回	効果的な英語スピーチ・スキルおよびシャドーイング課題についてまとめを学習する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本授業は、英語探求I~IVを通して習得した、英語の論理展開を理解した上で、正しく読んで書く能力を、口頭での発信力に転換させていくための訓練を行い、英語スピーチに不可欠なスキルを獲得することを目的とする。
達成目標	・新聞・雑誌のニュース、論説などの記事等について意見を持ち、論理的かつ説得的に語るができる。(D) ・英語のスピーチにおいて「主張」を意識し、「理由付け」と「具体例」を添えながら、順序立てて論理的に説明することができる。(D)
キーワード	スピーチ・コミュニケーション、シャドーイング、スピーキング・スキルの向上
成績評価(合格基準60)	スピーチ・コミュニケーションテスト 10% スピーチ課題1(ニュース記事) 35% スピーチ課題2(文学作品) 35% シャドーイング課題10%×2課題=20% で評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	英語探求I, II, III, IV, VI
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。

連絡先	奥西研究室 (A1号館10階)
注意・備考	本授業ではアクティブラーニングの一環として、ペアワークやディスカッションを実施する
試験実施	実施しない

科目名	教職論 (FES5H110)
英文科目名	Introduction to the Teaching Profession
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画、履修に向けての心構えを説明する。
2回	公教育制度と法体系について説明する。
3回	教育の歴史と学校教育制度の成立について説明する。
4回	学校教育の内容と学習指導要領について説明する。
5回	学級経営と学習指導の原理と方法について説明する。
6回	生徒指導と進路指導の原理と実際について説明する。
7回	教科外の教育 特別活動と道徳の時間の指導について説明する。
8回	学校と地域の連携における教師の役割について説明する。
9回	全体の奉仕者・教育公務員としての教員について説明する。
10回	学校組織の一員としての教員と校務分掌について説明する。
11回	教員の身分と服務及び職務について説明する。
12回	生涯学習の観点からみたキャリアとしての教職について説明する。
13回	専門職としての教員について説明する。
14回	教育改革の動向と学校教育の課題について説明する。
15回	教職に向けての省察について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間80分)
2回	公教育という言葉についてテキストなどで調べておくこと。(標準学習時間100分)
3回	公教育制度に関わる法体系について復習しておくこと。学校教育の制度や歴史に関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
4回	教育の歴史と学校教育制度の成立について復習しておくこと。学校教育の内容について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
5回	学校教育の内容や学習指導要領について復習しておくこと。学級経営や学習指導方法などについて関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
6回	学級経営の基本的な考え方や効果的な学習指導の方法について復習しておくこと。生徒指導や進路指導について関心をもっておくこと。(標準学習時間90分)
7回	生徒指導や進路指導の原理について復習しておくこと。特別活動と道徳の時間の指導など、教科外の教育について関心をもっておくこと。(標準学習時間90分)
8回	教科外の教育について復習しておくこと。教師の役割について、学校と地域の連携の観点から関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
9回	学校と地域の連携における教師の役割について復習しておくこと。全体の奉仕者であり、また教育公務員でもある教員の仕事について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
10回	教育公務員としての教師のあり方や役割について復習しておくこと。学校組織の一員としての教員と校務分掌について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
11回	学校という組織の中での教員の仕事について復習しておくこと。教員の身分と服務及び職務について関心をもち、テキストの関係箇所を予習しておくこと。(標準学習時間100分)
12回	教員の身分及び服務・職務などについて復習しておくこと。生涯学習の観点から、キャリアとしての教職について関心をもっておくこと。(標準学習時間90分)
13回	キャリアとしての教職について生涯学習の観点から復習しておくこと。教員を専門職として考えることについて関心をもっておくとともに、テキストの関係箇所を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	専門職としての教員のあり方について復習しておくこと。これからの教育改革の動向と、今後の学校教育の課題について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
15回	これからの教育の課題について復習しておくこと。自らの目指す教師像について考えておくとともに、最終評価試験に向けてこれまでの授業の内容を復習すること。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義の目的は教師の職務内容を理解し、教職の意義と教員の役割を明確にすることにある。この講義では、教師という存在と教職の本質を中心に、公教育における教職の意義や教員の役割、学校
------	--

	現場での教師の仕事等について、歴史的、制度的、実践的な側面から理解することを通じて、専門職としての教員に求められる資質、能力の基礎を培い、自らの教師像を明確にすることを目指す。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	1. 学校教育における教師の役割と職務内容についての理解を深める(B)。2. 学校教育における教育活動の内容と課題を理解する(B)。3. 教師としての自らの在り方を探究し、教師像を明確にする(B)。
キーワード	教職、学校、教師像
成績評価(合格基準60)	最終評価試験による評価(80点)とレポートによる評価(20点)計100点
関連科目	教育学原論、教育史、学校経営、教育行政論
教科書	『よくわかる教育学原論』/安彦忠彦他編/ミネルヴァ書房(教育学原論(必修科目・秋学期)と共通のテキスト)
参考書	適宜、参考資料をプリントし、配布する。
連絡先	A1号館 9F 山中研究室
注意・備考	この科目は教員免許状取得のための必修科目です。
試験実施	実施する

科目名	学習心理学 (FES5H210)
英文科目名	Psychology of Learning
担当教員名	森敏昭 (もりとしあき)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学習心理学の目的・方法・領域について説明する。
2回	学習心理学の理論について説明する。
3回	古典的条件づけの原理について説明する。
4回	オペラント条件づけの原理について説明する。
5回	学習と記憶のメカニズムについて説明する。
6回	知識獲得と学習の原理について説明する。
7回	技能の学習の原理について説明する。
8回	問題解決と学習の原理について説明する。
9回	社会的学習の原理について説明する。
10回	学習と認知発達の原理について説明する。
11回	学習の転移について説明する。
12回	学習と動機づけの原理について説明する。
13回	学習理論の教育場面への応用について説明する。
14回	学習理論の臨床場面への応用について説明する。
15回	学習心理学と21世紀型学びについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	授業の前に、学習心理学の目的・方法・領域について復習し、教科書などにより、学習心理学の理論について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業の前に、学習心理学の理論について復習し、教科書などにより、古典的条件づけに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業の前に、古典的条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、オペラント条件づけに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業の前に、オペラント条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と記憶のメカニズムに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業の前に、学習と記憶のメカニズムに関し説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより知識獲得と学習の原理について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業の前に、知識獲得と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、技能の学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業の前に、技能の学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、問題解決と学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業の前に、問題解決と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、社会的学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業の前に、社会的学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と認知発達の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業の前に、学習と認知発達の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習の転移に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業の前に、学習の転移について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と動機づけの原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業の前に、学習と動機づけの原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の教育場面への応用に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業の前に、学習理論の教育場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の臨床場面への応用に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業の前に、学習理論の臨床場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習心理学と21世紀型学びについて予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学習心理学の理論と方法を正しく深く理解し、学校教育の現代的課題に対し主体的・創造的に取り
------	--

	組む資質を養うことを目的とする。そのために、学習心理学の最新の知見を学校での学習指導の実践と関係づけて講義する。初等教育学科の「学位授与の方針」B（小学校教育の意義と役割を理解し、教職へ関わることへの強い使命感を身につけている）に関連する科目である。
達成目標	学習心理学の古典的理論から最新の理論について理解を深める。「学習の基礎過程」「知識獲得と学習」「問題解決と学習」「技能の学習」「社会的学習」「発達理論と学習」「学習の転移」「学習の動機づけ」「学習理論の応用」など学習心理学の主要な研究領域について理解を深める。初等教育学科の学位授与の方針Bに関連する科目である。
キーワード	学習理論と学習指導
成績評価（合格基準60	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	教育心理学
教科書	使用しない。
参考書	
連絡先	A 1号館 9F 森研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その回答のための時間を次回の授業の最初に設ける。
試験実施	実施する

科目名	Practical Communication (FES5I310)
英文科目名	Practical Communication III
担当教員名	フィリップガジオン* (ふいりっぷがじおん*)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、授業の進め方、成績評価等について説明する。
2回	Unit 1 Food に関してリスニングおよびスピーキングを行う。
3回	Unit 1 Food に関してプレゼンテーションを行う。
4回	Unit 2 Festivals に関してリスニングおよびスピーチを行う。
5回	Unit 2 Festivals に関してプレゼンテーションを行う。
6回	U1-2の学習についてReviewを実施する。
7回	Unit 3 Cities に関してリスニングおよびスピーチを行う。
8回	Unit 3 Cities に関してプレゼンテーションを行う。
9回	Unit 4 Jobs に関してリスニングおよびスピーチを行う。
10回	Unit 4 Jobs に関してプレゼンテーションを行う。
11回	U3-4の学習についてReviewを実施する。
12回	Unit 5 Music に関してリスニングおよびスピーチを行う。
13回	Unit 5 Music に関してプレゼンテーションを行う。
14回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていきける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。(Practical Communication 1~4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第3段階目にあたる。)(中等教育学科英語教育コースのディプロマポリシーA,Dに対応する。)
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
成績評価(合格基準)	60 小テスト30%、プレゼンテーション・スピーチ30%、口述試験20%、期末試験(ライティング)20%で評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	Practical Communication I, II, VI、発信英語I-VI
教科書	Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas & Andrew Boon (CENGAGE Learning)

参考書	
連絡先	
注意・備考	この講義では、アクティブラーニングの一形態であるグループ・ディスカッションやペア・ワークを行う。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術 (FES5J210)
英文科目名	Educational Approach and Techniques
担当教員名	尾島卓* (おじまたく*)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行う
2回	教えることの「技術」と「思想」について解説する
3回	学級で教えることの思想と実践について解説する
4回	他者と出会い多様に学ぶことについて解説する
5回	参加としての学びとケアについて解説する
6回	教育評価のあり方をふまえた学習指導案の作成について解説する
7回	子どもの実態に応じた教材研究・教材解釈について解説する
8回	発問づくりの方法と集団思考の展開について解説する
9回	視聴覚教材の活用と板書の技術について解説する
10回	学習促進としての評価の技法について解説する
11回	学力基盤としての学習規律の形成と学習集団の創造について解説する
12回	子ども理解と学級経営の方法について解説する
13回	情報モラルを育み学びを拡張するICTの活用について解説する
14回	人間を「人間にする」教室空間の構成について解説する
15回	教科指導を充実させる学校図書館の利用

回数	準備学習
1回	教科書を準備し目次を読んでおくこと。(標準学習時間60分、以下同じ)
2回	教科書9～20頁を読んでおくこと
3回	教科書21～40頁を読んでおくこと
4回	教科書41～57頁を読んでおくこと
5回	教科書59～73頁を読んでおくこと
6回	教科書75～91頁を読んでおくこと
7回	教科書93～108頁を読んでおくこと
8回	教科書109～121頁を読んでおくこと
9回	教科書123～136頁を読んでおくこと
10回	教科書137～149頁を読んでおくこと
11回	教科書167～181頁を読んでおくこと
12回	教科書183～202頁を読んでおくこと
13回	教科書203～217頁を読んでおくこと
14回	教科書219～232頁を読んでおくこと
15回	教科書151～165頁を読んでおくこと

講義目的	本講は、現行中学校学習指導要領の「指導計画の作成等にあたって配慮すべき事項」に列挙されている事項に関連する教育方法を取り上げ、その思想と技術を理解することを目標とする。特に、戦後我が国において普遍化されてきた教育方法の科学性と教育技術が対象とする生徒の発達における多様性について理解を深めることに重点がある。
達成目標	(1) これまでに学んだ教職科目の知識をもとに教授・学習過程の基本的構造を説明することができる (2) 現行学習指導要領において求められる新たな授業像について説明することができる。 (3) 上述の新たな授業を構想・実践するための基本的な教育方法について説明することができる。
キーワード	学習指導要領、教育技術、教育方法、授業研究
成績評価(合格基準)	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終レポート30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、ポートフォリオにおいて基準点を設け、得点が50点満点中、30点以下の場合は不合格とする。
関連科目	教育課程論
教科書	教師教育講座第9巻 教育方法技術論 / 深澤広明編著 / 協同出版 / 9784319106783
参考書	中学校学習指導要領

連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	英語学概論 (FES5K110)
英文科目名	Introduction to English Philology and Linguistics
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	コミュニケーション能力の構成要素について説明する。
2回	英語の音韻について説明する。
3回	英語の形態について説明する。
4回	英語の文法について説明する。
5回	英語の語彙について説明する。
6回	英語の意味について説明する。
7回	英語の対人関係構造(1)(法性)について説明する。
8回	英語の対人関係構造(2)(発話意図)について説明する。
9回	英語の対人関係構造についてのまとめをする。
10回	英語の談話構造(1)(接続詞)について説明する。
11回	英語の談話構造(2)(語彙反復)について説明する。
12回	英語の談話構造(3)(新情報と旧情報)について説明する。
13回	英語の談話構造(4)(主題と題述)について説明する。
14回	英語の談話構造についてのまとめをする。
15回	音韻、形態、文法、語彙、意味、談話構造についてのまとめをする。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに英語の音韻について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと 3回目の授業までに英語の形態について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと 4回目の授業までに英語の文法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までに英語の語彙について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに英語の意味について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに英語の法性について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに英語の発話意図について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までに英語の法性・発話意図について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに英語の接続詞について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと 11回目の授業までに英語の語彙反復について予習を行うこと(標準学習時間120分)
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと 12回目の授業までに英語の新情報と旧情報について予習を行うこと(標準学習時間120分)

1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までに英語の主題と題述について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語の談話構造について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までに英語の音韻・形態・文法・語彙・意味・談話構造について予習を行うこと。 (標準学習時間120分)
1 5 回	コミュニケーション能力の構成要素・英語の対人関係構造・談話構造について整理を行うこと。(標準学習時間60分)

講義目的	英語学(音韻、形態、文法、語彙、意味、談話構造など)の知識を充実させるのみならず、その知識が実践的コミュニケーションにどのように活かされるかについて、主に英語の構造面に重点を置いて、知識と運用の統合的理解の向上をはかる。
達成目標	中等教育の英語教師に求められる基礎的な知識に焦点を当てる。このような内容の授業によって、学生がコミュニケーションに通じる英語学を理解し、中等教育の英語教師に求められる英語学の基礎的な知識を修得することを目標とする。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A, C)。()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	音韻、形態、文法、語彙、意味、談話構造
成績評価(合格基準60)	・最終評価試験による評価50%、レポートによる評価50%・評価の観点:英語学概論を通して英語という言葉の特質がより深く理解できている。
関連科目	現代英文法、英語史
教科書	新えいご・エイゴ・英語学/稲木・堀田・沖田/松柏社
参考書	The English Language / David Crystal / Penguin Books, 1988
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	辞書(電子辞書可)を持参すること
試験実施	実施する

科目名	英語科内容論C (FES5K310)
英文科目名	English as a Subject C
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション: 授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価等について説明する。
2回	世界共通語としての英語: グローバル化と情報化時代、グローバル・リテラシー獲得のための英語教育、グローバル人材育成のために必要な英語教育の視点 (IB, Bloom他) について説明する。
3回	世界共通語としての英語: グローバル化時代の効果的な英語教育について文献を調査し、内容の共有とグループディスカッションを実施する。
4回	世界共通語としての英語: グローバル化時代の効果的な英語教育について個人発表とピア・フィードバックを実施する。
5回	世界共通語としての英語: グローバル化時代の効果的な英語教育についてフィードバックの内容を踏まえた最終個人発表を実施する。
6回	異文化理解と英語コミュニケーション: 文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解 (CLIL他) について説明する。
7回	異文化理解と英語コミュニケーション: 文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解 (CLIL他) について文献を調査し、内容の共有とグループディスカッションを実施する。
8回	異文化理解と英語コミュニケーション: 文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解 (CLIL他) について個人発表とピア・フィードバックを実施する。
9回	異文化理解と英語コミュニケーション: 文化一般的異文化理解、異文化間協働実現のために必要な資質、英語力と英語教育、英語学習を通じての教室内での異文化理解 (CLIL他) についてフィードバックの内容を踏まえた最終個人発表を実施する。
10回	異文化理解と英語教育: 日本文化特定のコミュニケーションの理解と英語コミュニケーションに与える影響について説明する。異文化理解を促進する英語教育の実施方法 (個々の文化理解を促進するための小説や絵本を通じた視点獲得方法等) について議論する。世界のESL/EFL教育について議論する。
11回	異文化理解と英語教育: 関連した文献を調査し、内容の共有とグループディスカッションを実施する。
12回	異文化理解と英語教育: 関連した個人発表とピア・フィードバックを実施する。
13回	異文化理解と英語教育: フィードバックの内容を踏まえた最終個人発表を実施する。
14回	異文化理解実践の場としてのALTとの異文化間協働における課題について議論する。関連した英語論文について解説する。
15回	異文化理解のためのALTとの英語コミュニケーションの実践について意見交換を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	世界の多様な文化を持つ人々とコミュニケーションを図り、お互いの異文化理解を実現させて行ける人材を育成することに、英語教育が如何に貢献できるのかというテーマについて考えることを通して、グローバルな視点から英語教育を捉えることができるようになることを目的とする。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な英語教育に関して英語で書かれた文献を調査し、理解して発表することができる。(A, D, E) ・異文化理解を目的とした英語教育の実施について具体的な考えを持つことができる。(E) ・グローバル化と求められる人材の育成について、英語教育との関係で説明することができる。(D, E)
キーワード	世界共通語としての英語、異文化理解と英語授業、ALTとの異文化間協働
成績評価（合格基準60）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における発表 50% ・レポート課題 50% で評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	英語科内容論A、英語科内容論B、英語科教材分析・開発演習C
教科書	使用しない。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育と文化：異文化間コミュニケーションの要請（大学英語教育学会） ・ケースで学ぶ異文化コミュニケーション（久米昭元他） ・Socio-cultural Analysis of Effective Team Teaching in a Japanese Classroom (T. Yoshida)
連絡先	奥西研究室（A1号館10階）
注意・備考	本授業ではアクティブラーニングの一環として、ペアワークやディスカッションを実施する。
試験実施	実施しない

科目名	現代教育課題論 (FES5L210)
英文科目名	Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	松岡律 (まつおかただし), 奥西有理 (おくにしゆり), 森敏昭 (もりとしあき), 小川孝司 (おがわたかし), 黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現代社会における学習の意義について説明する(森) (全教員, 森 敏昭)
2回	21世紀型学力の育成について説明する(森) (全教員, 森 敏昭)
3回	学習指導と評価のあり方について説明する(森) (全教員, 森 敏昭)
4回	教師の成長課題を解説する(黒崎) (全教員, 黒崎 東洋郎)
5回	国際標準の学力の課題を解説する(黒崎) (全教員, 黒崎 東洋郎)
6回	小学校教科の統合・分化と小中一貫教育の課題を解説する(黒崎) (全教員, 黒崎 東洋郎)
7回	読むことの授業の実際を視聴し、確かな学力の定着に必要な、「主体的な学び」「対話的な学び」の方法及び重要性などについて説明する(小川) (全教員, 小川 孝司)
8回	今日的いじめの特徴やいじめ発生の要因、学級のタイプといじめの関係などをもとに、いじめ問題との向き合い方について説明する(小川) (全教員, 小川 孝司)
9回	読むことの授業の実際を再度視聴し、授業を通して子ども達が自信をもち仲間と共に成長する学級・学校づくりについて説明する(小川) (全教員, 小川 孝司)
10回	非行の発生原因について理論的に解説する1(松岡) (全教員, 松岡 律)
11回	非行の発生原因について理論的に解説する2(松岡) (全教員, 松岡 律)
12回	非行防止のために有効な方策について解説する(松岡) (全教員, 松岡 律)
13回	学校における外国人児童・生徒について、経済のグローバル化等の観点からその背景を解説する(奥西) (全教員, 奥西 有理)
14回	外国人児童・生徒が抱える課題について、日本語教育および母語教育の観点から解説する。(奥西) (全教員, 奥西 有理)
15回	外国人児童・生徒の文化的背景について、異文化感受性の観点から説明し、多様性を活かせる教師力について解説する。(奥西)

	(全教員, 奥西 有理)
--	--------------

回数	準備学習
1回	参考書等により、現代社会における学習の意義について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	参考書等により、21世紀型学力の育成について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	参考書等により、学習指導と評価のあり方について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	何故、教師は学び続ける必要があるのか。成長する教師は、どのような専門性(教職力)を自己成長させることが大切かを3つ考えてくること(60分)
5回	小学校教育ではぐくむべき資質・能力とは何か、各種アセスメントによる日本の子どもたちの学力の現状を調べてくること(60分)
6回	生活科、総合的学習、小学校英語科の産まれた背景、及び、小中一貫教育の視点に立つ教科指導がなぜ重要視されるのか、背景を調べてくること。(60分)
7回	視聴する文学的文章の学習材を通読するとともに、別途配付の資料をもとに、今日求められている授業の姿について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	別途配付の資料をもとに、文部科学省によるいじめの定義の変遷や学校の取り組みなどについて、基本的な考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9回	第4回講義で配付した学習記録をもとに、子ども一人一人の居場所が確保され、人間的な成長を育む学級集団、授業のあり方について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	現代における児童・生徒の非行の実態について調べてくること。(60分)
11回	非行・犯罪に走る人とそうでない人との違いは何か、考えて来ること。(60分)
12回	非行傾向のある児童・生徒とどう接すればいいのか、考えて来ること。(60分)
13回	日本の各自治体における外国人の人口構成と国籍割合について、公的な統計資料を基に調べ、発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間60分)
14回	日本で学ぶ外国人児童・生徒にとって、日本語教育と母語教育がどのような意味を持つかについて、与えられた具体的なケースについて考えてくること。(標準学習時間60分)
15回	配布された異文化感受性発達モデルに基づき、与えられた具体的なケースについて記述的説明を考えてくること。(標準学習時間90分)。

講義目的	現代の教育をめぐる様々な課題について、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育の立場から複数のトピックスを取り上げ、各課題の背景・現状・展望について学び、これからの教育の在り方について考えることを目標とする。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題の検討を通じて、「現実」に対する多面的なアプローチの可能性を理解し、複眼的思考を持てるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	各担当者ごとの小レポート点(20点×5)を合計して評価する。 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	漢文学 (FES5M210)
英文科目名	Chinese Classics II
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 中国の経書について概説する
2回	四書について概説する
3回	『論語』など、四書の文章を講読する
4回	前回到引き続き、四書の文章を講読する
5回	五経について概説する
6回	『礼記』など、五経の文章を講読する
7回	注釈者を中心に、経学の歴史を概説する
8回	中国の史書について概説する
9回	『春秋左氏伝』の文章を講読する。
10回	『史記』の文章を講読する
11回	『史記』の文章を講読する
12回	『漢書』、及びその後の正史について概説する
13回	『資治通鑑』を講読する
14回	『十八史略』を講読する
15回	講義全体のまとめを行う
16回	最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと 漢文学概論の内容を復習しておくこと【120分】
2回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
3回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
4回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
5回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
6回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
7回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
8回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
9回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
10回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
11回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
12回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
13回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
14回	配付資料を熟読し、引用文の語句調べや訓読、日本語訳をすること【120分】
15回	これまでの授業の内容を復習しておくこと【120分】
16回	試験のための準備をしておくこと

講義目的	<p>漢文学 では、経書と史書を取り上げる。漢文学概論で学んだことを踏まえつつ、実際に四書五経や代表的な史書の本文を読むことで、それぞれの書の特徴や違いを知る。</p> <p>四書五経に代表される経書は、漢文学の最も重要な正典である。経書についてその概要を知り、かつ実際の本文に触れることで、漢学の根幹に触れる。</p> <p>漢学において、史書とは経書に次いで重んじられてきたものである。それは単なる歴史記録に非ず、漢学の重要な基礎である。史書についてその概要を知り、かつ実際の本文に触れることで、漢学の根幹に触れる。</p> <p>散文読解を通じて、漢文訓読の技術を向上させる。</p> <p>本科目はカリキュラムポリシーのうち、A、B、C、Dに該当する</p>
達成目標	<p>経書と史書について学ぶことで、漢文学についての重要な基礎知識を獲得するとともに、質の高い散文を読むことで、漢文読解力を高める。</p> <p>漢和辞典の引き方に習熟する。</p> <p>本科目はディプロマポリシーのうちA、B、C、Dに該当する。</p>

キーワード	漢文学 経学 史学 散文
成績評価（合格基準60）	小テスト・課題(20%)、期末試験80%により、総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	漢文学概論 漢文学
教科書	使用しない。
参考書	新釈漢文大系（明治書院）に収録される各種訳注： 漢文入門 / 小川環樹・西田太一郎 / 岩波全書 / 岩波書店 / 1957年 / 9784000201018： 新訂 漢文法要説 / 西田太一郎 / 朋友書店 / 2014年再刊 / 9784892810534： 概説中国思想史 / 湯浅邦弘[編著] / ミネルヴァ書房 / 2010年 / 9784623058204： 四書五経入門 / 竹内照夫 / 平凡社 / 2000年 / 9784582763201： 五経入門 中国古典の世界 / 野間文史 / 研文出版 / 2014年 / 9784876363742： 中国の歴史書 中国史学史 / 増井経夫 / 刀水書房 / 1984年 / 9784887080522： 中国哲学史 / 狩野直喜 / 岩波書店 / 1953年： * その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F奥野研究室 okuno_ped.ous.ac.jp [@]
注意・備考	予習必須。 資料は授業開始時に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。 受講生の理解度により、内容や進度を調整・変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	英語探究 (FES5M220)
英文科目名	Advanced English III
担当教員名	地村彰之(ぢむらあきゆき)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	リーディング:(R) ライティング:(W) オリエンテーション (授業内容, 成績評価基準などの履修上の注意)
2回	(R) 英語の読解について(1)
3回	(R) 英語の読解演習について(1)
4回	(R) 英語の文化的背景について(1)
5回	(W) 3回の授業のまとめとライティング活動
6回	(R) 英語の読解について(2)
7回	(R) 英語の読解演習について(2)
8回	(R) 英語の文化的背景について(2)
9回	(W) 3回の授業のまとめとライティング活動
10回	(R) 英語の読解について(3)
11回	(R) 英語の読解演習について(3)
12回	(R) 英語の文化的背景について(3)
13回	(W) 3回の授業のまとめとライティング活動
14回	英語の読解のまとめ
15回	英語のライティングのまとめ
16回	1回~15回までの総括をし、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと。

	1 2 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	英語の読解とライティングについて理解すること。(標準学習時間60分)

講義目的	<p>英文を精読しながら、読解練習を行う。</p> <p>英語を多角的な視点から学ぶことを主眼に、文学性の高い英文を精読し、併せて文化的背景を学ぶ。</p> <p>英文を正確に読み、パラグラフ構成を理解し、情報を効率的に探す。</p> <p>英語を書く能力については、読解練習をした英文を自分の言葉でパラフレイズする課題に取り組む。 から の内容が自主的に実践できるようになることを目的とする。</p>
達成目標	英語探究 ・ で身につけた基礎力をもとに、英語の論理展開を理解した上で、英語を正しく読み、書く能力を修得することを目標とする。 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A, C) 教育現場での実践的なコミュニケーションスキルを身につける(A, D) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	読解、文化的背景、ライティング
成績評価(合格基準60)	<ul style="list-style-type: none"> ・試験による評価50点、レポートによる評価50点 ・評価の観点：英語探究を通してリーディング・ライティングが出来るようになること。
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史
教科書	英米文学作品のショートストーリーを適宜選択して配布する。
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	予習と復習をしっかりとすること。
試験実施	実施する

科目名	道徳教育の理論と方法 (FES5M310)
英文科目名	Theory and Approach of Moral Education
担当教員名	野島淑子* (のじまよしこ*)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、学校における道徳教育、「道徳の時間」の意義について確認し、31年度からの「道徳の時間」の教科化についての経緯にも触れたい。そして、学校教育活動における道徳教育実践の紹介、教員としての心構えや願い、講義内容の紹介を行う。また、今まで体得している自身の道徳性について再考する機会とする。講義における約束事や認定評価について説明する。
2回	人間の道徳性の発達を調査実証して理論的に確立したコールバーグの「道徳性認知発達理論」について学習する。コールバーグのジレンマ資料で実践を試み、自らの道徳性に向き合う。さらにグループセッションを通して他者の思考判断に触れることで、自らの価値体系を鑑みる機会とする。一般に他律から自律へと発達する人間の道徳性発達過程における環境（学校及び家庭や地域等）による影響力の大きさ、自らの体験に照らした価値把握について考え、学校における道徳教育の意義を理解する。
3回	現在、日本の文化や日本人の思考に共通する源を理解するためには、日本古来の人々の精神的拠り所は何であったかを知り、学問的思考を確立した近代の教育体系や社会状況と道徳教育の歴史を紐解くことによって理解することができる。近代道徳の歴史と課題 「近代から太平洋戦争まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
4回	挙国一致の戦時体制の中で、多くの若者を死に追いやった反省を踏まえて戦後、基本的人権の尊重を柱に社会情勢はめまぐるしい変化をとげ、人々の生活や価値観は大きく代わり、今や世界の先進国日本として大きく飛躍発展した。戦後70年、学校教育、特に道徳教育がいかになされてきたか、そして「修身科」のトラウマを越えて設定された「道徳の時間」が「道徳科」として教科化されるに至った経緯を知ることによって、道徳教育について理解を深める。道徳教育の歴史と課題 「戦後から現在まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
5回	学校における道徳教育の要となる「道徳の時間」が設置されてから約60年、紆余曲折を経てこの度、領域から教科として「道徳科」が新設された。現在の学校現場における道徳教育及び「道徳の時間」の現状と課題について理解し、道徳教育の歴史を振り返りながら、教師として子どもたちになすべきことは何か、自分はどうかありたいか、どうあるべきか考える。「中学校学習指導要領解説 道徳編」を基に、改訂版も踏まえて、学校における道徳教育と「道徳の時間」の目標について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
6回	日々の人間の行動の判断基準となる道徳的価値は何か、生育歴の中で培った価値観は人それぞれである。人間が社会集団の中で生きて行かなければならない存在であるならば、それらの価値は何らかの形で社会規律に影響を受ける。よりよく生きるために備えておきたい道徳性の窓口となる「内容項目」について理解を深め、自己の構築してきた道徳的価値を再確認する。「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Aの視点、Bの視点」について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ割り当てられた価値項目について自分の考えを発表し、他者の考えを知ることによって道徳的価値についての理解を深める。
7回	「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Cの視点、Dの視点について学習する。自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ割り当てられた価値項目について自分の考えを発表し、他者の考えを知ることによって道徳的価値についての理解を深める。
8回	学校における道徳教育の組織体制や道徳学習計画等についてその実際を学ぶ。学校における教育活動全体を通して行われる道徳教育とその要となる「道徳の時間」との関連を表した組織図である「全体指導計画」及び「道徳の時間」の各学年毎の「道徳年間指導計画」の実際を解説する。そして、「道徳の時間」を運営指導するための「道徳学習指導案」について解説する。他教科とは異なる指導形態となる道徳の時間は、毎時間の学習指導案は不可欠であり、指導者の価値観や生徒理解、また指導工夫や準備が大切になることを理解する。現在の道徳教育の課題について知り、「道徳の時間」の教科化に向けていかにあるべきか主体的に考える。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。

9回	学校におけるすべての教育活動との関連において、道徳教育の目標、「道徳の時間」の目標及び授業の観点について解説する。道徳の時間は、「ねらい」とする道徳的価値を如何に自覚させるかにある。そのため資料の選択の工夫、さらに授業を展開するための「道徳学習指導案」作成の仕方を解説する。指導者の発問と生徒の反応を主体に展開する道徳授業は他教科の形式とはやや異なる。具体例を基にして、「学習指導案の作り方とその工夫（「ねらい」を達成するための工夫と観点）について学習する。
10回	「道徳学習指導案の作り方の工夫（資料分析と学習指導案）」について学習する。道徳的価値の把握には心に響く資料が不可欠である。しかし、資料はあくまで手段として使うものであり、資料の解釈に終わってはならない。資料中の価値が何であり、どのように価値を把握させていくか事前に考えておかなければならない。そのために資料分析、「ねらい」する価値に迫るための発問構成は授業の善し悪しを左右する。共通の題材資料でグループ討議をしながら資料分析を行い、資料中の登場人物の心情や行動について理解を深め学習指導案作成の演習をする。ねらいとする価値、発問構成を考えグループの授業展開をまとめる。グループ毎にまとめた発問構成の発表を行い、それぞれの有効性を共有し、道徳学習指導案の作成技能を高める。
11回	前時の共通の資料で検討した発問構成を参考に、道徳学習指導案を完成させる。有効な発問の仕方、予想される生徒の反応、指導者の観点等、実際に授業を想定した独自の道徳学習指導案を作成する。学習指導案は指導者の価値観や願い表れたものでないと「ねらい」に迫ることは出来ない。実際に授業が出来る学習指導案を作成するには、まず自分がその資料についてよく理解し、いかに生徒の反応を引き出すかにある。他者との意見交換は、より思考を深めることが出来る。同時に学習指導案を基にした板書計画についても学習し作成する。道徳学習指導案作成演習（グループ学習）をする。
12回	自分にとっての資料の善し悪しは、価値観に拠るところが多いが、それぞれが選択した資料を持ち寄りグループ内で検討する。他者が心を動かされた資料を知ることも参考になる。グループ内で協議して選択した資料を基に、学習指導案を作成する。展開における発問構成、発問の内容など基本的な部分をグループで意見交換をしながら集約していく。その過程で自己の考えや展開方法を深めていく。予想される生徒の反応や指導上の留意点等は、各自の考えや価値感を鑑みながらそれぞれ自身が授業できると思える学習指導案を完成する。同時に板書計画も作成する。
13回	学習指導案があれば「ねらい」を達成する授業展開が出来るわけではない。自分で作成することに意義がある。その上で「道徳授業の工夫と観点」を学習する。道徳の授業は、生徒の発言が授業の成り立ちに影響する。資料中の人物が価値を把握する過程、行動、心情を自分と重ねて考えられるように、補助発問や切り返しの応答など臨機応変の反応が求められる。教師の願いを出しながら生徒受容の姿勢も大切なことである。また、資料内容の理解を深めるための場面絵など板書計画の工夫や授業態形も大きな要素である。教師の模擬授業で実際に示したい。同時に視聴覚教材を使った授業展開も紹介する。
14回	グループ代表1名をによる模擬授業を行う。自身の作成した道徳学習指導案をもとに、模擬授業を体験する。頭で考えた授業展開と実際の授業との違いや気づきを体験することの意義は大きい。一方仲間による模擬授業の体験を通して、生徒の立場と教師の視点で授業に参加することも貴重な体験となる。授業後互いに授業評価を発表し合い、それぞれ参考にしたいことや課題を共有することで道徳授業への理解と意欲を高める。
15回	まとめをする。道徳の時間は、学校の道徳教育の要としての位置づけがある。よって道徳の時間だけでなく事前・事後の指導、他の教育活動との関連も図る必要がある。また、よりよい人間関係を構築する学級経営を軸に家庭・地域との連携協力の工夫や手段も大きな要素である。そして、道徳の時間は、生徒と教師が互いによりよい生き方を求めて同じ土俵で学び合う時間であることを再確認する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	将来、教職に就く決意や願いを確認しておくこと。子どもの発達段階において、自分は何時どのようにして社会性（道徳性）を体得してきたのか振り返ってみること。そして、学齢期の子どもたちの道徳性育成と将来の社会的自立に向けて、教師としてどのような支援が大切であるか考えておくこと（標準学習時間120分）。
2回	「よりよく生きる」とはどういうことか、日々自らが行動の判断としている道徳的価値基準はどうか、大人になった自分がどのような価値体系（自分が大切にしている価値観）を持っているかについて自己と対話しておくこと（標準学習時間120分）。
3回	日本の古代の歴史や綿々と受け継がれてきた文化習慣や精神構造に目を向けておくこと。近代以前の歴史の一般化に比べ、明治以後の歴史については浅い知識に留まっている傾向がある。さらに教育の観点から歴史を紐解くことも少ない。今も尚、深い反省の上にある道徳教育について理解するために、明治から世界大戦前の人々の生活や考え方について資料があれば触れておくこと（標準学習時間120分）。
4回	家族や地域の人々との関係の中で、自分が記憶にある教えやしつけ、または自分が受けてきた学校における道徳教育、「道徳の時間」を振り返り、学んだことで最も心に残っていることは何か再確認しておくこと。さらにより理解を深めるために、戦後日本の高度成長期における社会情勢や人

	々の価値観の変異を歴史的、経済的、国際的な視点から理解しておくこと（標準学習時間120分）。
5回	教科書「中学校学習指導要領 道徳編」p.1～39を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.40～50を読み、まとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を下に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと。また、他者の考えや感想を聞くことを通して、自身の価値観について再確認する。授業後の指定期日までに、Aの視点からBの視点までの9項目の内容項目について、自身の中にある道徳的価値を見つめ、「道徳の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
7回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.51～63を読み、まとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を下に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと。また、他者の考えや感想を聞くことを通して、自身の価値観について再確認する。授業後の指定期日までに、Cの視点からDの視点までの13項目の内容項目について、自身の中にある道徳的価値を見つめ、「道徳の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
8回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.64～p81を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.82～p103を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.82～103を読んでおくこと。また、道徳価値を自覚するために、その手段となる資料は、自分が持っている価値との関連で、心に響くものであればジャンルを問わない。資料への関心を深め、資料を読み取り、登場人物の心情・行動について理解する力を養うこと（標準学習時間180分）。
11回	「内容項目」について再度確認するとともに、グループ討議した発問構成、更に各グループの発表内容を参考にしながら、「ねらい」とした価値を自分はどうのように展開して独自の学習指導案を考えておく。（標準学習時間180分）
12回	参考書などを通して様々な資料や学習指導案に触れておくこと。グループ討議を基に、自身が「ねらい」とする価値を生徒に自覚させることができる「道徳学習指導案」を完成させて提出すること。作成した学習指導案、板書計画は添削した後に返却する。また、次時まで今までに自分が最も心に響いた資料をそれぞれ発掘し、選択してくること。（標準学習時間150分）
13回	道徳の授業において大切なことは、資料の読み取りに終わることなく、自己の問題としてとらえ、「ねらい」とした価値を今後どのようにこれからの自分に生かしていけるかである。展開はその中心であるが、導入や終末の工夫及び教師の観点、留意点も同時に大切な要素である。グループ毎に自分たちで選択した資料で作成した道徳学習指導案を完成させ、「板書計画」とともに提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
14回	各自作成した道徳学習指導案で、模擬授業から得られた情報をもとに自分はどうのように授業展開するかシュミレーションをしてみる（標準学習時間180分）。
15回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.104～128を読んでおくこと。1～15講座の内容を復習し、要点をまとめること。道徳教育及び「道徳の時間」についての意義を確認しておくこと。教師の心構えや夢や目標への意欲を高めておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	<p>学校教育の中で、教師の役割と責任は大きい。学校教育法の改定では、人格の形成の重要性と共に学校教育活動において、「知・徳・体」を備えた生徒の育成が求められている。近年の急激な社会情勢の変化の中で価値の多様化が進み、それは子どもたちにも影響し社会問題化している。深刻ないじめ問題と共に子どもたちの心の教育が問われている。特に、自我に目覚め、自らの生き方を模索している生育期における道徳教育の意義は大きい。学校教育の現状と課題を概観し、学校における道徳教育の基本的立場とその要となる「道徳の時間」との関連について理解を深め、「道徳の時間」の充実を図るための方法と工夫を学ぶ。よりよく生きていくために、日々の行動の判断基準となる道徳性を育てるためにはどうすればよいか。「道徳の時間」を展開するための「道徳学習指導案」作り方の演習を通して、「ねらい」とする道徳的価値について考え、自覚させる観点と方法を身につける。「道徳の時間」の教科化実施に向けて、作成した道徳学習指導案による模擬授業などの体験を通して実践への意欲を高める。また、誰しも願うよりよく生きるための道徳性は、子どもたちに限らず教師にとっても生涯の課題である。「道徳の時間」は、共に学び求めていくという姿勢で、教師を目指す自身の道徳性についても問い直す機会とする。</p> <p>（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-3にもっとも強く関与）</p>
達成目標	<p>学校は、人の学齢期における人格形成の重要な位置を占める。学校における道徳教育についての理解を深め、その現状と課題を知り、さらに日本が歩んできた道徳教育の歴史を学ぶことを通して主体的に考え、次世代を育てるための自覚と責任を養う。全学校教育活動における道徳教育の位置づけと目標、その要となる「道徳の時間」の目標を達成するための方策を示した「全体計画」を理解</p>

	<p>した上で、「道徳の時間」の指導の方法や工夫を学ぶ。よりよく生きていくための道徳性を子供に自覚させるのは簡単ではない。手段として用いる資料は、あくまで価値を自覚させるためのツールであることを理解し、資料を読み取る力や感性を高め、また道徳的価値の内容（内容項目）についても自己の道徳性を鑑み理解を深める。そして、自らが心に響く資料を用いて授業展開するための「道徳学習指導案」を作成することができるようにする。そして、作成した学習指導案で実践した模擬授業を通してスキル養い、道徳授業の実践意欲を持てるようにする。また、「道徳の時間」を有効にするためには、学級経営が基本であること、学校組織や家庭・地域の協力が必要であることを踏まえて、人間関係構築の大切さを知る。次代を担う子どもたちを育てる教師としての使命感と責任感をもつ。</p>
キーワード	「手間ひまかけることを厭わない」
成績評価（合格基準60）	授業での課題レポート、内容項目まとめレポート、道徳学習指導案等の評価（40%）、グループ学習での発表、意欲態度（10%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校道徳教育入門」 / 渡邊弘編 / 東洋館出版 ・「道徳教育論」 / エミール・デュルケム（麻生誠・山村健訳） / 講談社学術文庫 ・「中学校道徳教育の基本的課題」 / 金井 肇 / 明治図書出版 ・「心のノート」を生かす道徳授業 / 金井 肇編 / 明治図書出版 ・「私たちの道徳 中学生版」 / 文部科学省
連絡先	
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・原則として、毎時間課題レポートを提出すること。 ・宿題レポート及び学習指導案は自作で手書きを原則とする。 ・介護等体験や教育実習を含めて欠席は4回までを原則とする（やむを得ない場合は申し出ること）。
試験実施	実施する

科目名	国語科内容論 A (FES50310)
英文科目名	Japanese as a Subject A
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現代文(評論)の文脈、構成について、講義する。
2回	現代文(評論)の大意、趣旨、主題、表題について、講義する。
3回	現代文(評論)の文章解釈、語句解釈、素材について、講義する。
4回	現代文(随筆)の素材、随想、表現について、講義する。
5回	現代文(小説)の作者、作品の位置づけ、構成について、講義する。
6回	現代文(小説)の人物、場面、事件、伏線、背景について、講義する。
7回	現代文(小説)の表現、文体、レトリック、象徴について、講義する。
8回	現代文(小説)の主題、表題について、講義する。
9回	現代文(詩)の表現、鑑賞について、講義する。
10回	現代文(短歌・俳句)の表現、鑑賞について、講義する。
11回	古文の仮名遣い、ことばの単位について、講義する。
12回	古文の品詞、活用、接続について、講義する。
13回	古文の係り結び、呼応表現、待遇表現について、講義する。
14回	古文(短歌、俳諧)のレトリック(枕詞、序詞、掛詞、縁語など)について、講義する。
15回	現代文と古文の融合された文章の解釈について、講義する。
16回	定期試験を実施し、解説する。

回数	準備学習
1回	新聞の社説、コラムなどを読んでくること。(標準学習時間60分)
2回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
3回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
4回	配付された資料を読んでくること。
5回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
6回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
7回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
8回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
9回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
10回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
11回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
12回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
13回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
14回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
15回	配付された資料を読んでくること。(標準学習時間60分)
16回	復習してくること。(標準学習時間120分)

講義目的	国語教育における言語事項について、理解を深める。本講義はカリキュラムポリシーB、C、Dに該当する。
達成目標	現代文解釈の方法、古文の文法(活用など)についての基本的な知識と実践的な応用を身につける。本講義はディプロマポリシーA、B、Cに該当する。
キーワード	大意、文脈、構成、解釈、主題、表現、文体、表題
成績評価(合格基準60)	定期試験80%、課題20%で評価する。
関連科目	日本語学概論、日本語文法、日本語史、日本語表現、国語科教育法、国語科教材分析・開発演習
教科書	用いない。
参考書	遠藤嘉基、渡辺実(1979)『現代文解釈の方法』中央図書 杉田知之(1988)『分析批評の方法論』明治図書 島田昌彦(1988)『古文の文法』三省堂 小池清治(1994)『基礎古典文法』朝倉書店
連絡先	A1号館9階河原研究室(TEL.086-256-9774)
注意・備考	国語辞典、古語辞典を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	英米文学史 (FES5P210)
英文科目名	History of English and American Literature
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	(英) 古英語の文学：『ベオウルフ』と現代児童文学について講義する。
2回	(英) 中英語の文学：『カンタベリー物語』と20世紀文学との関連について講義する。
3回	(英) イギリス市民革命と連動したロマン主義文学思潮の様相について講義する。
4回	(英) イギリスのロマン派文学の思潮が、アメリカ文学に与えた影響について講義する。
5回	(米) アメリカン・ルネッサンスの成立が、ヨーロッパ思想への対抗としての超越主義に立脚していることを論じる。
6回	(米) アメリカン・ルネッサンスについて、基本概念になる「罪」を作家たちがいかにとらえたかの諸相を、作品の解釈を通じて講義する。
7回	(英) 19世紀末の文学として有名な世紀末芸術について、その様相を美術作品と比較しつつ講義する。
8回	(米) リアリズムの成立について、19世紀末以降のアメリカ社会の激変を予兆する文学として考える立場から講義する。
9回	(英・米) イギリスとアメリカで起こったモダニズムについて、第一次世界大戦、深層心理学、文学の影響関係に基づいて論じる。
10回	(英・米) モダニズムという思潮が、音楽、美術、建築といった多様な分野へと波及した様相を紹介する。
11回	(米) 1920年代のロスト・ジェネレーションの作家について、何が「失われた」のかを論じる。
12回	(英・米) 1950年代における「予言」として性格を帯びて現代詩が現れた様相について紹介する。
13回	(英・米) 1960年代のマイノリティの文学の顕在化について、多元文化と英語圏文学とのかかわりから論じる。
14回	英・米以外の英語圏文学について、旧植民地の文学が認知されるようになった事情を解説する。
15回	伝統的な文学史を読み直す可能性についてこれまでの講義を振り返り、英米文学の定義の再考のポイントについて論じる。
16回	最終評価試験を実施する。論述形式で行う。

回数	準備学習
1回	1年次「英米文学概論」で学修した内容を振り返っておくこと。(標準学習時間30分)
2回	古英語から中英語にかけてのイギリス文学およびイギリス史について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
3回	イギリスの市民革命の歴史を予習しておくこと。(標準学習時間30分)
4回	アメリカの独立に関する歴史を予習しておくこと。(標準学習時間30分)
5回	アメリカのロマン主義との違いを理解するため、イギリスのロマン派の詩人の特徴を復習しておくこと。(標準学習時間30分)
6回	アメリカのロマン主義の中心人物、エマソンの思想について復習しておくこと。(標準学習時間30分)
7回	ロマン主義が解体される様相を復習しておくこと。(標準学習時間30分)
8回	アメリカの急速な工業国家化へのプロセスを予習しておくこと。(標準学習時間30分)
9回	19世紀末から20世紀にかけて激変した思想の状況を予習しておくこと。(標準学習時間30分)
10回	モダニズムが、美術や外国文学(たとえば日本文学)に及ぼした影響について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
11回	1920年代の空前の好景気の様相について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	第二次世界大戦後の冷戦について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
13回	1960年代の社会の混乱について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
14回	イギリスが植民地とした国について予習しておくこと。(標準学習時間30分)
15回	これまでの講義内容を振り返り、英米文学の「範囲」について考え直すこと。(標準学習時間60分)

講義目的	英語圏文学作品を、その社会に対する批判意識を中軸に据えて講義する。講義の対象とする作家作品の時代は、19世紀と20世紀の英語圏作家作品が中心となる。文学史を通して、個人や社会、そして異文化を理解するに資する知識を受講者は学ぶ。作品にあらわれる作家個人の思想やその意図を超えた同時代性という要素をとくに強調して教える。「英米文学概論」で扱う内容をさらに深化させた講義内容である。教育の基本である語学力を向上させるために、「文学作品そのものを読む」態度を最も重視するが、作家作品についての専門的知識、文学と社会との関係という背景的知識にも常に言及する。(中等教育学科英語教育コースの学位授与方針項目Aに強く関与する。)
達成目標	受講者が、文学と社会という連関を理解し、現代の諸問題への批判意識を身につけることを到達目標とする。英米文学の作家作品についての基本知識を修得するだけでなく、文学作品の原文を具体的に評釈できる基礎的な力をもつようになること。
キーワード	英米文学 英米史 英米思想史
成績評価(合格基準60)	毎回の授業時に回収する小レポート(50%)と、論述式の最終評価試験(50%)を総合して評価する。ただし、最終評価試験に最低合格基準点を設ける。
関連科目	1年次で、「英米文学概論」(必修科目)を履修していること。
教科書	指定せず、ハンドアウトを毎回、全員に配付する。受講者は、欠席した場合、次回講義開始時まで担当教員から指示を受けること。
参考書	川崎寿彦,『イギリス文学史』,成美堂,1988年. 渡辺利雄,『講義アメリカ文学史』全3巻+補遺,研究社,2007年.
連絡先	A 1号館10階 香ノ木研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による論述形式とする。具体的な問題形式や試験時の参照物件等は、初回の講義時に説明する。講義資料は講義時のみに配付し、後日の配付はしない。講義中の録画・録音や撮影は認めない。提出課題は4回分をまとめて返却する。
試験実施	実施する

科目名	国語探究 (FES5P220)
英文科目名	Advanced Japanese I
担当教員名	奥野新太郎(おくのしんたろう)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 実力判定試験
2回	「敬語」の基礎的な知識や用法について論じる
3回	「敬語」に関する演習問題を行う
4回	「敬語」に関するまとめを行う
5回	「文法」の基礎的な知識や用法について論じる
6回	「文法」に関する演習問題を行う
7回	「文法」に関するまとめを行う
8回	「敬語」「文法」に関する確認試験を行う
9回	「語彙・言葉の意味」の基礎的な知識や用法について論じる
10回	「語彙・言葉の意味」に関する演習問題を行う
11回	「語彙・言葉の意味」に関するまとめを行う
12回	「漢字・表記」の基礎的な知識や用法について論じる
13回	「漢字・表記」に関する演習問題を行う
14回	「漢字・表記」に関するまとめを行う
15回	「語彙・言葉の意味」「漢字・表記」に関する確認試験を行う
16回	最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと 日本語についてこれまでの人生で学んできたことを振り返り、見つめ直しておくこと 【120分】
2回	配付資料を読み、教科書の練習問題を解いておくこと 【120分】
3回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
4回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
5回	配付資料を読み、教科書の練習問題を解いておくこと 【120分】
6回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
7回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
8回	これまでの授業を復習しておくこと 【120分】
9回	配付資料を読み、教科書の練習問題を解いておくこと 【120分】
10回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
11回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
12回	配付資料を読み、教科書の練習問題を解いておくこと 【120分】

13回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
14回	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと 課題をしっかりとってくること 【120分】
15回	これまでの授業を復習しておくこと【120分】
16回	これまでの授業を復習し、十分に準備をして臨むこと 【標準学習時間】120分

講義目的	日本語検定における6領域（敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字）に基づきつつ、講義と演習を繰り返すことにより、言語としての日本語の知識と運用能力の基礎を総合的に学ぶ。本科目はカリキュラムポリシーのうちC、Dに該当する。
達成目標	日本語検定3級合格に相当する日本語の知識及び運用能力を修得する。 現代日本語に関する総合的な理解を深める。 本科目はディプロマポリシーのうちB、C、Dに該当する。
キーワード	国語学、言語学、日本語検定
成績評価（合格基準60）	小テスト・課題等30%、確認・最終評価試験70% 総計60%以上が合格
関連科目	国語探究、日本語学概論、日本語文法、日本語表現
教科書	『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級 3・4級受検用 増補改訂版』/須永 哲矢等/東京書籍/2016年/978-4487810529
参考書	日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」初級 5・6・7級受検用 増補改訂版/須永 哲矢等/東京書籍/2016年/978-4487810536：日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」上級 1・2級受検用 増補改訂版/須永 哲矢等/東京書籍/2016年/978-4487810512：日本語の謎を解く/橋本 陽介/新潮社/978-4106037849：「日本語ライブラリー」シリーズ/沖森 卓也等/朝倉書店： 国語辞典必携（中型以上のもの。電子辞書可） *その他、授業中に紹介する
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 E-Mail: okuno_ped.ous.ac.jp [@]
注意・備考	予習必須。 資料は授業中に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。 受講生の日本語レベルに応じて、授業のレベルや進度を変更することがある
試験実施	実施する

科目名	日本文学（古典）（FES5Q210）
英文科目名	Japanese Literature I(classic)
担当教員名	山崎桂子（やまさきけいこ）
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス文字の歴史と平仮名について解説する。変体仮名の読解練習をする。
2回	徒然草の概説（時代背景・随筆・作者兼好・書名）をする。変体仮名の読解練習をする。
3回	徒然草の概説（成立・内容・伝本・古注釈書・正徹本）をする。演習担当段と日程の調整をする。
4回	モデル演習（序段）を行う。参考文献を紹介する。変体仮名の読解練習をする。
5回	変体仮名の読解練習をする。
6回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
7回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
8回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
9回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
10回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
11回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
12回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
13回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
14回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。
15回	演習（受講生が好きな段を担当し、発表、質疑応答）を行う。総まとめを行う。
16回	変体仮名を翻字、校訂し、現代語訳をする形の評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
3回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
4回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
5回	宿題の変体仮名を手引を用いて翻字してくること。【標準学習時間120分】
6回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。徒然草のパロディを作ってくること。【標準学習時間120分】
7回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
8回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
9回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
10回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
11回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
12回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
13回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
14回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
15回	テキストの演習予定段を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
16回	変体仮名を自在に読めるようになっておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	徒然草を演習形式で講読することにより、徒然草に描かれた兼好の美意識・教養・趣味・思想・説話を自分なりに味読・鑑賞する力を身につける。また、変体仮名の解読に習熟し、古典を原典から読めるようになる。古写本の知識を得る。本科目はカリキュラムポリシーのうち、「歴史・文化、幅広い教養」の獲得を目的とする。
達成目標	手引きを使って変体仮名が読めるようになる。本文校訂ができるようになる。参考文献を用いて各段の内容を理解し、自分なりの解釈と意見を述べられる。きちんとした演習資料が作成できる。本科目はディプロマポリシーのうち、Bに相当する。
キーワード	徒然草、兼好法師、中世、随筆、草庵文学、変体仮名
成績評価（合格基準60）	演習 資料作成・発表・質疑応答（60%）、仮名テスト（40%）により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	日本文学概論、日本文学史
教科書	『校注徒然草』/ 稲田利徳編 / 和泉書院 / 1987 / 978-4-870882-67-6 『仮名手引』/ 神戸平安文学会編 / 和泉書院 / 1981 / 978-4-900137-26-4

参考書	『徒然草全注釈上・下』 / 安良岡康作 / 角川書店 / 1967・1968 / 978-4-047610-07-1・978-4-047610-08-9新編日本古典文学全集『徒然草他』 / 永積安明他 / 小学館 / 1995 / 978-4-096580-44-9『徒然草講座』全4巻 / 有精堂編集部編 / 有精堂出版 / 1974～1977
連絡先	A1号館9F 山崎研究室E-Mail: yamasaki ped.ous.ac.jp (@)
注意・備考	古語辞書（電子辞書可）を毎回持参すること。演習なので受講者数により進度や内容が変更することもある。訂正した演習資料を再提出させる。 検印の上、コメントを付して返却する。講義中の録音のみ個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	英語科内容論 A (FES5Q310)
英文科目名	English as a Subject A
担当教員名	地村彰之(ぢむらあきゆき)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語科内容論(音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など)について概説する。
2回	音韻論から見た英語テキスト分析(1)(英詩、英米小説)をする。
3回	音韻論から見た英語テキスト分析(2)(戯曲、エッセイ、ジャーナリズム英語など)をする。
4回	形態論から見た英語テキスト分析(1)(英詩、英米小説)をする。
5回	形態論から見た英語テキスト分析(2)(戯曲、エッセイ)をする。
6回	形態論から見た英語テキスト分析(3)(ジャーナリズム英語など)をする。
7回	統語法から見た英語テキスト分析(1)(英詩、英米小説)をする。
8回	統語法から見た英語テキスト分析(2)(戯曲、エッセイ)をする。
9回	統語法から見た英語テキスト分析(3)(ジャーナリズム英語など)をする。
10回	意味論から見た英語テキスト分析(1)(英詩、英米小説)をする。
11回	意味論から見た英語テキスト分析(2)(戯曲、エッセイ)をする。
12回	意味論から見た英語テキスト分析(3)(ジャーナリズム英語など)をする。
13回	語用論から見た英語テキスト分析(1)(英詩、英米小説)をする。
14回	語用論から見た英語テキスト分析(2)(エッセイ、ジャーナリズム英語など)をする。
15回	まとめをする。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)

1 1 回	1 0 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 2 回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語テキスト分析について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までにについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	英語テキスト分析について理解すること。(標準学習時間60分)

講義目的	各ジャンルの英語テキスト(英詩、英米小説、戯曲、エッセイ、ジャーナリズム英語など)を、英語科内容論(音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など)の視点から分析し、学習する上で日本人学習者にどのような困難点があるか、どのようにすれば理解力と運用力を向上させることができるかを講義する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中等英語教育における英語科内容論を英語学の立場から講義する。 ・各ジャンルの英語テキスト(英詩、英米小説、戯曲、エッセイ、ジャーナリズム英語など)を、英語科内容論(音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など)の立場から分析する。 ・このような内容の授業によって、学生が英語科内容論を理解し、中等教育の英語教師に求められる英語科内容論の基礎的な知識を修得することを目標とする。 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A, C)。()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論
成績評価(合格基準60)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験による評価50%、レポートによる評価50点 ・評価の観点:英語科内容論を通して英語という言葉の特質がより深く理解できている。
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史、英語探究
教科書	『共通の言語』(研究社小英文叢書)/武田勝彦解説注釈/研究社出版/ISBN978-4-327-01187-1
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	予習・復習をしっかりとすること。英語の辞書を必ず持参すること。一回目の授業までにテキストを購入しておくこと。
試験実施	実施する

科目名	漢文学概論 (FES5R110)
英文科目名	Introduction to Chinese Classics
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 漢文学について概説する
2回	詩の誕生 『詩経』を中心に説明する
3回	君臣の在り方と文学 『楚辞』を中心に説明する
4回	歴史の誕生 『史記』を中心に説明する
5回	漢代の詩文 和蕃公主に関する作品を中心に説明する
6回	六朝の詩文 『文選』を中心に説明する
7回	恋愛詩の位置 『玉台新詠』を中心に説明する
8回	盛唐の詩文 李白と杜甫の作品を中心に説明する
9回	中唐の詩文 白居易の作品を中心に説明する
10回	編年体の歴史書 『資治通鑑』について説明する
11回	北宋の詩文 蘇軾の作品を中心に説明する
12回	南宋の詩文 陸游の作品を中心に説明する
13回	明清の小説 白話文学について説明する
14回	日本への影響 『和漢朗詠集』について説明する
15回	明治時代の漢詩 正岡子規や夏目漱石などを中心に説明する

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでくること 高校時代の漢文の教科書を見直しておくこと 中国史(世界史)を復習しておくこと (初回の授業で漢和辞典の紹介・説明をするので、まだ急いで買わなくてよい) 【標準学習時間】120分
2回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと) 初回の授業での説明を踏まえて、各自漢和辞典を用意すること 【標準学習時間】120分
3回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
4回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
5回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
6回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
7回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
8回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
9回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
10回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
11回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
12回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
13回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
14回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】

15回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしていくこと(必ず漢和辞典を使うこと)【120分】
講義目的	本講義は、漢文学(中国古典文学)の歴史的な流れを、中国史や思想史、或いは日本史などとの繋がりの中で学びつつ、その概要を理解することを目標とする。 本科目はカリキュラムポリシーのうちA、B、C、Dに該当する。
達成目標	中国文学史の概要を理解する。 漢和辞典等を用いた漢文読解の実践的技術を習得する。 様々な作品の読解を通じて、各時代の文化・歴史の様相と、そこに表れる思想や感情、人間の普遍性を理解する。 本科目はディプロマポリシーのうちB、Cに相当する。
キーワード	漢文 中国文学 中国史 日本文学 日本語 漢字
成績評価(合格基準60)	小テスト(20%)、学期末のレポート(80%)により、総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	漢文学 日本文学史
教科書	使用しない
参考書	『中国文学史』/前野直彬[編]/東京大学出版会/1975年/9784130820363: 『中国思想文学史』/日原利国/朋友書店/1999年/978489281069 5: 『中国文学史新著(増訂本)』上中下/章培恒・駱玉明[主編]/井上泰山等[訳]/関西大学出版部/2011~2014年/9784873545127, 9784873545554, 9784873545738: *その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F奥野研究室 okuno_ped.ous.ac.jp [@]
注意・備考	予習必須。 資料は授業中に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。 受講生の理解度により、内容や進度を調整・変更することがある。
試験実施	実施しない

科目名	異文化理解 (FES5R210)
英文科目名	Cross-cultural Understanding
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	文化とは何か？、異文化とは何か？、アメリカ文化理解の多文化理解への応用可能性について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
3回	世界の文化分布図、シミュレーション学習について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
4回	英語圏文化と英語文化：言語と文化のつながりと対応関係、英語コミュニケーションにおける主張性と論理性について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
5回	自己開示と相互発話について日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
6回	対立とコンフリクト・マネージメントについて日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
7回	高コンテクストと低コンテクスト、非言語コミュニケーションについて日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
8回	クラックホーンとストロッドベックの価値志向について日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。小テストを実施する。
9回	ホフステードの文化の次元(1)個人主義と集団主義について日米比較の観点から説明する。
10回	ホフステードの文化の次元(2)権力格差、男性らしさと女性らしさについて日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
11回	ホフステードの文化の次元(3)不確実性の回避、長期志向と短期志向について日米比較の観点から説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
12回	異文化理解の手法：DIEによる事例分析(シアトルのオフィスでの葛藤)について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
13回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第14回授業までに、アメリカ文化的行動に関して教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	アメリカ文化理解に基づいた行動実践について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。主張する・交渉する・褒める・励ます・クレームを言う・援助を頼む・話し合う、をテーマとしたロールプレイを実施する。
15回	日本の英語教育における異文化理解のアプローチ方法、実践方法、展望について説明する。関連したグループ・ディスカッションを実施する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。小テストを実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、文化について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第3回授業までに、シミュレーション学習について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第4回授業までに、英語圏の異文化について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第5回授業までに、自己開示と相互発話について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第6回授業までに、コンフリクト・マネージメントについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第7回授業までに、コミュニケーション・スタイルについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第8回授業までに、クラックホーンとストロッドベックの価値志向について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第9回授業までに、ホフステードの文化の次元について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第10回授業までに、ホフステードの文化の次元について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)

10回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第11回授業までに、ホフステードの文化の次元について教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第12回授業までに、DIEメソッドについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第13回授業までに、コルプの学習サイクルについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第15回授業までに、日本の英語教育と異文化理解の関係について自分の意見を形成しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあったレポートを作成すること。これまでの授業の復習をすること。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	本授業では、日本文化との対照性が認められるアメリカ文化を中心に取り上げ、その考え方・価値観・発想・行動様式について体験的に学習することを通して、異文化理解のメソッドロジーに関する知識を獲得することを目指す。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語と文化のつながり合いに気づくことができる。(D) ・異文化接触と葛藤にまつわる心理学的現象を理解することができる。(D) ・アメリカ文化との対比で日本文化を捉えることができる。(D)
キーワード	文化、異文化、日米文化、英語コミュニケーション
成績評価(合格基準60)	小テスト20%、レポート課題80% で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
関連科目	国際理解教育概論、英語科内容論C
教科書	異文化トレーニング ボードレス社会を生きる / 八代京子他著 / 三修社 / 978-4384012439
参考書	異文化理解入門 / 原沢伊都夫著 / 研究社 / 978-4327377342、文化と心理学 / D. マツモト著 / 北大路書房 / 978-4762822209
連絡先	A1号館10階 奥西研究室 Tel 086-256-9634
注意・備考	事前に配布された資料については授業の前に必ず読んでおくこと。 授業中に行われるディスカッションには積極的に参加すること。
試験実施	実施しない

科目名	英語科教育法 (FES5R310)
英文科目名	Teaching of English III
担当教員名	坂本南美(さかもとなみ)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	海外の英語教育と日本の英語教育を解説する
2回	中学校での5つの領域を統合的に含んだ創作活動について協議する
3回	中学校での5領域を統合的に含んだ創作活動の実際とその工夫を説明する
4回	高等学校学習指導要領における授業設定(思考力, 判断力, 表現力の育成)を解説する
5回	論理的思考を育成するための授業づくりを解説する
6回	高等学校におけるライティングによる英語表現(ブックレポート)について協議する (1) 学生による発表と授業研究
7回	高等学校におけるライティングによる英語表現(エッセイ)について協議する (1) 学生による発表と授業研究
8回	高等学校におけるスピーキングによる英語表現(スピーチ)について協議する (1) 学生による発表と授業研究
9回	高等学校におけるスピーキングによる英語表現(ディベート)について協議する (1) 学生による発表と授業研究
10回	高等学校における多読指導と授業研究について協議する (1) 学生による発表と授業研究
11回	中学校・高等学校におけるシャドーイング指導と授業研究について協議する (1) 学生による発表と授業研究
12回	教案から見る授業デザイン研究について協議する (1) 学生による発表と授業研
13回	英語科の評価と授業研究について協議する (1) 学生による発表と授業研究
14回	英語科の評価と授業研究について協議する (1) 学生による発表と授業研究
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを行う (1) 学生による発表と授業研究 (2) リフレクション
16回	1回~15回の総括を説明し, 最終評価試験を実施する

準備学習	毎回の講義で中心となる内容の復習を行うこと 次時の授業で取り上げられる言葉や鍵概念, 活動, 教材について述べられるように予習し, 準備しておくこと 授業発表の準備も丁寧に行うこと
講義目的	日本の英語教育について海外のものと比較しながら, 次期学習指導要領をもとに, 現在の英語教育実践の特徴を理解し, 授業実践者としての視点とスキルを体得することを目的とする。そして, 5つの領域を統合的に高めていける授業デザインを行う力を養う。また, 講義の内容を踏まえて, 中学校・高等学校での授業案を作成し, 発表者が教師となり, その他の受講生が全員生徒となって, 模擬授業を行う。互いにディスカッション行ったあと, , ポートフォリオによる振り返りを通して, 自律し学び続ける教師としての礎を育てる。
達成目標	中学校および高等学校の英語科において授業をデザインする中で必要とされる知識と授業力を身につける(A, C, E) 英語で模擬授業を行うことのできる英語力を身につける(A, B) 5領域を統合的に織り交ぜた学習指導案を作成し, 生徒の学習段階に応じた授業実践を行う力を身につける(A, D, E) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語科授業デザイン / 学習指導要領 / 学習指導案 / 模擬授業
成績評価(合格基準60)	定期試験による評価50%, 模擬授業をルーブリックで評価25%, 提出課題による評価25% ・評価の観点: 理論的知識と実践との往還がなされている 実際の英語模擬授業における応用ができています
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法
教科書	中学校英語教科書『New Crown』(1, 2, 3年生用) / 三省堂: 高等学校英語教科書『UNICORN - English Communication -』() / 文英堂

参考書	『学習指導要領』文部科学省のサイトを参照
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションや発表を行う 講義資料は授業で配布する
試験実施	実施する

科目名	Practical Communication (FES5V210)
英文科目名	Practical Communication I
担当教員名	ナカムライエン* (なかむらいえん*)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 1 Identity に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
3回	Unit 1 Identity に関して、プレゼンテーションを行う。
4回	Unit 2 Sports に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
5回	Unit 2 Sports に関して、プレゼンテーションを行う。
6回	U1-U2の学修についてReviewを実施する。
7回	Unit 3 The Night に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
8回	Unit 3 The Night に関して、プレゼンテーションを行う。
9回	Unit 4 Fashion に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
10回	Unit 4 Fashion に関して、プレゼンテーションを行う。
11回	U3-U4の学修についてReviewを実施する。
12回	Unit 5 Homes に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
13回	Unit 5 Homes に関して、プレゼンテーションを行う。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を行う。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていきける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。(Practical Communication 1~4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第一段階目にあたる。)(中等教育学科英語教育コースディプロマポリシーのA,Dに対応する。)
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
成績評価(合格基準60)	小テスト30%、プレゼンテーション・スピーチ30%、口述試験20%、最終評価試験(ライティング)20%で評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	Practical Communication II-IV、発信英語 I-IV

教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8
参考書	
連絡先	
注意・備考	この授業ではアクティブラーニングの一環としてディスカッションを実施する。
試験実施	実施する

科目名	情報リテラシー (FES5W110)
英文科目名	Information Literacy
担当教員名	大熊一正 (おおくまかずまさ), 松岡律 (まつおかただし)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 岡山理科大学におけるICT機器の使い方および授業の進め方を説明する。 (全教員)
2回	Microsoft Wordの操作 (自己紹介新聞) (1) Microsoft Wordを利用した自己紹介新聞の作り方の概要を説明する。 (全教員)
3回	Microsoft Wordの操作 (自己紹介新聞) (2) Microsoft Wordにおいて書式と罫線の使い方を説明する。 (全教員)
4回	Microsoft Wordの操作 (自己紹介新聞) (3) Microsoft Wordにおいてオブジェクトを利用する操作について説明する。 (課題提出1) (全教員)
5回	Microsoft Excelの操作 (1) 表計算の基本的な操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 (課題提出2) (全教員)
6回	Microsoft Excelの操作 (2) グラフ・オブジェクトの操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 (課題提出3) (全教員)
7回	WordとExcelの連携 データ・オブジェクトの共有方法について説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 (課題提出4) (全教員)
8回	インターネットの基礎 (1) インターネットの歴史とメールの仕組みについて説明する。 (全教員)
9回	インターネットの基礎 (2) Web情報検索の基礎的な知識について説明する。 (全教員)
10回	情報モラル ネット社会のルールとメディア・リテラシーについて説明する。 (全教員)
11回	最終課題課題作成 (1) 最終課題として、学修教材を作ることの意義とその方法について説明する。 (全教員)
12回	最終課題作成 (2) 教材の視覚的レイアウトについて説明する。

	(全教員)
13回	最終課題作成(3) 教材作成におけるキャプション利用と画像の加工方法について説明する。
	(全教員)
14回	最終課題作成(4) 作成した教材をメディア・リテラシー的観点から再考する。
	(全教員)
15回	最終課題作成(5) 作成した教材のプレゼンテーション方法とその評価方法を説明する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	キーボードやマウスの使い方など、Windowsの基本的操作を理解しておくこと。 USBメモリー等、必要なものを準備しておくこと。 (標準学習時間30分)
2回	Microsoft Wordの基本的操作を確認しておくこと。 自己紹介の内容を考えておくこと。 (標準学習時間30分)
3回	書式設定と罫線の利用方法を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
4回	文字列とオブジェクトの位置関係および調整方法について理解しておくこと。 (標準学習時間30分)
5回	Microsoft Excelの基本操作を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
6回	グラフの作成法およびアレンジ方法について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
7回	アプリ間でのデータのやり取りについて、確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
8回	インターネットの歴史について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
9回	効率的なweb検索について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
10回	著作権について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
11回	小中学校の授業で配る想定教材プリントについて構想を練っておくこと。 (標準学習時間30分)
12回	見やすいプリントに必要な条件について考えておくこと。 (標準学習時間30分)
13回	画像処理ソフトを使った画像の加工に挑戦しておくこと。 (標準学習時間30分)
14回	教材プリントに投影されている作者の意図、特徴について考察しておくこと。 (標準学習時間30分)
15回	教材のポイントをまとめておくこと。 (標準学習時間30分)

講義目的	コンピューター操作に習熟するために、ワード、エクセル等のアプリケーションを駆使して様々な課題作成を行い、グラフィカルな教材を効果的に作成する基本的技法を身につけると同時に、インターネットの歴史、電子メールやweb情報検索の基礎、および情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識の習得を通じ、情報のトータルな理解を目指す。 (中等教育学科学位授与の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	(1) コンピューターやOSの基本的仕組みを説明できる。 (2) ワープロ、表計算ソフトの基本的な操作ができる。 (3) ネットワークの基本的知識や情報モラルを身につける。 (4) 1~3の知識・技能を用いて効果
キーワード	情報モラル, Microsoft Office
成績評価(合格基準60)	課題提出1~4:計50% (達成目標(1)~(3)の達成度を評価)、

	最終課題（50％）（達成目標(1)～(4)の達成度を評価）、 により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	ICT活用教育
教科書	なし
参考書	できるWord 2016 Windows 10/8.1/7対応/田中 亘/インプレス/9 784844339205 できるExcel 2016 Windows 10/8.1/7対応/小館 由典/インプレス /9784844339199
連絡先	松岡研究室(A1号館9階) 大熊研究室(C9号館4階)
注意・備考	配布資料は、適宜授業中に配布する。また、必要に応じて課題に対するフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	Practical Communication (FES5W210)
英文科目名	Practical Communication I
担当教員名	ナカムライエン* (なかむらいえん*)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 1 Identity に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
3回	Unit 1 Identity に関して、プレゼンテーションを行う。
4回	Unit 2 Sports に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
5回	Unit 2 Sports に関して、プレゼンテーションを行う。
6回	U1-U2の学修についてReviewを実施する。
7回	Unit 3 The Night に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
8回	Unit 3 The Night に関して、プレゼンテーションを行う。
9回	Unit 4 Fashion に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
10回	Unit 4 Fashion に関して、プレゼンテーションを行う。
11回	U3-U4の学修についてReviewを実施する。
12回	Unit 5 Homes に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
13回	Unit 5 Homes に関して、プレゼンテーションを行う。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を行う。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていきける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。(Practical Communication 1~4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第一段階目にあたる。)(中等教育学科英語教育コースディプロマポリシーのA,Dに対応する。)
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
成績評価(合格基準60)	小テスト30%、プレゼンテーション・スピーチ30%、口述試験20%、最終評価試験(ライティング)20%で評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	Practical Communication II-IV、発信英語 I-IV

教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8
参考書	
連絡先	
注意・備考	この授業ではアクティブラーニングの一環としてディスカッションを実施する。
試験実施	実施する

科目名	日本語史 (FES5W220)
英文科目名	Japanese Etymology
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	日本語の起源について、様々な説を紹介し、説明する。
2回	日本語の成立について、説明する。
3回	上代語 (奈良時代語) の特色について、説明する。
4回	中古語 (平安時代語) の音韻、文字、語彙の特色について、説明する。
5回	中古語 (平安時代語) の文法、表現の特色について、説明する。
6回	古語の文法について詳述し、説明する。
7回	中世語 (鎌倉・室町時代語) の特色について、説明する。
8回	室町時代末期・江戸時代初期の言語資料を基に、近代語の萌芽について、説明する。
9回	近世語 (江戸時代語) の特色について、説明する。
10回	明治時代の言語資料を基に、近代語の成立について、説明する。
11回	日本語史の観点から、共通語と方言について、説明する。
12回	色彩、空間を表すことばの意味の変遷について、説明する。
13回	自然、身体を表すことばの意味の変遷について、説明する。
14回	感情、評価を表すことばの意味の変遷について、説明する。
15回	やまとことばにみる日本人の認識のあり方について、説明する。
16回	評価試験を実施し、試験後に解説する。

回数	準備学習
1回	日本語の起源をめぐるテレビ番組や雑誌、本などのいずれかの一端に触れてみる。(標準学習時間60分)
2回	第1回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
3回	第2回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
4回	第3回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
5回	第4回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
6回	第5回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
7回	第6回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
8回	第7回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
9回	第8回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
10回	第9回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
11回	第10回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
12回	第11回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
13回	第12回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
14回	第13回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
15回	第14回の講義で配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	日本語の歴史における音韻、語彙、文法、文体などの変遷を概観し、日本語の成立と展開について理解を深め、古文と現代文の関連を認識する。古代語から現代語への転換期における近代語の萌芽と成立を探り、現代語の表現と理解に生かす。また、ことばの意味の変遷を通して、文化的な背景や日本人の感じ方、考え方を探る。(カリキュラムポリシーBに対応する。)
達成目標	日本語の起源と成立をめぐる諸説に触れて、日本語の特質に迫る。時代背景に応じた日本語の変遷について、理解する。各時代語の特色を音韻、語彙、文法、文体、待遇表現などの面から捉え、音韻史、語彙史、文法史、文体史の概略を理解する。古代語から近代語への変遷が標準語の変遷と関わり、共通語と方言の使い分けにつながることを理解する。ことばの意味の変遷と日本人の民族性との関連を理解する。(ディプロマポリシーBに対応する。)
キーワード	母音調和、開音節、上代特殊仮名遣、曲用、絶対敬語、相対敬語、係り結び、活用、音便、相(アスペクト)、連体止め、古辞書、節用集、階層語、標準語、共通語、方言
成績評価(合格基準60)	定期試験により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	日本語学概論、日本語文法、日本語表現
教科書	大野晋(1966)『日本語の年輪』新潮文庫

参考書	金田一京助（1976）『日本語の変遷』講談社学術文庫、森本哲朗（1985）『日本語表と裏』新潮文庫、山下秀雄『日本のことばとところ』講談社学術文庫、真田信治『標準語はいかに成立したか』創拓社
連絡先	A1号館9階910研究室（直通電話086-256-9774、eメールkawahara@ped.ous.ac.jp）
注意・備考	古語辞典を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	教育社会学 (FES5X210)
英文科目名	Sociology of Education
担当教員名	松岡律 (まつおかただし)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	社会学という考え方・・・授業の内容・進行に関するイントロダクション
2回	社会化(1) 家庭と教育・・・社会化エージェントとしての親
3回	社会化(2)-1 教師と学校・・・公教育制度の社会的役割
4回	社会化(2)-2 教師と生徒の関係性・・・コミュニケーションの非対称性
5回	社会化(3) 教育とジェンダー・・・日常に埋め込まれたコードに気付く
6回	教師という生き方・・・教師集団の特質
7回	階層社会と学歴社会・・・メリトクラシーに隠された不平等
8回	大学と大学生・・・全入時代と格差の拡大
9回	教育とマス・メディア・・・商業主義との葛藤
10回	教育問題(1) いじめ・・・いじめの原因は何か
11回	教育問題(2) 不登校・・・責任は誰にあるのか
12回	教育問題(3) 少年非行・・・行為の瞬間の内面に注目する
13回	教育と社会(1) ニート・フリーター・・・社会と個人の関係性を問う
14回	教育と社会(2) 政治と教育・・・教育施策の変遷から見えるもの
15回	まとめと展望・・・教育をめぐる大人の責任と子どもの成長

回数	準備学習
1回	社会学に関する概説書を読んでおくこと。(標準学習時間:90分)
2回	社会化という概念について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
3回	学校の社会的役割について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
4回	ヘゲモニーという言葉の意味を調べておくこと。(標準学習時間:90分)
5回	ジェンダー問題について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
6回	学閥について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
7回	メリトクラシーという言葉について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
8回	大学生の学力低下について調べておくこと。(標準学習時間:90分)
9回	メディア・リテラシーについて調べておくこと。(標準学習時間:90分)
10回	自身といじめの関連について整理しておくこと。(標準学習時間:90分)
11回	不登校の原因について考えておくこと。(標準学習時間:90分)
12回	非行はなぜ起きるのか、考えをまとめておくこと。(標準学習時間:90分)
13回	ニートとフリーターの違いについて調べておくこと。(標準学習時間:90分)
14回	政治が教育にどう関わってくるのか、調べて考えておくこと。(標準学習時間:90分)
15回	これまでの講義ノートをよく見返しておくこと。(標準学習時間:90分)

講義目的	教育社会学は社会学の立場から「教育」をながめる学問である。通常、「教育」と聞けば真っ先に「学校」が思い浮かぶが、「教育」という現象は「学校生活」の限られた空間・時間だけでなく、家庭や身近な大人たちとの関わりの中で日常的に発生する、不断の社会的営為である。本講義では、教育にまつわる様々な事象を社会との関係性において捉え、そうした観点から受講生がこれまで過ごして来た学校生活を振り返り、また「教師になるとは何を意味するのか?」という根源的な問いも含めて幅広く理解して行くことを目的とする。 (初等教育学科の学位授与方針Dに最も強く関与する)
達成目標	教育の社会的意義・教職の社会的役割について客観的に深く理解すること。 受講者が自身の職業選択をめぐり、繰り返し問い直すことのできる視点を獲得すること。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	毎回の小レポート(50%)、および最終課題(50%)を総合評価する。
関連科目	
教科書	なし
参考書	・荻谷剛彦 他著『教育の社会学 新版- 常識 の問い方、見直し方』有斐閣アルマ、2010年

連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	I C T活用教育 (FES5Y310)
英文科目名	Education Utilizing ICT
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 坂本南美 (さかもとなみ), 大橋和正* (おおはしかずまさ*), 榊原道夫 (さかきはらみちお)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ICTとは何かについて利用面と技術面を重点に学修する。また、教育への応用の有用性と問題点について講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 (榊原 道夫)
2回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどインターネットについて全般的、基本的な事項を重点に講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 (榊原 道夫)
3回	インターネット上のコンテンツ利用における注意点特に著作権について講義する。また教育に利用できる教材の紹介する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 (榊原 道夫)
4回	著作権について引き続き講義を行う。講義中30分程度で1回目から4回目目の内容について小テストを行い解説する。 (榊原 道夫)
5回	小学校図工, 中学校総合学習・学活における紙工作実践でのICT活用事例 ・教科書内容、学習指導要領について解説する。 (パワーポイント、デジタル教材、書画カメラの活用) ・ワードによる図形描画を行う。 (大橋 和正*)
6回	課題(演習) ・立体の一例を書画カメラでみせ展開図を描いてみる(ワード)。プリントして提出する。 ・指導案の書き方(ワード)の説明と演習を行う。 ・プリントして提出する。 (大橋 和正*)
7回	指導案の作成 ・図工、総合学習、学活のいずれかを対象に立体模型の展開図をつくる指導案を作成する(ワード演習)。 ・指導案作成演習。プリントして提出する。 (大橋 和正*)
8回	指導案の評価・講評 ・作成した指導案の講評(プリントを書画カメラで写す) ・点数評価とパフォーマンス評価 (大橋 和正*)
9回	教師に必要とされるICT活用指導力 ・教育の情報化について解説し、教育現場で必要とされているICT活用について解説する。 ・自治体間の格差について。 ・授業終了時にレポートを提出する。 (坂本 南美)
10回	次期学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけについて説明する。プログラミング的思考とは何かを概説する。小・中学校で導入されているプログラミング教育の現状を紹介する。スクラッ

	<p>子等のプログラミングツールの使用方法を説明し、実際に簡単なプログラムを作ってみる。</p> <p>(高原 周一)</p>
1 1 回	<p>前回到引き続き、スクラッチ等のプログラミングツールを用いて簡単なプログラムを作ってみる。グループで作品を見せ合い、さらにはグループ内で評価の高い作品を全体で共有する。</p> <p>(高原 周一)</p>
1 2 回	<p>授業でのICT活用事例について紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画およびプレゼンテーションソフトのアニメーション機能の活用 ・リアルタイムの映像のスクリーンへの投影 ・クリッカーの活用 ・インターネットを活用した事前・事後学習 <p>(高原 周一)</p>
1 3 回	<p>プレゼンテーションソフトを用いた授業や学習活動について紹介し、各教科の特性に合わせて実践的に授業で扱える教材を作成する。</p> <p>(坂本 南美)</p>
1 4 回	<p>グループで学生がプレゼンテーションソフトを用いた活動を発表し合い、リフレクションをもとにディスカッションを行う。</p> <p>(坂本 南美)</p>
1 5 回	<p>タブレットを用いた授業、児童・生徒がタブレットを用いて自律的に学習ができる援助、およびデジタル教科書について解説する。</p> <p>(坂本 南美)</p>

回数	準備学習
1 回	ICT、ICT利用、ICT利用と教育などのキーワードよりインターネット上の記述内容について調べておくこと。また、図書館等で関連する図書を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどを調べておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	著作権について全般的に調べておくこと。特にGNUライセンスを詳しく調べておくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	1回から3回目までの講義内容について復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	実践活動でのICT活用事例を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	ワードを用いて展開図を画面上に描いてみること。 (標準学習時間60分)
7 回	ワードを使って指導案を書いてみる(練習)。 (標準学習時間60分)
8 回	製作品の評価法を考えておくこと。 (標準学習時間60分)
9 回	「教育の情報化に関する手引き」(H22年10月)(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)の第1章、第3章、第7章を読んでおくこと。 (標準学習時間120分)
1 0 回	小・中学校で導入されているプログラミング教育の実例について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 1 回	プログラミングツールのより高度な使い方を調べ、自分の作ったプログラムを改良しておくこと。 (標準学習時間120分)
1 2 回	パワーポイントの使用方法について復習しておく。 (標準学習時間60分)
1 3 回	プレゼンテーションソフトを用いた授業教材を発表できるように準備をしておくこと。 (標準学習時間120分)
1 4 回	ICTを活用した授業と各教科における教材の開発について説明できるように復習すること。 (標準学習時間120分)
1 5 回	タブレットを用いた授業とデジタル教科書について具体的な活動を復習すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本授業では、ICT技術の急速な進展と社会への波及効果を見据えながら、教育現場で教員がICTを活用する能力及び児童、生徒がICTを様々な学習の場面で活用できるように指導できる能力を養う。 (この講義は初等教育学科、中等教育学科国語コース、中等教育学科英語コースの学位授与の方針Cに強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用教育の意義、学習指導要領における扱い、教育現場での普及状況について説明できる。 ・ ICT活用教育を進める上で必要となるセキュリティ管理、情報モラル教育の進め方について知っている。 ・ 教育評価にICTを活用するスキルを持っている。 ・ ICT活用教育で使われる代表的なデジタル教材および機器を知っており、活用することができる。 ・ プログラミング的思考について理解し、初歩的なプログラミングを行うことができる。 ・ 児童・生徒のICT活用学習を指導できる。
キーワード	ICT活用教育、セキュリティ管理、情報モラル教育、デジタル教材・機器、プログラミング教育、ICT活用事例
成績評価（合格基準60	個人に提出させるレポート（50%）、小テスト（10%）、教材等の成果物（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	情報リテラシー
教科書	なし
参考書	
連絡先	高原周一 A1号館3階319 E-Mail: takahara@ped.ous.ac.jp 坂本南美 A1号館10階1008 E-Mail: sakamoto@ped.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材等の成果物に対しては優秀な作品を全体に紹介したり、よくある間違いを指摘するという形でフィードバックを行う。 ・ 講義資料は教室で紙媒体で配布するが、必要に応じてMOMOCAMPUS上にもアップロードする。 ・ グループ内で作品を見せ合って批評し合うという形のアクティブラーニングを実施する。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	英語コミュニケーション (FES5Z110)
英文科目名	English Communication I
担当教員名	バロズクリスチャン* (ばろうずくりすちゃん*)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを実施する。
2回	コミュニケーションとは何か?について説明する。
3回	第一言語と第二言語について説明する。
4回	第二言語習得における基本的概念について説明する。
5回	バイリンガル話者と第二言語話者の違いについて説明する。
6回	第二言語習得理論(SLA)の基礎について説明する。
7回	第二言語習得理論(SLA)の応用について説明する。
8回	インプットとアウトプットを用いた教育実践例について説明する。
9回	コミュニケーション・コンピテンスの基礎について説明する。
10回	コミュニケーション・コンピテンスの応用について説明する。
11回	第二言語習得における学習者要因の基礎について説明する。
12回	第二言語習得における学習者要因の基礎についてディスカッションを実施する。
13回	第二言語習得における学習者要因の応用について説明する。
14回	第二言語習得における学習者要因の応用についてディスカッションを実施する。
15回	コミュニケーション能力を向上させる英語教授法について説明する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の目的や内容、評価方法、授業の進め方について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	ESL(English as a Second Language)とEFL(English as a Foreign Language)の違いに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	言語距離と言語転移、中間言語、化石化に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	インプット仮説に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	アウトプット仮説に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	文法的能力、談話能力に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	社会言語能力、方略的言語能力に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	性格、年齢(臨界期仮説)に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	英語コミュニケーションへの意欲、情意フィルター仮説に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	英語学習の動機づけ(道具的動機づけと統合的動機づけ)に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
14回	学習スタイルと学習方略に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本授業では、生徒の英語コミュニケーション能力を高める英語科授業とは何かについて考えることができるようになる前提として必要な、英語コミュニケーションと第二言語習得に関する基礎的知識を学習する。(中等教育学科英語教育コースのディプロマポリシーA,Dに対応する。)
達成目標	・さまざまな言語理論を認識する。・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	英語コミュニケーション、第二言語習得
成績評価(合格基準60)	レポート【2回】50%、定期試験 50%
関連科目	英語コミュニケーションII、英語科教育法I～VI
教科書	特になし(プリント、ワークシート、ユーチューブビデオ、パワーポイントファイル、雑誌、記事などを使用する)

参考書	Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy (3rd Edition) by H. Douglas Brown
連絡先	
注意・備考	この講義では、アクティブラーニングの一形態であるグループ・ディスカッションやペア・ワークを行う。
試験実施	実施する

科目名	国際比較教育論 (FES5Z210)
英文科目名	International Comparative Education
担当教員名	三輪千明* (みわちあき*)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	科目紹介、比較教育学、国際教育学について説明する。
2回	比較教育研究の発展と分析視点について説明する。
3回	比較教育研究の方法と意義について説明する。
4回	子育て文化の比較 (1) 自己主張と自己抑制の日英米比較について説明する。
5回	子育て文化の比較 (2) 躰と教育の日英比較について説明する。
6回	子育て文化の比較 (3) 日本人の対人関係と子育ての特徴について説明する。
7回	子育て文化の比較 (4) ディスカッションを実施する。
8回	教育制度の比較 (1) 新自由主義の教育改革について説明する。
9回	教育制度の比較 (2) 学校選択制と教育の民営化について説明する。
10回	教育制度の比較 (3) 諸外国の動向について説明する。
11回	教育制度の比較 (4) ディスカッションを実施する。
12回	教育開発の比較 (1) 途上国の教育開発の現状について説明する。
13回	教育開発の比較 (2) 日本の教育開発と国家の発展について説明する。
14回	教育開発の比較 (3) 教育の量的拡大・質的改善と国際教育協力について説明する。
15回	教育開発の比較 (4) ディスカッションを実施する。
16回	まとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握し、比較教育研究の発展及び分析視点に関し予習すること (標準学習時間80分)
2回	比較教育研究の発展や分析視点を説明できるよう復習し、次回の授業までに比較教育研究の方法について予習すること (標準学習時間120分)
3回	比較教育研究の方法について、長所・短所を踏まえて説明できるよう復習し、次回の授業までに教科書の該当部分を読み、子育て文化の比較に関する事前質問に答えること (標準学習時間80分)
4回	子育て文化の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の分析視点を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに教科書の該当部分を読み、子育て文化の国際比較に関する事前質問に答えること (標準学習時間120分)
5回	子育て文化の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の方法を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに教科書の該当部分を読み、子育て文化の国際比較に関する事前質問に答えること (標準学習時間120分)
6回	子育ての国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の意義を説明できるよう復習し、次回の授業までに子育て文化の国際比較に関するディスカッションに向けた準備を行うこと (標準学習時間120分)
7回	ディスカッションの結果を踏まえ、子育て文化の国際比較を通して日本の子育て文化の特徴を説明し、意見を述べられるよう復習し、次回の授業までに参考書などにより、新自由主義とは何かについて予習すること (標準学習時間120分)
8回	教育制度の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の分析視点を具体的に説明できるように復習し、次回の授業までに参考書などにより、学校選択制とは何かについて予習すること (標準学習時間80分)
9回	教育制度の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の方法を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに参考書などにより、新自由主義の教育政策を進める国を選び、その状況を調べてみる (標準学習時間120分)
10回	教育制度の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の意義を説明できるよう復習し、次回の授業までに教育制度の国際比較に関するディスカッションに向けた準備を行うこと (標準学習時間120分)
11回	ディスカッションの結果を踏まえ、教育制度の国際比較を通じた新自由主義の教育改革の長所と短所を説明し、意見を述べることができるよう復習し、次回の授業までに、配布資料を読み、戦後日本の農村地域における貧困と教育の関係を考えてくること (標準学習時間120分)
12回	教育開発の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の分析視点を具体的に説明できるように復習し、次回の授業までに参考書などにより、日本の教育発展と国家開発の関係を考えてくること (標準学習時間120分)

	標準学習時間120分)
1 3 回	教育開発の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の方法を具体的に説明できるよう復習し、次回の授業までに参考書などにより、国際教育協力の具体例について調べてみる(標準学習時間80分)
1 4 回	教育開発の国際比較の事例を通して、比較国際教育研究の意義を説明できるよう復習し、次回の授業までに教育開発の国際比較に関するディスカッションに向けた準備を行う(標準学習時間120分)
1 5 回	ディスカッションの結果を踏まえ、教育開発の国際比較を通して途上国の教育開発の課題を説明し、国際協力の可能性について自らの意見を述べる(標準学習時間80分)
1 6 回	これまでの授業内容を復習し、理解を深めておく(標準学習時間180分)

講義目的	教育の制度や実践には、世界のどの国にも適用可能な普遍的モデルというもの存在せず、国や地域、時代のニーズに即して、現状における最善を求めて試行錯誤が重ねられる。本科目では、日本とは異なる先進国や途上国における多様な子育ての文化や教育制度、教育開発を学ぶことを通じて、国際的な視点から教育の意義やそのあり方を考え、かつ、日本の教育制度や実践についても複眼的視点からとらえられるようになることを目的とする。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	比較教育研究の分析視点や方法、意義を理解する(D) 比較教育研究の文献を読んで内容を理解し、論題について意見交換を行うことができる(D) 諸外国との比較を通して、複眼的・批判的視点から日本の教育のあり方を再考することができる(D)
キーワード	比較教育研究 国際教育協力
成績評価(合格基準60)	課題提出(30%)と定期試験(70%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、定期試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	イギリスのいい子、日本のいい子 自己主張とがまんの教育学 / 佐藤淑子 / 中央公論新社 / 978-4121015785
参考書	比較教育研究 - 何をどう比較するか / マーク・ブレイ他編・杉村美紀他訳 / 上智大学出版 / 978-4324085967 : 途上国世界の教育と開発 / 小松太郎編 / 上智大学出版 / 978-4324101155 : その他は授業の中で適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	定期試験の形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	教育ボランティア (FES5Z220)
英文科目名	Educational Volunteer I
担当教員名	河原修一(かわはらしゅういち), 奥西有理(おくにしゆり), 山崎桂子(やまさきけいこ), 地村彰之(ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣(こうのきたかおみ), 奥野新太郎(おくのしんたろう), 坂本南美(さかもとなみ), 札埜和男(ふだのかずお)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	事前指導を行う (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
2回	実習(1) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
3回	実習(2) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
4回	実習(3) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
5回	実習(4) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
6回	実習(5) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
7回	実習(6) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
8回	実習(7) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
9回	実習(8) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
10回	実習(9) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
11回	実習(10) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
12回	実習(11) (全教員, 河原 修一, 奥西 有理, 奥野 新太郎, 香ノ木 隆臣, 坂本 南美, 地村 彰之, 札埜 和男, 山崎 桂子)
13回	実習(12)

	(全教員,河原 修一,奥西 有理,奥野 新太郎,香ノ木 隆臣,坂本 南美,地村 彰之,札 埜 和男,山崎 桂子)
14回	グループ・リフレクションを行う
	(全教員,河原 修一,奥西 有理,奥野 新太郎,香ノ木 隆臣,坂本 南美,地村 彰之,札 埜 和男,山崎 桂子)
15回	成果発表を行う
	(全教員,河原 修一,奥西 有理,奥野 新太郎,香ノ木 隆臣,坂本 南美,地村 彰之,札 埜 和男,山崎 桂子)

回数	準備学習
1回	学校でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	事前指導を踏まえ、学校でのあいさつをはじめとするコミュニケーションの持ち方について熟考し ておくこと。(標準学習時間60分)
3回	今後の活動の中で、自分ができることについてよく考えること。(標準学習時間60分)
4回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
9回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
14回	これまでの活動を踏まえ、自分の成果と課題について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	自身の活動について、レポート・プレゼンテーションとしてまとめておくこと。(標準学習時間6 0分)

講義目的	1年次の「教育現場観察実習」を踏まえ、2年次のこの授業では大学の授業外の時間を使って、学 校や児童館、社会教育施設などの教育関連施設の現場において、ボランティアとして教育の補助及 び子どもの遊びや学習などの支援活動を行い、教職能力を培うために必要な学びの内容と方法の経 験的な把握を目指す。まず、グループ事前調査により、教育現場を観察する視点・目的・方法を 明確化する。そして現場を訪問し、児童・生徒の学習や生活の実際を観察し、参与実習をする。 最後に実習で得た知見や問題点を報告・討議し、全体で成果を共有し、ボランティア活動のレポ ートをまとめる。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、 英語Bに最も強く関与する)
達成目標	小・中学校と日常的・継続的な関わりを持ち、学校空間に参加していく中で、教職に対する自己 の意識を明確に持つこと。 教員に必要な知識・スキルを自分の課題として明確に意識し、それ に対する取り組みを始められるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60%)	ボランティア受け入れ校からの評価および、事後指導におけるレポートを総合的に評価する。60 %以上を合格とする。
関連科目	教育ボランティア
教科書	なし
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	多文化コミュニケーション活動 (FES5Z240)
英文科目名	Activities for Cross-cultural Communication
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	国際ボランティアの出身国の文化理解のために、他文化を読み解く視点(ホフステードの5次元モデル、文化の世界地図等)について学習する。地域社会における外国人との共生と英語教育をつながりて考える視点についても学ぶ。その上で、海外から招聘した4名の外国人ボランティアメンバーと協働し、地域の児童・生徒の多文化理解教育に役立つ英語コミュニケーション活動を企画し、実施する。
準備学習	毎回の授業で設定されたテーマや課題については、グループ・メンバーや国際ボランティアと話し合い(国際ボランティアが来日する前はメールやSkypeなどICTで連絡)、次の授業までにアイデアや解決策をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。プレゼンテーションのために配布資料を受講者全員分用意し、ポイントを明確に提示できるようにすること。(標準学習時間120分)
講義目的	本実習は、異なる文化を背景にもつ人々との協働により、グローバルな社会で必要とされる多文化コミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。地域の児童や生徒を対象とした国際教育プログラムを外国人学生とともに企画・実施することを通して、地域社会の異文化理解向上に貢献する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・来日する外国人学生の出身国についての文化学習を通して特定文化への理解を深めている。(D) ・教育的視点を組み入れた国際理解教育プログラムの立案および実施ができる。(D,E) ・活動全体を通してローカル社会とグローバル化社会を繋げる視点を獲得している。(D,E) ・活動全体を振り返り、クリティカルな視点で国際理解教育の在り方について考察することができる。(D,E)
キーワード	国際理解教育、英語活動、異文化理解、異文化間コラボレーション
成績評価(合格基準60)	レポート課題50%、国際教育活動に関するポートフォリオ50%
関連科目	国際理解教育概論、異文化理解、英語科内容論C
教科書	使用しない。適宜必要な資料を配布します。
参考書	特になし。適宜必要な資料を配布します。
連絡先	A1号館10階 奥西研究室 Tel 086-256-9634
注意・備考	毎回の実習授業には必ず出席し、ディスカッションおよび国際教育活動の企画・運営には主体的・積極的な関わりが持てるようになります。
試験実施	実施しない

科目名	英語探究 (FES6B110)
英文科目名	Advanced English II
担当教員名	香ノ木隆臣(こうのきたかおみ)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	小テスト(英語探究の最終回で配布した教材)を行う。
2回	(W) パラグラフの論理について:「比較と対照」について学び、授業時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
3回	(W) パラグラフの論理について:「比較と対照」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外に書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
4回	(W) パラグラフの論理について:「比較と対照」添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
5回	(W) パラグラフの論理について:「意見」を述べる要点について学び、授業時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
6回	(W) パラグラフの論理について:「意見」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外に書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
7回	(W) パラグラフの論理について:「意見」添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。英語の文章の流れ、文を構成する要素について学習する。
8回	(R) 評論文の講読 論理的な文章を読解するポイントについて学習する。
9回	(R) 評論文の講読 論理的な文章を読解するポイントについて学習する。
10回	(W) パラグラフの論理について:「物語」を書く要点について学び、授業時間外課題としてパラグラフを書き提出する。 (R) 評論文の講読 論理的な文章を読解するポイントについて学習する。
11回	(W) パラグラフの論理について:「物語」前回の提出物の添削結果をもとに授業時間外に書き直して再提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
12回	(W) パラグラフの論理について:「物語」添削結果をもとにさらに書き直し、最終版として再々提出する。 (R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
13回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
14回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。
15回	(R) ニュース記事の読解 時事英語の文章を講読する。 これまでの学習内容を振り返る。

回数	準備学習
1回	事前配布された教材について読んでおくこと。(標準学習時間90分)
2回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
3回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
4回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
5回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)

	間90分)
6回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
7回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
8回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
9回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
10回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
11回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
12回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。課題のパラグラフを書くこと。(標準学習時間90分)
13回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
14回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)
15回	教材の予習をして、不明点を明らかにしておくこと。(標準学習時間30分)

講義目的	時事英語の講読と、パラグラフ・ライティングを組み合わせた授業を行うことにより、英語の論理を複眼的視点で理解することを目的とする。リーディングについては、最新の社会的事象についての新聞・雑誌のニュース、論説などの記事を題材に、基本文法と英文の論理の展開の双方に配慮しつつ精読を行う。関連する別の文章を時間外課題とし、授業時にquizを行う。ライティングでは、パラグラフを展開する論理について学ぶために文章を書く。総じて、予習にかなりの努力を必要とするクラスである。(中等教育学科英語教育コースの卒業認定・学位授与の方針項目Aに強く関与する。)
達成目標	リーディングとライティングの両面から学ぶことで、立体的に英語の論理を把握し、今後の専門的学習の基礎となる高度な英語運用能力を確立することを達成目標とする。
キーワード	パラグラフの論理 レトリック 精読 時事英語
成績評価(合格基準60)	試験70%,ライティング提出物30% 評価の観点 ・英語に対する正確な理解ができていること。 ・英語の文章の論理が読み取れること。 ・英語の論理に基づいたパラグラフが書けること。
関連科目	英語探究 の継続的内容である。
教科書	特定のテキストは指定せず、ハンドアウトを配付する。ニュース記事は、実際に報じられているものを題材にして授業で扱う。
参考書	各種の辞書、文法やパラグラフ・ライティングについての書籍を随時紹介する。
連絡先	A1号館 10F 香ノ木研究室
注意・備考	ライティングでは、辞書(電子辞書/書籍)を持参のこと。講義資料は講義時のみに配付し、後日の配付はしない。講義中の録画・録音や撮影は認めない。提出課題は当該講義の次週に返却する。
試験実施	実施する

科目名	英語探究 (FES6B310)
英文科目名	Advanced English VI
担当教員名	坂本南美(さかもとなみ)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	英語教育現場で注目され、実践されているディベートに取り組む。社会的テーマを取り上げたディベート活動を通して、英語での発信力を鍛え、幅広い知識を用いて論理的思考を深めながら、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていく。
準備学習	毎回の講義で中心となる活動や内容の復習を行うこと 次時の授業で取り組む活動の準備を行うこと ディベートの準備も丁寧に行うこと
講義目的	英語探究 ~ を通して育んだ英語力、パラグラフ構成力、批判的思考力、論理的思考力を統括し、読む、聞く、書く、話す(発表)、話す(やり取り)という5つの領域を統合的に用いた発信活動につなげることを目標とする。
達成目標	ディベートの手法を学び、実際に実践することから、英語を用いて読み、書き、聞き、話す力と特有の英語表現についても知識を深める(A, C, E) 英語でディベートを行うことにより実践的なコミュニケーション能力を育成する(A, B) 一つのトピックについて議論し、5領域を統合的に取り入れたディベートの活動から、論理的思考を身につける(A, D, E) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語ディベート/論理的思考/エビデンス/議論のためのストラテジー
成績評価(合格基準60)	最終評価試験による評価40%、ディベートでのパフォーマンスをフーブリックで評価30%、提出課題による評価30%
関連科目	探求英語 / 探求英語 / 探求英語 / 探求英語 / 探求英語
教科書	テキストは使用せず、適宜資料を配布する
参考書	参考書・参考資料は使用せず、適宜資料を配布する
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションやディベートを行う
試験実施	実施する

科目名	英語科教育法 (FES6C210)
英文科目名	Teaching of English II
担当教員名	坂本南美(さかもとなみ)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ALTとのチームティーチングについて解説する
2回	学校におけるICTやビジュアル教材の活用を説明する
3回	5領域の指導(話すこと(発表)・話すこと(やり取り)・書くこと)について協議する
4回	5領域の指導(聞くこと・読むこと)について協議する
5回	授業デザインと学習指導案を解説する
6回	中学校・高等学校の英語指導:学習指導案をもとにディスカッションを行う
7回	中学校・高等学校の英語指導:学習指導案をもとにディスカッションを行う
8回	中学校・高等学校の英語指導について協議する (1) 模擬授業をもとにディスカッション
9回	中学校・高等学校の英語指導について協議する (1) 模擬授業をもとにディスカッション
10回	中学校・高等学校の英語指導・高等学校で用いられる単元別教材について解説する
11回	中学校・高等学校の英語指導・TBLTについて解説する
12回	中学校・高等学校の英語指導について協議する (1) 模擬授業をもとにディスカッション
13回	中学校・高等学校の英語指導について協議する (1) 模擬授業をもとにディスカッション
14回	中学校・高等学校の英語指導について協議する (1) 模擬授業をもとにディスカッション
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを行う
16回	1回~15回の総括を説明し、最終評価試験を実施する

準備学習	英語科教育法 で学んだことを踏まえながら、毎回の講義で中心となる内容の復習を行うこと 次時の授業で取り上げられる言葉や鍵概念、活動、教材について述べられるように予習し、準備しておくこと 授業発表の準備も丁寧に行うこと
講義目的	現在の教育現場における英語教育実践の特徴を理解し、授業実践者としての視点とスキルを体得することを目的とする。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を総合的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を育む授業デザインを行う。それらの学びを基にして、中学校・高等学校での授業案を作成し、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となって、模擬授業を行う。互いにディスカッション行ったあと、ポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師としての礎を育てる。
達成目標	中学校および高等学校の英語科において授業をデザインする中で必要とされる知識と授業力を身につける(A, C, E) 英語で模擬授業を行うことのできる英語力を身につける(A, B) 4技能を統合的に織り交ぜた学習指導案を作成し、生徒の学習段階に応じた授業実践を行う力を身につける(A, D, E) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語科授業デザイン/学習指導要領/学習指導案/ALTとのチームティーチング
成績評価(合格基準60)	定期試験による評価50%, 模擬授業をループリックで評価25%, 提出課題による評価25% ・評価の観点: 理論的知識と実践との往還がなされている 実際の英語模擬授業における応用ができています
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法
教科書	中学校英語教科書『New Crown』(1, 2, 3年生用) / 三省堂: 高等学校英語教科書『UNICORN - English Communication -』 / 文英堂
参考書	『学習指導要領』文部科学省のサイトを参照
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションや発表を行う 講義資料は授業で配布する

試験実施

実施する

科目名	英語科教材分析・開発演習 B (FES6C310)
英文科目名	Analysis and Development of English Teaching Materials B
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	現行の英語科教科書に使われている、文学作品を素材にした教材を実例として分析する。(中学校)
2回	現行の英語科教科書に使われている、文学作品を素材にした教材を実例として分析する。(高等学校)
3回	第1回、第2回の講義での作品の分析結果に基づいての討議、その結果の発表により、成果を共有する。
4回	事前課題で提示された作品群から、指導案を作成するための作品を選ぶ。その際に必要な視点(英米圏の文化)について、各自で作品中の疑問点をもとに討議し、発表する。
5回	各自で指導案の素案を事前に準備し、小グループで議論し、修正する。結果を提出する。
6回	指導案の素案の返却結果に基づき、模擬授業に向けての指導案を修正する。
7回	修正した指導案に基づき、10分程度の短時間で模擬授業を行う。
8回	模擬授業の内容について、小グループで議論する。その際、議論の対象とする模擬授業は、そのグループ以外のメンバーのものとする。
9回	模擬授業についての議論をふまえて指導案を再び修正し、担当者に提出する。
10回	指導案の返却結果に基づき、小グループで討議を行う。
11回	小レポートの返却結果に基づき、模擬授業の指導案を修正する。
12回	最終の指導案に基づき、模擬授業を行う。担当者は短いコメントをする。(1)
13回	最終の指導案に基づき、模擬授業を行う。担当者は短いコメントをする。(2)
14回	最終の指導案に基づき、模擬授業を行う。担当者は短いコメントをする。(3)
15回	文学作品を教材とする意義について、小グループで議論し、その結果を小レポートにまとめて担当者に提出する。

回数	準備学習
1回	中学校英語科で文学作品が使われている事例を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	高等学校英語科で文学作品が使われている事例を調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	第1回、第2回の講義での発表内容を振り返っておくこと。(標準学習時間60分)
4回	事前配付資料を熟読して、作品を選んでおくこと。
5回	指導案の素案を作成すること。(標準学習時間90分)
6回	指導案について、よかった点/悪かった点を振り返っておくこと。(標準学習時間30分)
7回	模擬授業の展開について考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の模擬授業の内容をよく吟味しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	これまでの議論や自身の調査に基づいて指導案を修正すること。(標準学習時間90分)
10回	自身の指導案について、内容を把握すること。(標準学習時間60分)
11回	自身の指導案について、内容を把握すること。(標準学習時間60分)
12回	自身の指導案について、内容を把握すること。(標準学習時間60分)
13回	自身の指導案について、内容を把握すること。(標準学習時間60分)
14回	自身の指導案について、内容を把握すること。(標準学習時間60分)
15回	自身の指導案のみならず、グループ内メンバーの指導案についても、内容をよく吟味しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	中等教育の現場で文学作品が扱われている現状を把握したのち、担当者が事前に複数の文学作品(短篇小説、詩)を列挙し、そのなかから受講者は任意のひとつを選択し、それをもとに教材を作成し、模擬授業を行いつつ指導案を作成する。適宜、担当教員が作品についての解説や解釈の方法論を講義するものの、このクラスは「アクティブ・ラーニング」の手法を中心として進め、受講者が積極的に参加する形式で行う。文学作品を教育現場の応用する際の基本的知識を身につけることが目的となる。(中等教育学科英語教育コース卒業認定・学位授与の方針A, Dに強く関与する。)
達成目標	中等教育における英語科の授業で文学作品を素材として扱ううえで、作品の選定、テーマの設定、

	ディスカッションの導き方、試験やレポート課題の設定といった諸点について理解すること。なら びに、受講者が独自の視点から自作の教材を作成できるようになることが、到達目標である。
キーワード	英語文学と英語教育
成績評価（合格基準60	模擬授業40%、指導案40%、小レポート20% の総計で60%以上を合格とする。評価の観 点：模擬授業の内容、ディスカッションの結果に基づく教案の改善の度合いを重視する。
関連科目	英米文学概論、英米文学史、英米文学講読、英語科内容論B
教科書	使用しない
参考書	適宜参考図書を紹介する。
連絡先	A1 10階 香ノ木研究室
注意・備考	アクティブラーニング（グループディスカッション、グループワーク、レスポンスシート）を積極 的に取り入れる。最終試験は行わないため、指導案を作成し提出すること。講義資料は講義時のみ に配付し、後日の配付はしない。講義中の録画・録音や撮影は認めない。提出課題は4回分をまと めて返却する。
試験実施	実施しない

科目名	比較言語文化論 (FES6D310)
英文科目名	An Approach to Contrastive Linguistics
担当教員名	地村彰之(ぢむらあきゆき),河原修一(かわはらしゅういち),香ノ木隆臣(こうのきたかおみ),奥野新太郎(おくのしんたろう)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「比較言語文化論」について、担当教員がそれぞれ内容を紹介し、共通するテーマを確認し、講義の概要や評価について説明する。質疑応答を含む。その後、1回目の授業を河原が担当する。川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳“The Izu Dancer”(部分)を比較する。表題と内容の違いを考察する。(全教員、河原 修一) (全教員、河原 修一)
2回	引続き、原作と英訳を比較する。文法に関わる日本語と英語の表現の違いを考察する。(河原 修一) (河原 修一)
3回	引続き、原作と英訳を比較する。語彙に関わる日本語と英語の表現の違いを考察する。(河原 修一) (河原 修一)
4回	サイデンステッカーのエッセー「翻訳ということ」(日本語訳)を参照しながら、翻訳の態度に窺われる民族性と文化の違いを考察する。(河原 修一) (河原 修一)
5回	日本語と英語の相違点と共通点について論じる。文法・語彙・借用語の問題について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
6回	日本語と英語の相違点と共通点について論じる。文法の問題について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
7回	日本語と英語の相違点と共通点について論じる。語彙について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
8回	日本語と英語の相違点と共通点について論じる。借用語について扱う。(地村 彰之) (地村 彰之)
9回	20世紀初頭の英米文学における「モダニズム」に対する、東洋圏の文学の影響について講義する。初回は、モダニズムの成立について、その背景にある時代情勢と、文学史上の位置づけとについて解説する。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
10回	モダニズムの旗手、エズラ・パウンドが、日本の短詩型文学から受けた影響について紹介し、その特徴について論じる。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
11回	エズラ・パウンドに対して、中国の漢詩が与えた影響について紹介し、その特徴について論じる。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
12回	モダニズムという思潮が、英米文学から日本文学に移行した影響関係について、日本の詩人による作品を基に具体例を示して解説する。(香ノ木 隆臣) (香ノ木 隆臣)
13回	日中言語比較研究：日本語と漢語の相違点・共通点について論じる。(奥野 新太郎)

	(奥野 新太郎)
14回	日本語と漢字・漢語(1)：漢語から見た現代日本語の諸問題について論じる。(奥野 新太郎)
	(奥野 新太郎)
15回	日本語と漢字・漢語(2)：現代日本語の中で漢語が果たしている役割について論じる。(奥野 新太郎)
	(奥野 新太郎)

回数	準備学習
1回	比較言語文化とは何かについて、それぞれ考えてみる。(標準学習時間60分)
2回	第1回に配付された川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳“The Izu Dancer”(部分)を通読しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳“The Izu Dancer”(部分)を通読しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	川端康成『伊豆の踊子』とサイデンステッカー訳“The Izu Dancer”(部分)を通読しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
6回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
7回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
8回	事前に配付された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
9回	事前配布資料に基づき、モダニズムの概要を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	モダニズム成立の基になった19世紀末から20世紀初頭の社会の動きを復習したうえで、パウンドの詩との関連を考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	パウンドの詩に対する日本文学の影響を復習し、漢詩の場合はどのような共通/差異があるかを考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	東洋圏文学・芸術がモダニズムに影響を与え、そのモダニズムが日本文学に影響を与えるという円環構造を意識して、配布資料に基づき作品の解釈を考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	配布された資料を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
14回	授業中に指示された課題や調べ物を行ってくる。(標準学習時間60分)
15回	授業中に指示された課題や調べ物を行ってくる。(標準学習時間60分)

講義目的	日本語(漢文を含む)と英語を比較し考察することにより、それぞれの言語の歴史や構造・特質および文化的背景をより深く理解することを目指す。自然現象や社会における人間関係、ことわざ、感情や思想などにかかわる表現について、日本語・英語における表現の仕方と特徴を明らかにする。(国語教育コースのディプロマポリシーA・B、英語教育コースのディプロマポリシーD・Eに対応する)
達成目標	現代を生きる日本人の多様な生活の中で、日本語と英語がどのような場面や状況でどのように使われているのかを探究することによって、ことばの意義を理解し、その適切な運用能力の基礎を培う。日英比較表現からみた日英文化の教育的意義を把握するとともに、その内容を教育実践の場で活かす。
キーワード	語彙、語彙量、和語、漢語、外来語、混種語、敬語、方言、流行語、ことわざ、意味論、語彙構造、語形成、音韻変化
成績評価(合格基準)	60小テストまたは小レポート(活動報告)により各担当者が評価した点数を合計し、60点以上を合格とする。授業担当者4人は各25点を満点として評価する。
関連科目	「現代人とことば」(1年次)
教科書	使用しない。
参考書	担当教員が随時紹介する。
連絡先	A1号館9階 河原研究室、奥野研究室A1号館10階 地村研究室、香ノ木研究室
注意・備考	国語辞典、漢和辞典、英和辞典等の辞書(電子辞書可)を各自用意すること。
試験実施	実施しない

科目名	国語科教材分析・開発演習C (FES6E310)
英文科目名	Analysis and Development of Japanese Teaching Materials C
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	この授業の内容とねらいについて述べる。
2回	学習指導要領の分析と討論を通じて、国語科の漢文に求められているものについて考える。
3回	現行教科書の比較分析を通じて、漢文教材の現状と傾向について考える。
4回	国語教育として「漢文」が生徒に教えるものについて考える。
5回	漢文法の効果的な教授法を探る。
6回	絵や音声、ICTを用いた漢文教授法の可能性を探る。
7回	現行教材を用いて教授法のプレゼンテーションを行う(学生発表)
8回	現行教材を用いて教授法のプレゼンテーションを行う(学生発表)
9回	現行教科書における教材の傾向について分析する。
10回	宋代以後の漢詩文の教材可能性について検討する。
11回	日本漢詩文の教材可能性について検討する。
12回	新教材を用いて教授法のプレゼンテーションを行う(学生発表)
13回	新教材を用いて教授法のプレゼンテーションを行う(学生発表)
14回	新教材を用いて教授法のプレゼンテーションを行う(学生発表)
15回	全体のまとめを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでくること。【30分】
2回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
3回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
4回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
5回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
6回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
7回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること【120分】
8回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること【120分】
9回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
10回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
11回	事前に示された課題・調べ物やってくる【120分】
12回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること【120分】
13回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること【120分】
14回	発表者は発表の準備をすること。発表しない学生は資料を熟読して質問を考えてくること【120分】
15回	授業の内容を振り返ってくる【120分】

講義目的	この演習は、中学校・高等学校の国語科授業において取り上げられる漢文教材の開発を目的とする。中学校における漢文教育は、故事成語や唐詩、『論語』などを学ぶ。内容としては、レ点や一二点などの返り点、唐詩の形式などを学ぶものである。また高等学校ではより複雑な漢文法を学び、教材也多岐にわたる。本演習では、新たな教材を開発するために、これまでの傾向を押さえながらも、新たな教材と教授法を考える。また、同時に、空海や菅原道真など日本漢文や、唐詩のみでこれまで顧みられてこなかった宋代以後の詩文教材も見えていく。 本科目はカリキュラムポリシーのうちA、B、C、Dに該当する
達成目標	国語教育としての漢文の役割や位置づけ、可能性について考える。 漢文の効果的な教授法について考える。 上記のことを踏まえつつ、従来あまり顧みられてこなかった漢詩文の漢文教材としての可能性を探る。

	本科目はディプロマポリシーのうちB、C、Dに該当する。
キーワード	漢文教育 漢文学 中国学 古代漢語
成績評価（合格基準60）	発表50%、期末レポート50% 合計60点以下は不可
関連科目	漢文学概論、漢文学、漢文学、漢文学
教科書	
参考書	漢文教育の理論と指導 / 鎌田 正 / 大修館書店 / 1972年：漢文教育の諸相 / 田部井 文雄 / 大修館書店 / 4-469-23237-8：漢文教育五十年 / 清田 清 / 角川書店 / 1974年：新 釈漢文大系 / 明治書院：中国文明選 / 朝日新聞社：吉川幸次郎全集 / 筑摩書房： 学習指導要領解説（中学国語、高校国語） その他、授業中に適宜紹介する
連絡先	A1号館9F 奥野研究室 okuno_ped.ous.ac.jp []@
注意・備考	授業中の発表を重視する。発表を放棄した場合、期末レポートの提出は認めない。 予習必須。 資料は授業開始時に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。
試験実施	実施しない

科目名	教育学原論 (FES6G110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育学の研究対象と領域について説明する。
2回	教育の意義と本質について説明する。
3回	教育の理念について説明する。
4回	教育目的の類型と歴史的変遷について説明する。
5回	教育学における人間論について説明する。
6回	子どもの弱さから見た教育の必要性と可能性について説明する。
7回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について説明する。
8回	ペスタロッチーの教育思想と学校教授学について説明する。
9回	デューイの教育論と学校論について説明する。
10回	学校の誕生と入社式儀礼教育的意義について説明する。
11回	義務教育思想の成立と発展について説明する。
12回	教職と教員養成の歴史について説明する。
13回	教育制度と学校教育について説明する。
14回	日本の学校教育制度と教育課程について説明する。
15回	人間形成における教育の意義について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間80分)
2回	教育学の研究対象や領域について復習しておくこと。教育とは何かという問題に関心を持っておくこと。(標準学習時間100分)
3回	教育の意義とその本質について復習しておくこと。教育はどうあればよいのかといった、教育の理念について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
4回	教育の理念について復習しておくこと。教育目的についての考え方やその歴史的変遷などについて関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
5回	教育目的の類型や歴史的な変遷について復習しておくこと。教育学では人間をどのような存在と見るのかについて関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
6回	教育学における人間論について復習しておくこと。なぜ教育は必要なのか、また教育は可能なのかなどの問題について関心をもっておくこと。(標準学習時間90分)
7回	弱い存在としての子どもという視点から教育のあり方を復習しておくこと。ルソーの子ども観と教育思想の特質について関心を持っておくこと。(標準学習時間90分)
8回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について復習しておくこと。ペスタロッチーの教育思想について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
9回	ペスタロッチーの教育思想についてその特質を復習しておくこと。デューイの教育論と学校論について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
10回	デューイの教育論と学校論について、ペスタロッチーとの違いを調べておくこと。人類社会はなぜ学校をつくったのかについて関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
11回	入社式という原始的な営みが学校の起源であることの意義を復習しておくこと。教育を義務とする考え方について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
12回	義務教育という考え方の歴史やその特質について復習しておくこと。教職と教員養成の歴史について関心をもっておくこと。(標準学習時間90分)
13回	教職や教員養成の歴史的変遷について復習しておくこと。教育の制度やその中での学校教育について関心をもっておくこと。(標準学習時間90分)
14回	教育制度の多様性や国による学校教育の特質などについて復習しておくこと。前回の授業と関連づけて日本の学校教育制度と教育課程の特長について関心をもっておくこと。(標準学習時間100分)
15回	日本における学校教育制度と教育課程について復習しておくこと。人間形成における教育の意義について考えておくこと。最終評価試験にむけてこれまでの授業の内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	この講義は教育学への入門講義である。教育という人間の営みを対象にして、その本質を思想的、歴史的、社会的、制度的に考察する。成長発達の上にある子どもたちに対して、大人や教師、社会は教育の名において何をなすべきなのか。本講義では、ヒトが人になるための人間形成の基本原則を学ぶ。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	1. 人間のための教育の本質を理解する(B)。 2. 人間形成の基本的な原理と教育論の歴史的展開を理解する(B)。 3. 児童・生徒の指導に必要な基礎的知見と教育の原理を修得する(B)。
キーワード	教育学、教育の理念、人間形成
成績評価(合格基準60)	最終評価試験による評価(80点)およびレポートによる評価(20点)計100点
関連科目	教育学原論、教育史、学校経営、教育行政論
教科書	『よくわかる教育学原論』/安彦忠彦他編/ミネルバ書房(教職論(必修科目)と共通のテキストです。)
参考書	適宜、参考資料をプリントし、配布する。
連絡先	A1号館 9F 山中研究室
注意・備考	この科目は教員免許状取得のための必修科目です。
試験実施	実施する

科目名	探究活動 B (FES6G120)
英文科目名	Investigation Activities IIB
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、学校教育現場で必要とされる課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力の構成要素について理解する。
2回	科学的・客観的態度に基づく情報分析の手法(「問題をどうたてるか 原因を考え問題を整理する」「理論と経験とをつなぐー具体的証拠を集める」)について理解する。
3回	博物館、フィールドワーク、社会的調査、文献検索等、課題解決のための情報コンテンツの特質と情報収集の方法について理解する。
4回	情報の構成の仕方(プレゼンテーション・新聞等)について理解する。(ワークショップ形式)
5回	瀬戸内の博物館や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性の概要の理解をもとに、グループで探求する課題の設定と課題追求のための計画の立案を指導する。
6回	第1回 調査活動を行う。(岡山シティミュージアム・岡山県立博物館等)
7回	第1回 調査活動のまとめを行う。(情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など)
8回	第2回 調査活動を行う。(造山古墳、吉備津神社、岡山城、吉備国分寺等)
9回	第2回 調査活動のまとめをする。(情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など)
10回	これまでの調査活動を振り返り、テーマにそった新聞の構成(レイアウト、見出し、リード文、記事)方法についての説明を受け、グループごとに新聞作成を行う。
11回	グループごとに発表を行い、情報の構成、内容、レイアウト等の観点をもとに意見交換を行う。(ワークショップ形式)
12回	社会調査についての計画を立てる。
13回	アンケートを作成し、実施するための準備をする。
14回	アンケート結果を分析し、調査結果をプレゼンテーションで発表するための準備・練習を行う。
15回	社会調査の結果についてプレゼンテーションを行う。
16回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1回	探究活動 Bのシラバスや教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。(1時間)
2回	高根正昭著「方法の創造学」に目を通し、問題解決の方法論について整理しておくこと。(2時間)
3回	課題解決のコンテンツとしての岡山市周辺の博物館や資料館等の情報を集めておくこと。(1時間)
4回	身近な新聞記事やドキュメンタリー映像に目を通し、効果的な情報の伝え方について考えておくこと。(1時間)
5回	岡山市の歴史・自然・文化について課題設定を行い、探求活動のテーマを設定しておくこと。(2時間)
6回	設定したテーマに基づき、管内の展示物、資料等についての情報を収集しておくこと。(1.5時間)
7回	調査活動で取得した情報(資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど)を追究するテーマごとに整理すること。(1.5時間)
8回	調査活動を行う博物館、資料館についての詳細な情報を収集しておくこと。(歴史、特徴など)(1.5時間)
9回	調査活動で取得した情報(資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど)を追究するテーマごとに整理すること。(1.5時間)
10回	第2回講義の情報分析の手法に基づき、これまでに収集した情報を整理しておくこと。作業の内容・分担をグループで相談して決めておくこと(2時間)
11回	グループで発表の準備練習を進めておくこと。(2時間)
12回	岡山理科大学の学生について調べてみたいテーマについて設定しておくこと。(1時間)
13回	岡山理科大学の学生を対象にアンケートを実施し、観点にそって整理しておく。(2時間)
14回	アンケート結果から明らかになったことを考察しておくこと。(2時間)

15回	プレゼンテーションの準備・練習をしておくこと。(2時間)
16回	新聞作成の方法(情報収集・記事の書き方・見出し・リード・レイアウト)や社会調査に関わる概念(原因と結果の考察, 命題と仮説, 記述と説明, 独立変数と従属変数等)について復習し説明ができるようにしておくこと。(2.5時間)
講義目的	瀬戸内や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性を生かし、仮説の設定、情報収集、検証、立論という計画をたて、見学や観察、調査活動などのアクティブラーニングを実施することを通して、探究に必要な観察力、課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力を身に着けることを目的とする。(この講義は教育学部の学位授与方針のD・Eに強く関与する。)
達成目標	1. 社会研究の方法を理解する。(D・E) 2. 1の方法論に基づき、自らが設定したテーマについて仮説を設定し、検証し、理論を導き出すことができる。(E) 3. 研究の成果をプレゼンテーション等で効果的に伝えることができる。(D)
キーワード	情報活用能力、情報コンテンツの活用、原因と結果の論理、命題と仮説、記述と説明、独立変数と従属変数、検証、概念、作業定義、統制された変数
成績評価(合格基準60)	新聞20%(主に達成目標1・2を評価)、発表30%(主に達成目標2・3を評価)、最終評価試験50%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
関連科目	探究活動を受講しておくことが望ましい。
教科書	『創造の方法学』/高根正昭/講談社現代新書
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
注意・備考	・本講義は調査活動を主体におく。そのため、課外においても自主的に自ら設定したテーマにそって情報を集めておくことが望ましい。・日ごろから新聞やニュースに目を通し、岡山の自然や歴史、文化に関心をもつことが望ましい。・指導内容は受講状況に応じて変更する場合がある。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。・試験は定期試験中に行う。
試験実施	実施する

科目名	英語探究 (FES6G210)
英文科目名	Advanced English IV
担当教員名	地村彰之(ぢむらあきゆき)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	リーディング:(R) ライティング:(W) オリエンテーション (授業内容, 成績評価基準などの履修上の注意)
2回	(R) 英語の読解について(4)
3回	(R) 英語の読解演習について(4)
4回	(R) 英語の文化的背景について(4)
5回	(W) 3回の授業のまとめとライティング活動
6回	(R) 英語の読解について(5)
7回	(R) 英語の読解演習について(5)
8回	(R) 英語の文化的背景について(5)
9回	(W) 3回の授業のまとめとライティング活動
10回	(R) 英語の読解について(6)
11回	(R) 英語の読解演習について(6)
12回	(R) 英語の文化的背景について(6)
13回	(W) 3回の授業のまとめとライティング活動
14回	英語の読解のまとめ
15回	英語のライティングのまとめ
16回	1回~15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目の授業までに英語の読解演習について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと。

	1 2 回目の授業までに英語の文化的背景について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに英語の読解について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までにライティング活動について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	英語の読解とライティングについて理解すること。(標準学習時間60分)

講義目的	英語探究 で扱ったものよりもより難解な英文を精読しながら、読解練習をする。 英語の小説・詩などに秘められた文学性、および文化や言語に関する問題意識を持つことができるように、英文テキストを深読みする。 読解した英文を自分の言葉でパラフレイズして、英語の書く練習をする。 から の内容が自主的に実践できるようになることを目的とする。
達成目標	英語探究 に引き続き、英語の論理展開を理解した上で、英語を正しく読み、書く能力の強化を目指す。 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A, C) 教育現場での実践的なコミュニケーションスキルを身につける(A, D) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	読解、文化的背景、ライティング
成績評価(合格基準60)	・試験による評価50点、レポートによる評価50点 ・評価の観点：英語探究を通してリーディング・ライティングが出来るようになること。
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史
教科書	英米文学作品のショートストーリーを適宜選択して配布する。
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	予習と復習をしっかりとすること。
試験実施	実施する

科目名	日本語表現 (FES6G220)
英文科目名	Japanese Expressions
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	心象から言語表現へのプロセスについて、説明する。
2回	内言的・独言的な文章表現としての日記について、説明する。
3回	対話的な文章表現としての手紙について、説明する。
4回	談話的コミュニケーションについて、説明する。
5回	報道文について、説明する。幾つかのグループに分かれて、新聞記事を題材としたメモによる短いスピーチとディスカッションを実施する。
6回	各グループで、引き続き、新聞記事を題材としたディスカッションを実施する。各グループの代表が、ディスカッションの内容を紹介する。
7回	評論について、説明する。幾つかのグループに分かれて、評論を題材としたメモによる短いスピーチとディスカッションを実施する。各グループで、評論を選ぶ。
8回	各グループで、選んだ評論の要点となる部分について、ディスカッションを実施する。各グループの代表が、ディスカッションの内容を紹介する。
9回	発見(発想、着想、動機、感動)から言語表現(構成)へのプロセスについて、説明する。想像力と表現について、説明する。
10回	詩作の実例について、説明する。詩作を実施する。
11回	散文の書き出し、題材の配置、表記、表題について、説明する。
12回	随筆(エッセー)の実例について、説明する。随筆の執筆を実施する。
13回	小説の創作における動機、構想、ジャンル、書き出し、描写、文体について、説明する。
14回	小説の創作におけるレトリック、象徴、表題について、説明する。短編小説の執筆を実施する。
15回	小説の批評と鑑賞について、説明する。意味の読み取り、表現と内容について、説明する。

回数	準備学習
1回	自由メモ帳に折々に感じたことを書きつけてみる。(標準学習時間60分)
2回	自由日記帳に日記を書いてみる。(標準学習時間60分)
3回	友人(または知人)に手紙を書いてみる。(標準学習時間60分)
4回	興味・関心を覚えた新聞記事を選んで、コメントを考えておく。(標準学習時間60分)
5回	新聞記事切り抜きのコピーおよびコメントのメモを持参すること。(標準学習時間60分)
6回	興味・関心を覚えた評論を読んで、コメントを考えておく。(標準学習時間60分)
7回	評論の要点となる部分のコピーおよびコメントのメモを持参すること。(標準学習時間60分)
8回	各グループで選んだ評論の要点となる部分のコピーを熟読しておく。(標準学習時間60分)
9回	自由メモ帳に折々に感じたこと(着想メモ)を書きつけてみる。(標準学習時間60分)
10回	詩を書いてみる。(標準学習時間60分)
11回	随筆の材料を集めておく。(標準学習時間60分)
12回	随筆を書いてみる。(標準学習時間60分)
13回	小説の材料を集めておく。(標準学習時間60分)
14回	短編小説を書いてみる。(標準学習時間120分)
15回	1回～15回までの内容をよく理解し、整理しておく。(標準学習時間60分)

講義目的	談話・文章の表現と批評、鑑賞について、実践的に体得する。国語教育における音声言語及び文章表現に関する「国語表現」の一助とする。国語教育における「現代文」に教材として用いられる随筆、評論、詩、小説などについて、表現者の観点に立って、解釈し、批評し、鑑賞する。カリキュラムポリシーA、C、Dに該当する。
達成目標	グループによる談話演習を通じて、スピーチ、ディスカッションなどについて体得し、場に応じた談話表現のあり方を理解する。作家の日記・手紙・随筆を参照しながら、自ら書いてみる。自由な発想と斬新な感覚によって、詩作や小説の創作を試みる。発見から構想までのプロセスの大切さ、文章表現における説明と描写、レトリック、象徴を理解する。読者論を参照して、様々な意味の読み取りの可能性を探究する。本講義はディプロマポリシーA、C、Dに該当する。
キーワード	心象、内言、日記、手紙、随筆、評論、スピーチ、ディスカッション、想像力、動機、構想、描写、説明、表記、表題、レトリック、象徴、批評、鑑賞
成績評価(合格基準60)	スピーチ、ディスカッションなどの談話演習(50%)および詩、随筆、小説などの提出作品(5

	0%) により評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	日本語学概論、日本語文法、国語科教材分析・開発演習 A
教科書	使用しない。
参考書	中村萬里・永瀬道彦(2001)『音声言語とコミュニケーション』双文社出版、樺島忠夫(1999)『文章表現法』角川選書、言語技術の会(1990)『実践・言語技術入門』朝日選書、大岡信(1985)『詩・ことば・人間』講談社学術文庫、大江健三郎(1988)『新しい文学のために』岩波新書、外山滋比古(1969)『近代読者論』みすず書房
連絡先	A1号館9階910研究室(直通電話086-256-9774、eメールアドレスkawahara@ped.ous.ac.jp)
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	教育課程論 (FES6H110)
英文科目名	Educational Curriculum Studies
担当教員名	宮本浩治* (みやもとこうじ*), 尾島卓* (おじまたく*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画について説明する。 (尾島 卓*)
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。 (尾島 卓*)
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。 (尾島 卓*)
4回	学習指導要領の「領域」について説明する。 (尾島 卓*)
5回	教科の指導と教科外活動の指導 について説明する。 (尾島 卓*)
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。 (尾島 卓*)
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義, その指導について説明する。 (尾島 卓*)
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。 (尾島 卓*)
9回	教育内容・教材と教科書(1) 教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラム について説明する。 (尾島 卓*)
10回	教育内容・教材と教科書(2) 学びの履歴としてのカリキュラム開発 について説明する。 (尾島 卓*)
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。 (尾島 卓*)
12回	カリキュラムマネジメントの実際について説明する。 (宮本 浩治*)
13回	学校経営目標とカリキュラム, カリキュラムを具現化する授業について説明する。 (宮本 浩治*)
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。 (宮本 浩治*)
15回	まとめをする。 (宮本 浩治*)

回数	準備学習
1回	中学校学習指導要領の15～19頁、中学校学習指導要領解説編の10～11頁を読んでおくこと。 (標準学習時間60分、以下同じ)

2回	中学校学習指導要領解説編の97～100頁を読んでおくこと。
3回	中学校学習指導要領解説編の100～106頁を読んでおくこと。
4回	中学校学習指導要領解説編の44～55頁を読んでおくこと。
5回	中学校学習指導要領解説編の60～66頁を読んでおくこと。
6回	中学校学習指導要領の116～117頁および中学校学習指導要領解説編の80～88頁を読んでおくこと。
7回	中学校学習指導要領の112～115頁および中学校学習指導要領解説編の23～28頁を読んでおくこと。
8回	7回配布の補助資料を読んでおくこと。
9回	第8回授業で配布する資料を読み、教科内容の系統性がいかに考えられているのかを考察しておくこと。
10回	習得と活用を意識するために、教科書の単元構成についてレポートを作成すること。
11回	第10回授業で配布する教育課程表をもとに、学校の特色を決定する要因を探ってくること。
12回	第11回授業で配布する資料を読み、カリキュラムマネジメントの視座をまとめておくこと。
13回	第12回授業で配布する資料を読み、学校教育目標の設定とカリキュラム開発の関係をまとめておくこと。
14回	文部科学省HPで今年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を見ておくこと。
15回	これまでの授業ノートを読み返すこと。

講義目的	1.戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 2.教育における指導と評価の基本原則を理解する。 3.カリキュラム(教育課程)と授業実践の双方向性を理解する。
達成目標	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。
キーワード	「生きる力」 学習指導要領 義務教育学校
成績評価(合格基準)	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終試験30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終試験において基準点を設け、得点が30点満点中、10点以下の場合には不合格とする。
関連科目	特別活動の理論と方法、教育の方法と技術
教科書	『中学校学習指導要領』/文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』/文部科学省
参考書	『教育方法学』/佐藤 学/岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』/田中耕治等編/有斐閣アルマ
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp(尾島卓)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	国語探究 (FES6H210)
英文科目名	Advanced Japanese II
担当教員名	山崎桂子(やまさきけいこ)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	ガイダンス 実力確認テスト
2回	実力確認テストの答え合わせと解説をする。
3回	敬語の5分類について解説する。 課題の答え合わせと解説をする。
4回	口語文法について解説する。 課題の答え合わせと解説をする。
5回	語彙について解説する。 課題の答え合わせと解説をする。 例文作りの指示を出す。
6回	言葉の意味について解説する。 課題の答え合わせと解説をする。
7回	表記について解説する。 課題の答え合わせと解説をする。
8回	漢字について解説する。 課題の答え合わせと解説をする。
9回	例文作りの発表と講評をする。 漢字検定準2級の実力確認テストを行う。
10回	漢字検定準2級の実力確認テストの答え合わせと解説をする。
11回	漢字検定2級の実力確認テストを行う。
12回	漢字検定2級の実力確認テストの答え合わせと解説をする。
13回	国語常識のテストを行い、答え合わせと解説をする。
14回	国語常識のテストを行い、答え合わせと解説をする。
15回	総まとめをする。 日本語検定、漢字検定、国語常識を融合した予備テストを行う。
16回	最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。国語探究 で学んできたことを振り返り、不得意分野を確認しておくこと。【標準学習時間120分】
2回	実力確認テストで出来なかったところを調べておくこと。 【標準学習時間120分】
3回	前回の授業の復習をし、敬語の課題をしてくること。 【標準学習時間120分】
4回	前回の授業の復習をし、文法の課題をしてくること。 【標準学習時間120分】
5回	前回の授業の復習をし、語彙の課題をしてくること。 【標準学習時間120分】
6回	前回の授業の復習をし、例文作りと言葉の意味の課題をしてくること。 【標準学習時間120分】
7回	前回の授業の復習をし、表記の課題をしてくること。 【標準学習時間120分】
8回	前回の授業の復習をし、漢字の課題をしてくること。 【標準学習時間120分】
9回	6分野の総合問題をしておくこと。 【標準学習時間120分】
10回	実力確認テストで出来なかったところを調べておくこと。 【標準学習時間120分】

1 1 回	前回の授業の復習をしておくこと。 【標準学習時間120分】
1 2 回	実力確認テストで出来なかったところを調べておくこと。 【標準学習時間120分】
1 3 回	前回の授業の復習をしておくこと。 【標準学習時間120分】
1 4 回	前回の授業の復習をしておくこと。 【標準学習時間120分】
1 5 回	これまでの授業内容を復習し、不得意分野を解消しておくこと。 【標準学習時間120分】
1 6 回	これまでの授業内容を復習し、十分に準備をして臨むこと。 【標準学習時間120分】

講義目的	日本語探究 を踏まえて、日本語検定における6領域（敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字）の講義と演習を繰り返すことにより、日本語検定2級合格に相当する日本語の知識と運用能力を身につける。 本科目はカリキュラムポリシーのうち、「国語の運用能力」の獲得を目的とする。
達成目標	日本語検定2級合格に相当する日本語の知識及び運用能力を身につける。 現代日本語に関する総合的な理解を更に深める。 本科目はディプロマポリシーのうち、A,C,Dに相当する。
キーワード	日本語学、言語学、日本語検定
成績評価（合格基準60	小テスト・課題等(30%)、確認・最終評価試験(70%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	国語探究、日本語学概論、日本語文法、日本語表現
教科書	『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」上級 1・2級受検用 増補改訂版』 / 須永哲矢 等 / 東京書籍 / 2016年 / 978-4-487-81051-2
参考書	『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級 3・4級受検用 増補改訂版』 / 須永哲矢 等 / 東京書籍 / 2016年 / 978-4-487-81052-9 その他、授業中に紹介する。
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 E-Mail: yamasaki_ped.ous.ac.jp (@)
注意・備考	受講生の習熟度によって、授業のレベルや進度を変更することがある。 国語辞典（中型以上のもの。電子辞書可）を毎回持参すること。 例文作成は授業中にフィードバックし、講評する。 講義中の録音のみ個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	Practical Communication (FES6I310)
英文科目名	Practical Communication IV
担当教員名	フィリップガジオン* (ふいりっづがじおん*)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、授業の進め方、成績評価等について説明する。
2回	Unit 6 Journeys に関してリスニングおよびスピーキングを行う。
3回	Unit 6 Journeys に関してプレゼンテーションを行う。
4回	Unit 7 Family に関してリスニングおよびスピーチを行う。
5回	Unit 7 Family に関してプレゼンテーションを行う。
6回	U6-7の学習についてReviewを実施する。
7回	Unit 8 Nature に関してリスニングおよびスピーチを行う。
8回	Unit 8 Nature に関してプレゼンテーションを行う。
9回	Unit 9 Happiness に関してリスニングおよびスピーチを行う。
10回	Unit 9 Happiness に関してプレゼンテーションを行う。
11回	U8-9の学習についてReviewを実施する。
12回	Unit 10 Conservation に関してリスニングおよびスピーチを行う。
13回	Unit 10 Conservation に関してプレゼンテーションを行う。
14回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学習についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていきける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。(Practical Communication 1~4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第4段階目にあたる。)(中等教育学科英語教育コースのディプロマポリシーA,Dに対応する。)
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
成績評価(合格基準)	60 小テスト30%、プレゼンテーション・スピーチ30%、口述試験20%、期末試験(ライティング)20%で評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	Practical Communication I, II, III、発信英語I-VI
教科書	Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas & Andrew Boon (CENGAGE Learning)

参考書	
連絡先	
注意・備考	この講義では、アクティブラーニングの一形態であるグループ・ディスカッションやペア・ワークを行う。
試験実施	実施する

科目名	特別支援教育論 (FES6J110)
英文科目名	Special Needs Education
担当教員名	吉利宗久* (よしとしむねひさ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。特別支援教育の歴史と基本的仕組みを解説する。
2回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校の目的等を中心に解説する。
3回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校への就学手続き等を中心に解説する。
4回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を特別支援学級の視点から解説する。
5回	5回 通常の学校における特別支援教育の制度と現状を通級による指導の視点から解説する。
6回	視覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
7回	聴覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
8回	知的障害者教育の実態と基礎について解説する。
9回	肢体不自由者教育の実態と基礎について解説する。
10回	病弱者教育の実態と基礎について解説する。
11回	言語障害者教育の実態と基礎について解説する。
12回	自閉症・情緒障害者教育の実態と基礎について解説する。
13回	発達障害者教育の実態と基礎について解説する。
14回	特別支援教育をめぐる新たな動向 (インクルーシブ教育を中心に) について解説する。
15回	特別支援教育をめぐる新たな動向 (個別の教育支援計画を中心に) について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

準備学習	
講義目的	特別支援教育に関する基礎的な理論の理解を意図し、歴史的な変遷、法制度の内容、障害種別に基づく指導法の原則について教授する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	特別支援教育の基礎を理解するとともに、障害のある子どもに関する支援の動向を把握する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
キーワード	特別支援教育、インクルーシブ教育、障害
成績評価 (合格基準60)	小レポート (50%)、最終評価試験 (50%) により評価する。
関連科目	
教科書	新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて/培風館/ISBN-13: 978-4563052492
参考書	講義中に適宜アナウンスする。
連絡先	yositosi@okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	現代英文法 (FES6K110)
英文科目名	Contemporary English Grammar
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	現代英語文法の概要：英語におけるコミュニケーション能力を重視した英文法を学ぶ。
2回	気分、感情、及び態度(1) (話し言葉における感情的強調) について説明する。
3回	気分、感情、及び態度(2) (感情の記述) について説明する。
4回	気分、感情、及び態度(3) (意志) について説明する。
5回	気分、感情、及び態度(4) (許可と義務) について説明する。
6回	気分、感情、及び態度(5) (人を動かす方法) について説明する。
7回	気分、感情、及び態度(6) (呼びかけ) について説明する。
8回	連結した談話における意味(1) (連結信号) について説明する。
9回	連結した談話における意味(2) (節や文をつなぐ方法) について説明する。
10回	連結した談話における意味(3) (一般的用途の連結詞) について説明する。
11回	連結した談話における意味(4) (情報の提示) について説明する。
12回	連結した談話における意味(5) (情報の焦点化) について説明する。
13回	連結した談話における意味(6) (語順) について説明する。
14回	連結した談話における意味(7) (強調) について説明する。
15回	まとめをする。
16回	1回～15回までの総括をし、最終試験を実施する。

回数	準備学習
1回	2回目までに、話し言葉における感情的強調に関し予習をすること。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目までに、感情の記述に関し予習すること。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目までに、意志に関し予習をすること。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目までに、許可と義務に関し予習すること。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目までに、人を動かす方法に関し予習すること。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目までに、呼びかけに関し予習すること。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目までに、連結信号に関し予習すること。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目までに、節や文をつなぐ方法に関し予習すること。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目までに、一般的用途の連結詞に関し予習すること。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目までに、情報の提示に関し予習すること。(標準学習時間120分)
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと。 12回目までに、情報の焦点化に関し予習すること。(標準学習時間120分)
12回	11回目の授業内容の整理を行うこと。

	1 3 回目までに、語順に関し予習すること。(標準学習時間120分)
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目までに、強調に関し予習すること。(標準学習時間120分)
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目までに、気分、感情、及び態度、連結した談話における意味に関し予習すること。(標準学習時間120分)
1 5 回	英語におけるコミュニケーション能力を重視した英文法について理解すること。(標準学習時間60分)

講義目的	中等英語教育に必要な現代英語文法を実践的に身につけるために、英語におけるコミュニケーション能力を重視した英文法を学習する。
達成目標	気分、感情、及び態度、連結した談話における意味などを扱うことによって、学生が現代の英文法を理解し、コミュニケーション能力を修得することを目標とする。 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A, C) 教育現場での実践的なコミュニケーションスキルを身につける(A, D) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	気分、感情、態度、連結した談話における意味、コミュニケーション能力
成績評価(合格基準60)	最終評価試験の評価50%、レポートの評価50%・評価の観点:英文法の考察を通して英語の特質がより深く理解できている。
関連科目	英語学概論、英語史
教科書	A Communicative Grammar of English / G. Leech and J. Svartvik / Longman
参考書	英文法解説 / 江川泰一郎 / 金子書房
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	毎回辞書を必ず持参すること。
試験実施	実施する

科目名	現代教育課題研究 (FES6K210)
英文科目名	Research on Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	少子・高齢・格差社会について問題を提起する グループワークを通じて取り組む課題を選定 (松岡)
2回	諸問題の改善策について討議する ディスカッション (松岡)
3回	今後の社会と教育のあり方について 意見発表 (松岡)
4回	21世紀型学力について問題を提起する: グループワークを通じて取り組む課題を選定する (森)
5回	21世紀型学力を育成するための教育方法について討議する (森)
6回	21世紀型教育についての意見発表をする (森)
7回	読むことの授業の実際を視聴し、児童の集中して学習に取り組み、学び合う姿から、それを支える学習意欲について課題をもち、調べる計画を立てる。(小川孝司)
8回	学習意欲について調べたことをグループで情報交換し、レポートをより深めるための視点をとらえる。(小川孝司)
9回	完成した「研究レポート」をグループで情報交換したり、代表の「研究レポート」について議論することを通して、「学習意欲」に関する知見を深める。(小川孝司)
10回	世界の学校文化や教育的価値観について考えるワークショップを実施する。(奥西)
11回	日本の学校における外国人児童・生徒との異文化葛藤に関して、具体的事例を基に考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
12回	教師が外国人を含む児童・生徒の持つ異文化性に気づき、多様性を豊かさとして活かす方法について考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
13回	理数教育の本質とキーコンピテンシー(黒崎)
14回	学習の本質とアクティブラーニング(黒崎)
15回	ALACTモデルによる教師の学びと省察(黒崎)

回数	準備学習
1回	少子化・高齢化、および格差の進行について調べておくこと。(標準学習時間90分)
2回	各国の少子化、高齢化対策および経済政策について調べておくこと。(標準学習時間90分)
3回	諸問題の改善に対して教育がどのように貢献できるか、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	21世紀型学力について調べておくこと。(標準学習時間90分)
5回	21世紀型学力を育成するための教育方法について調べておくこと。(標準学習時間90分)
6回	21世紀型教育について、自分の考えを1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	読むことの授業について、認識を深めておくこと(標準学習時間90分)
8回	関心をもったテーマについて、その実態や学習意欲の向上に向けた取り組み等を調べ、まとめておくこと(標準学習時間90分)
9回	より深めるための視点をもとに調べたこと見直し、「研究レポート(1200字)」を仕上げしておくこと。(標準学習時間90分)
10回	海外の国どこか1つを選び、学校生活の様子やその国で重要視されている価値観について調べておくこと。(標準学習時間90分)
11回	配布された異文化葛藤事例について、原因を分析し解決案を考えておくこと。(標準学習時間90分)
12回	日本文化と外国人児童・生徒の異文化葛藤に関して、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	PISA報告(2015)の結果及び数学リテラシー・科学リテラシーの定義を調べておくこと(標準学習時間90分)
14回	論点整理(中央教育審議会答申、2015)の3つの柱、アクティブラーニングの定義を調べておくこと(標準学習時間90分)
15回	教員に求められる資質能力、その背景、養成段階の課題を調べること(中央教育審議会答申、教員養成部会、中間まとめ、2016)(標準学習時間90分)

講義目的	「現代教育課題論」を踏まえ、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育のそれぞれの領域の課題について、グループワークやディスカッション等を組み合わせ、アクティブラーニングスタイルで、理解を深めることを目標とする。5グループに分かれてテーマを設定し、調査・検討・発表を行う。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題について各自が客観的視点をもってアプローチし、文献等の資料に基づきつつ諸課題の解決策等について考えを深め、それを客観的記述として文章化できるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	各担当者ごとの提出課題点(20点×5)を合計して評価する。
関連科目	現代教育課題論
教科書	
参考書	使用しない。
連絡先	
注意・備考	この授業はアクティブラーニングの一環としてディスカッションを実施する。
試験実施	実施しない

科目名	学校経営 (FES6L110)
英文科目名	School Administration
担当教員名	金川舞貴子* (かながわまきこ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等を説明する。
2回	現代の教職と学校：「教員」という職業の歴史の変遷を辿ることを通じて、教職が社会変化や国家制度・政策などと密接な関係を持ちながら、どのような意義や期待、課題などを有するのかを説明する。
3回	学校教育の発展と諸課題：戦後のわが国の学校教育について、制度的な観点から教育政策と学校現場の課題について説明する。
4回	学校教育を支える法制度：義務教育制度がどのように進展してきたのか、「教育を受ける権利」を保障する制度の一つとしての学校教育を支える様々な法律を説明する。
5回	近代公教育制度の成立と構成原理：わが国の公教育制度を支える原理、「教育の機会均等」、それを保障する「義務性」「無償性」「中立性」について説明する。
6回	教育行政の組織と運営：中央と地方の教育行政のしくみと働きを説明する。
7回	教育課程行政とカリキュラム開発：教育課程の法制度について教育権論争、教育課程の編成権、また学習指導要領の拘束性や改訂の歴史などを確認する。その上で、学校現場の創造性や組織性に基づくカリキュラム開発やマネジメントについて説明する。
8回	学校の組織と経営 ~ 歴史的展開 ~：学校が組織となるために必要な営み、すなわち学校経営について、その必要性および歴史的展開について説明する。
9回	学校の組織と経営 ~ 学校組織マネジメントの発想 ~：学校組織とその経営をめぐるトピックについて具体例をもとに理解を深め、学校経営改革をめぐる近年の動向について説明する。
10回	学校経営の理論的展開 ~ 科学的管理法 ~ 現代化論 ~：学校経営についての考え方は、一般経営学の理論を参照しつつ、またその時々々の教育政策や教育課題と向き合う形で発展してきた。そこで、学校経営の諸理論が、学校の組織特性をどのように理解し、学校経営のモデルを提示してきたのかを検討する。
11回	学校経営の理論的展開 ~ 組織文化 ~ 組織的知識創造経営 ~：第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに、学校経営の在り方を説明する。
12回	学校経営の現代的課題と学校組織の特徴：学校経営が現在直面している現代的課題、学校組織としての対応が求められる理由、その際、学校組織の特徴をいかに把握したらいいのかについて検討する。
13回	地域コミュニティの中の学校経営：地域連携の歴史と制度を概観し、学校と地域・保護者の連携という観点から、これからの中学校に求められる学校経営の課題を説明する。
14回	教員の専門性と学校の自律性：学校に配置される教職員等の多様性をそこにおける協働性の重要性について、中学校の組織特性を踏まえて検討する。
15回	学校評価と学校改善：学校評価制度を概観し、学校評価の意義、および学校改善に資する学校評価の在り方について、中学校の具体事例をもとに検討する。

回数	準備学習
1回	近代学校制度が成立して以降の小学校教員・中学校教員の教師像、求められてきた役割について予習すること。(標準学習時間60分、以下同じ)
2回	社会変化や制度・政策との関わりを押さえつつ、教職観の変遷について復習を行うこと。臨時教育審議会答申・教育改革国民会議の提言について予習すること。
3回	戦後のわが国の学校教育について、制度的観点から教育政策と学校現場の課題について復習を行うこと。2006年に改正された教育基本法について、旧法と比較しながら改正内容を予習すること。
4回	インクルージョン教育について復習を行うこと。
5回	現代公教育の構成原理について復習を行うこと。岡山市教育委員会の教育振興基本計画について読み、岡山市の重点的な政策について予習すること。
6回	文部科学省・教育委員会の意義や役割について復習を行うこと。第7回の授業までに教育課程の編成権、学習指導要領の変遷について教科書の該当箇所を予習すること。
7回	学校をベースとしたカリキュラム開発・カリキュラムマネジメントについて復習を行うこと。

8回	学校経営の基本的な考え方および必要性について復習を行うこと。
9回	学校経営改革の動向（組織マネジメント、新しい職）について復習を行うこと。学校経営の近代化論・現代化論について教科書の該当箇所を予習すること。
10回	授業で扱った学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。また学校組織の一員としての自分の働き方について自身の考えを準備しておくこと。
11回	第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。規制緩和・地方分権下の学校の変化について教科書の該当箇所を予習すること。
12回	学校に継続的・組織改善が要求される中、学校組織をどのように捉えて改善の方向性をどのように考えたらいいか、自分の考えをまとめること（復習）。学校と地域の連携が必要とされる背景について予習すること。
13回	今日求められる教師の専門性について教科書の該当箇所を予習すること。
14回	複数の学校評価資料を丁寧に読み比べることで、学校評価の目的やよりよい学校評価に求められるものについて事前に自身の考えをまとめておくこと。
15回	学校改善に資する学校評価の在り方について復習を行うこと。

講義目的	「経営」と聞くと企業のもの、経営者や管理職がするものといった、どこか遠い世界のイメージが強いかもしれない。しかし、学校には「学校経営」なるものが強く求められており、教師として学校組織で働く上で「経営」は不可欠である。近代の学校というシステムにおいて、なぜ「経営」が必要とされるようになったのか、「学校経営」とは何で、どのような考え方が求められるのか。本講義では、これらの問いを中心に据えながら、近代公教育の成立を含め、学校教育システムの基礎的事項を学ぶ。さらに、現在の学校教育が直面する多様な課題を多面的に検討する中で、今後求められる学校経営の在り方、学校改善の方策を考えていく。
達成目標	近代公教育の原理原則を理解し、学校経営・教育行政に関する基礎的知識を習得する。わが国の教育改革の背景や課題を多角的に分析し、自分の考えを論理的に展開できる。
キーワード	
成績評価（合格基準60	課題提出（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で50%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	『教育の経営・制度』 / 田中智志・橋本美保 [監修] 浜田博文 [編著] / 一藝社 / 2014年 / 9784863590670
参考書	適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	授業は講義と討議を中心に進めるため、学生の積極的な参加を求める。
試験実施	実施する

科目名	英語科教材分析・開発演習C (FES6L310)
英文科目名	Analysis and Development of English Teaching Materials C
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション: 授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価等について説明する。
2回	英語科教育における「異文化理解」とは: 異文化接触と異文化理解、文化絶対主義と文化相対主義、文化一般的異文化理解と文化特定の異文化理解、英語の論理と異文化間コミュニケーション、論理的思考力の育成について解説する。
3回	英語教科書におけるリーディング教材について異文化理解の視点から分析を実施する。
4回	英語教科書におけるライティングおよびスピーキング教材について異文化理解の視点から分析を実施する。
5回	クリティカル・リーディングに関して教材比較分析を実施する。
6回	ロジカル・ライティングとロジカル・スピーキングに関して教材比較分析を実施する。
7回	英語教科書の中の世界の多様な文化について教材分析を実施する
8回	英語教科書の中の異文化接触と異文化理解について教材分析を実施する。
9回	カルチャー・アシミレーターに関して教材比較分析を実施する。
10回	ロール・プレイに関して教材比較分析を実施する。
11回	クリティカル・リーディングに関して教材開発を实践する。
12回	ロジカル・ライティング、ロジカル・スピーキングに関して教材開発を实践する。
13回	カルチャー・アシミレーター (英語版) に関して教材開発を实践する。
14回	開発教材に関してグループ発表とピア・フィードバックを実施する。
15回	教材開発を通して異文化理解の向上に英語科教育が果たす役割についてまとめ、ディスカッションを実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	英語科教育における異文化理解に関連した基礎的知識を概観し、異文化言語である英語や世界の多様な文化の問題が、中学校・高等学校の英語教科書においてどのように扱われているのかについて、多角的視点から捉えることができるようになることを目指す。異文化理解を促進する意図で開発された既存の教材との比較分析も行い、異文化理解を促進する英語教育教材の開発を試みる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校の英語教科書の中で取り扱われている多様な文化について複眼的視点を持って捉えることができる。(A,D,E) ・異文化理解の視点を組み入れた英語教育教材を作ることができる。(A,B) ・英語という言葉の持つ異文化性に気づき、論理的思考力育成を意図した英語教育教材を作ることができる。(A,B)
キーワード	異文化間コミュニケーション能力の育成、論理的思考力の育成、クリティカル・リーディング、ロジカル・ライティング、ロジカル・スピーキング、カルチャー・アシミレーター、ロール・プレイ、異文化理解のための英語教育教材の開発

成績評価（合格基準60	・レポート課題（教材分析）50% ・作品（教材開発）50% で評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	英語科内容論C、英語科教材分析・開発演習A、英語科教材分析・開発演習B
教科書	使用しない。
参考書	・異文化間コミュニケーションワークブック（八代京子他）三修社 ・英語ロジカル・ライティング講座（ケリー伊藤）研究社
連絡先	奥西研究室（A1号館10階）
注意・備考	本授業ではアクティブラーニングの一環として、ペアワークやディスカッションを実施する。
試験実施	実施しない

科目名	英語史 (FES6M210)
英文科目名	History of English
担当教員名	地村彰之 (ぢむらあきゆき)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	英語史の概要
2回	古期英語以前について (英語の先史時代)
3回	英語の先史時代と現代英語について
4回	古期英語について
5回	古期英語と現代英語について
6回	中期英語について
7回	中期英語と現代英語について
8回	初期近代英語 (ルネッサンスの英語) について
9回	初期近代英語 (ルネッサンスの英語) と現代英語について
10回	後期近代英語 (古典主義から前期ローマン主義までの英語) について
11回	後期近代英語 (古典主義から前期ローマン主義までの英語) と現代英語について
12回	後期近代英語 (19世紀の英語) と現代英語について
13回	20世紀の英語について
14回	現代英語と世界の英語について
15回	まとめ
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに古期英語以前について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目の授業までに英語の先史時代と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目の授業までに古期英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までに古期英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに中期英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに中期英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに初期近代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までに初期近代英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに後期近代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目の授業までに後期近代英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと。

	1 2 回目の授業までに19世紀の英語と現代英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までに20世紀の英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに現代英語と世界の英語について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までに英語史全般について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	古期英語、中期英語、近代英語、現代英語について理解すること。(標準学習時間60分)

講義目的	英語の先史時代、古期英語、中期英語、初期近代英語、後期近代英語の実態を調査しながら、現代英語の故郷を探索する。それぞれの時代の英語と現代英語のつながりについて把握することを目的とする。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中等英語教育において必要とされている英語の歴史を講義する。 ・ 生徒たちが抱く英語についての素朴な疑問(音声、スペリング、語形、語順、意味など)に対して英語の歴史という視点から自発的に一つの解答を得るための方策を本講義で提供する。 ・ このような内容の授業によって、学生が英語史の重要性を理解し、現代英語に存在する基底構造と歴史性を把握する能力を修得することを目標とする。 ・ 中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A)。()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	古期英語、中期英語、初期近代英語、後期近代英語、現代英語
成績評価(合格基準60)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験による評価50点、レポートによる評価50点 ・ 評価の観点: 英語史の考察を通して現代の英語の特質がより深く理解できている。
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語探究
教科書	G. L. Brook, A History of the English Language (南雲堂)
参考書	適宜、参考資料をプリントし配布する。
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	予習と復習をしっかりとしてください。
試験実施	実施する

科目名	国語科教材分析・開発演習 B (FES6M310)
英文科目名	Analysis and Development of Japanese Teaching Materials B
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	3 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 教材分析と教材開発について解説をする。 韻文(和歌)教材の特色について解説をする。
2 回	歌集の種類と三大和歌集(万葉・古今・新古今)について解説し、それらの教材分析の方法について述べる。 演習の担当を決める。
3 回	万葉・古今・新古今の春と夏の歌について教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
4 回	万葉・古今・新古今の秋と冬の歌について教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
5 回	万葉・古今・新古今の羈旅と恋の歌について教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
6 回	万葉・古今・新古今のそれぞれの歌の特徴をまとめ、指導上の問題について考える。
7 回	散文教材としての軍記物語とその代表作である平家物語について概説し、その教材分析の方法について述べる。
8 回	平家物語「忠度都落」を例として教材分析を行う。
9 回	平家物語「忠度都落」を例として教材分析を行う。
10 回	平家物語「木曾最期」の教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
11 回	平家物語「木曾最期」の教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
12 回	平家物語「敦盛最期」の教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
13 回	平家物語「那須与一」の教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
14 回	平家物語「能登殿最期」の教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。
15 回	平家物語「能登殿最期」の教材分析演習(担当者が発表し、質疑応答)を行う。 総まとめをする。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。日本文学概論で学んだ韻文についての知識を確認しておくこと。【標準学習時間60分】
2 回	日本文学概論で学んだ三代和歌集についての知識を確認しておくこと。【標準学習時間60分】
3 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
4 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
5 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
6 回	第5回までの学習を振り返り、和歌教材の分析方法を確認しておくこと。【標準学習時間120分】
7 回	日本文学史で学んだ軍記物語と平家物語についての知識を確認しておくこと。【標準学習時間60分】
8 回	プリントの該当部分を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
9 回	プリントの該当部分を読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
10 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
11 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】

	標準学習時間120分】
1 2 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
1 3 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
1 4 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。【標準学習時間120分】
1 5 回	プリントの演習予定部分を読んで理解しておくこと。担当者は資料作成と発表準備をすること。演習全体を振り返り、教材研究の要諦を確認しておくこと。【標準学習時間121分】

講義目的	古文教材を分析する力と、新たな教材として開発していく力を身につけることを目的とする。韻文作品として万葉・古今・新古今の和歌、散文作品として『平家物語』を取り上げ、まず教材分析演習を行う。その上で定番教材を新しい視点で魅力的な学習活動に結びつけて行くことを学ぶ。本科目はカリキュラムポリシーのうち、「歴史・文化、幅広い教養」の獲得を目的とする。
達成目標	古文の教材研究が一通りできる。 教材としての理解を深め、古文の授業で効果的に指導できる。 本科目はディプロマポリシーのうち、Bに相当する。
キーワード	古文、教材研究、教材開発、万葉集、古今集、新古今集、平家物語
成績評価（合格基準60）	演習 資料作成・発表・質疑応答（70%）、小レポート(30%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	国語科教育法 ～ 、日本文学概論、日本文学史、日本文学（古典）、国語科内容論B
教科書	授業時にプリントを配布する。
参考書	授業時に指示する。
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 E-Mail: yamasaki_ped.ous.ac.jp (@)
注意・備考	古語辞書(電子辞書可)を毎回持参すること。 演習なので受講者数により進度や内容が変更することもある。 訂正した演習資料を再提出させ、コメントを付して返却する。 レポートもコメントを付して返却する。 講義中の録音のみ個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	教育学演習（教育史）（FES6N310）
英文科目名	Pedagogical Seminar (History of Education)
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教育学における教育史研究の意義と方法について説明する。
2回	教育史研究の領域と基礎文献について説明する。
3回	教育史の諸問題について概説する。
4回	個別テーマの検討（1）儒学の教育思想と日本における展開について分析する。
5回	個別テーマの検討（2）貝原益軒の和俗童子訓の内容を検討する。
6回	個別テーマの検討（3）貝原益軒の教育論の近世的意義について考察する。
7回	個別テーマの検討（4）国学の教育思想と近世的展開について説明し、討議する。
8回	個別テーマの検討（5）近世日本の子ども像について説明し、討議する。
9回	個別テーマの検討（6）幕末における教育近代化への胎動について説明し、討議する。
10回	個別テーマの検討（7）欧米教育の受容と近代学校の成立について説明し、討議する。
11回	個別テーマの検討（7）欧米の新教育運動と大正期の教育改革について説明し、討議する。
12回	個別テーマの検討（9）教育実践記録を歴史的観点から分析考察する。
13回	個別テーマの検討（10）戦後民主教育の思想について説明するとともに、討議する。
14回	個別テーマの検討（11）戦後民主主義教育における教育内容の改革と学習指導要領の歴史的変遷について説明するとともに、その特質について討議する。
15回	日本の教育の歴史的特質について、これまでの内容を踏まえて討議する。
16回	定期試験を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。（準備学習時間30分）
2回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習しておくこと。（準備学習時間30分）
3回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習するとともに、その際使用したテキストの関連部分を復習しておくこと。（準備学習時間45分）
4回	日本の近世という時代の特徴について考えておくこと。（準備学習時間30分）
5回	江戸時代の代表的な儒学者についてその概要を調べておくこと。（準備学習時間45分）
6回	江戸時代の代表的な儒学者の中で、貝原益軒の特徴を考えておくこと。（準備学習時間45分）
7回	国学という学問の特質と、儒学との違いについて考えておくこと。（準備学習時間45分）
8回	子どもという存在の特質について考えておくこと。（準備学習時間30分）
9回	幕末という時代の特徴について考えておくこと。（準備学習時間30分）
10回	明治初期の教育近代化へ向けての動きに関心を持っておくこと。（準備学習時間30分）
11回	明治の末から大正にかけての教育の歴史に関心を持っておくこと。（準備学習時間30分）
12回	教育実践を記録することに意義について考えておくとともに、その分析への関心を持っておくこと。（準備学習時間45分）
13回	戦後の教育の特質を戦前との比較の視点から考える事への関心を持っておくこと。（準備学習時間45分）
14回	学習指導要領の基本的な特徴について復習しておくこと。（準備学習時間45分）
15回	これまでの授業内容を復習し、日本の教育の歴史的特質についてあらかじめ考えておくこと。（準備学習時間45分）
16回	これまでの授業の各回の内容をまとめておくこと。（60分）

講義目的	<p>（1）教育による人間形成の様相を歴史的に考察し、その特質を理解する。</p> <p>（2）教育の歴史的研究に必要な史料の分析方法を修得する。</p> <p>（3）教育の歴史に関する問題意識を深め、これからの教育のあり方を考える姿勢を培う。</p>
達成目標	<p>人類の歴史とともにある教育の営みは、時代や地域の違いに応じて多様に展開する。その過程において、教育のあり方に関してどのような考え方が表明され、いかなる教育実践が展開し、子どもたちはどのように時代を担う大人へと成長していったのか。</p>

	この授業では教育に関する思想や制度、実践の歴史的展開とそれに伴う諸問題を中心に、諸外国の教育との比較的な視点から、文献の読解と分析的考察を進めることでこれからの教育のあり方を考えることが出来ることを目的とするとともに、教育に関わることへの確かな使命感を持ち行動ができるようになる素地を養う。ディプロマポリシーBに関連する目標である。
キーワード	教育学 教育史 史料の読解と分析 教職への使命感
成績評価（合格基準60）	定期試験による評価50点と、随時提出のレポートによる評価50点の計100点満点。
関連科目	教職論、教育学原論 教育史
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書	『こどもの教育の歴史』（名古屋大学出版会）
連絡先	A1号館901研究室
注意・備考	この授業は演習科目であるので、15回の講義の中では随時アクティブラーニングの方法を取り入れ、個々の調査研究に基づく共同討議や意見交換を行う。 また、この授業は演習科目であり、受講生の教育史に関する問題意識や関心の内容に即して授業内容を構成する必要があるため、実際の授業は上記を基本として随時関連する内容を取り入れていくことになる。
試験実施	実施する

科目名	教育学演習（教育心理学）（FES6N320）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Educational Psychology)
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教育心理学の論説論文および研究論文を読む際の留意点について説明する。
2回	論説論文講読演習（1）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
3回	論説論文講読演習（2）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
4回	論説論文講読演習（3）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
5回	論説論文講読演習（4）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
6回	論説論文講読演習（5）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
7回	論説論文講読演習（6）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
8回	論説論文講読演習（7）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
9回	研究論文講読演習（1）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
10回	研究論文講読演習（2）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
11回	研究論文講読演習（3）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
12回	研究論文講読演習（4）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
13回	研究論文講読演習（5）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
14回	研究論文講読演習（6）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
15回	研究論文講読演習（7）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理・復習しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	教育心理学に関係する論説論文および研究論文の内容を正しく理解し、発表・議論を通して卒業論
------	--

	文の作成に不可欠な批判的思考力・創造的思考力を育成する。「学位授与の方針」のB（小学校教育の意義と役割を理解し、教職に関わることへの強い使命感を身につけている）に関連する科目である。
達成目標	教育心理学に関する論説論文を正しく読解する。教育心理学に関する論説論文の概要の発表・議論を通して批判的思考力および創造的思考力を身に付ける。教育心理学に関する研究論文を正しく読解する。教育心理学に関する研究論文の概要の発表・議論を通して批判的思考力および創造的思考力を身に付ける。学位授与の方針Bに関連する科目である。
キーワード	
成績評価（合格基準60	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	教育心理学
教科書	使用しない。
参考書	日本教育心理学会の機関誌である『教育心理学研究』
連絡先	A 1号館 9 F 森研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。
試験実施	実施する

科目名	教育学演習（教育社会学）（FES6N330）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Sociology of Education)
担当教員名	松岡律（まつおかただし）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション：人間の行為と意味について理解する。
2回	正常と異常・社会的禁忌について理解する。
3回	社会的ラベリングと予言の自己成就について理解する。
4回	様々な社会的規範について理解する。
5回	社会的正義と権力について理解する。
6回	共同体と国家について理解する。
7回	国民国家とグローバル化・移民について理解する。
8回	社会と教育の関係について理解する。
9回	グループ学習1：テーマに応じた文献を渉猟・講読する。
10回	グループ学習2：講読ならびにグループワークを通じて理解を深化する。
11回	グループ学習3：理解・解釈・成果を発表・共有する。
12回	教育社会学の研究スタイルおよび動向を理解する。
13回	個人研究(1) 各自の研究関心を明確化する。
14回	個人研究(2) 進捗状況と課題をまとめる。
15回	個人研究(3) 各自の成果を発表・共有する。

回数	準備学習
1回	教科書第1～2章を熟読すること。(標準学習時間60分)
2回	教科書第3～4章を熟読すること。(標準学習時間60分)
3回	教科書第5章を熟読すること。(標準学習時間60分)
4回	教科書第7～8章を熟読すること。(標準学習時間60分)
5回	教科書第10～11章を熟読すること。(標準学習時間60分)
6回	教科書第12～13章を熟読すること。(標準学習時間60分)
7回	教科書第14～15章を熟読すること。(標準学習時間60分)
8回	指定文献を熟読すること。(標準学習時間60分)
9回	何をテーマにするか熟慮しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	文献の解釈を明確にし、書き起こしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
12回	指定された文献を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	指定以外の文献も読んでおくこと。(標準学習時間60分)
14回	複数の文献を組み合わせて論を構成すること。(標準学習時間120分)
15回	何が明らかになったか、2000字以上でまとめておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	本演習の目的は、教育およびそれを取り巻く現代社会の様々な状況について、社会学的視点から分析的に理解・判断できるようになる力を身につけることにある。 この力は今後の学修のみならず、日常生活や実社会を生き抜く力の基礎となるものである。 (中等教育学科の学位授与方針 国語教育コース：B・E 英語教育コース：B・Dに最も強く関与する)
達成目標	・専門的文献を読解する力の基礎を身につけること。 ・自己を相対化する視点を身につけること。 ・データの読み方の基礎を身につけること。
キーワード	
成績評価（合格基準60）	中間レポート30%、最終レポート70%により評価し、計60%以上を合格とする。
関連科目	教育社会学
教科書	『社会学のエッセンス -- 世の中のしくみを見ぬく 新版』 / 有斐閣アルマ / 友枝 敏雄 ほか / ISBN 978-4-641-12338-0
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館904研究室
注意・備考	

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	教育実習事前・事後指導 (FES60310)
英文科目名	Pre and Post Guidance for Teaching Practice
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお), 笹山健作 (ささやまけんさく), 原田省吾 (はらだしょうご), 坂本南美 (さかもとなみ)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	事前指導は4年春に行われる「教育実習」を効果的かつ実りのあるものにするために、実習に関する有用な情報を提供しつつ、事例の検討などもしながら行っていく。事前指導は「教育実習」の履修に必要な内容、たとえば中・高校の教育実習に必要な学習指導案作成や実習日誌の作成要領、生活指導や行事指導のポイント、国語あるいは英語の模擬授業の方法等を修得しようとするものである。事後指導は「教育実習」の後に行い、授業やHR経営等についての学びや成果や課題、反省等を情報交換し、現場で得た学びの振り返りを図るとともに、自身の学校観や教育観、教師観、生徒観を形成し、中・高校教員になることへの自覚を高めることをねらいとする。
準備学習	『実習の手引き』を熟読し、教育実習の意義や目的、2・3週間に及ぶ実習の概要について理解しておくこと。また、今までに学修した各教科等の内容論や教育法の授業内容を振り返るとともに、事例研究などを参考に今日的教育課題への対応を考えたり、各指導教員の指示に従い学習指導案を作成して模擬授業の構想を練ること。
講義目的	教育実習の事前指導と事後指導からなる授業である。事前指導では、教育実習の意義や教育実習に必要な心構え、実習を通して学ぶことについての理解を深めることを目標とする。事後指導は教育実習を通して学んだことを振り返り、自身の教育観を形成するとともに中・高校教員になることへの自覚を高めることを目標とする。本科目はカリキュラムポリシーのうち、「E, 中等教育の意義、役割、使命感」の修得を目的とする。
達成目標	各教科等の指導内容を理解する。 現場における効果的な指導方法、基礎的な授業力を身に付ける。 中等教育の意義や役割を理解し、教職に関わることへの使命感、やりがいをも身に付け、自分なりの教育観などを養う。 本科目はディプロマポリシーのうち、(E)に相当する。
キーワード	教育実習、模擬授業、学習指導案、事例検討、教科指導、HR指導、生活指導、学校観、教育観、教師観、生徒観、教育の今日的課題。
成績評価 (合格基準60)	各担当者ごとの小レポートを合計して評価する。
関連科目	国語科内容論、英語科内容論、国語科教育法、英語科教育法、教育実習、教職実践演習
教科書	なし。
参考書	適宜授業中に紹介する。
連絡先	fudano@ped.ous.ac.jp sakamoto@ped.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> この講義ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループディスカッション等を行う。 講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので事前に相談すること。 提出課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを心がける。
試験実施	実施しない

科目名	英米文学講読 (FES6P210)
英文科目名	Reading English and American Literature
担当教員名	香ノ木隆臣 (こうのきたかおみ)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" を読む : 英語の特徴について説明する。
2回	F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" を読む : 象徴的場面について説明する。
3回	F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" を読む : 主題は何かについて説明する。
4回	William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む: 英語の特徴について説明する。
5回	William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む: 象徴的場面について説明する。
6回	William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む: 主題は何かについて説明する。
7回	Eudora Welty, "A Memory" を読む: 英語の特徴について説明する。
8回	Eudora Welty, "A Memory" を読む: 象徴的場面について説明する。
9回	Eudora Welty, "A Memory" を読む: 主題は何かについて説明する。
10回	ディスカッション: これまでの作品の解釈について、学生間でブレインストーミングを行う。
11回	ディスカッション: 質問用紙を利用し、結果に基づいて議論する。
12回	小論文発表、合評: 話し合いで修正した自分の考えをもとに書いたものを発表する。
13回	小論文発表、合評: 話し合いで修正した自分の考えをもとに書いたものを発表する。(第12回の継続)
14回	小論文発表、合評: さらに議論を重ね、完成版を提出する
15回	文学を読むことと論文を書くことの意義について復習する。
16回	最終評価試験を実施する。(扱った短篇小説の、語学面について筆記試験を行う。)

回数	準備学習
1回	「英米文学概論」「英米文学史」で学修した内容を振り返っておくこと。配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	短篇全体を再読したうえで、自分の意見を準備しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	短篇全体を再読したうえで、自分の意見を準備しておくこと。(標準学習時間90分)
7回	配付資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	配布資料を熟読しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	短篇全体を再読したうえで、自分の意見を準備しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
11回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
12回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
13回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
14回	扱った3つの短篇全体を再読して、それぞれの作品についての自分の意見をまとめておくこと。学生間の意見から触発された点を明確にしておくこと。(標準学習時間90分)
15回	これまでの講義内容を振り返り、文学の解釈方法と批評の基本について考え直すこと。(標準学習時間60分)

講義目的	20世紀前期のアメリカの短篇小説の講読を通して、英文そのものの読解力と作品解釈の方法論とを学ぶ。F. Scott Fitzgerald, William Faulkner, E
------	--

	udora Welty の短篇を題材にその精緻な英語を読み解き、構文の把握、ストーリーの展開、象徴を介して言外の意味を把握する訓練を行い、語学力と解釈力の双方に配慮する。英語力向上のため、扱う短篇に関連するテーマに基づくパラグラフライティングを時間外学修として課する。(中等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する。)
達成目標	20世紀前期の英米の代表的作家の短篇小説を読み、文学理論の基礎に立脚した解釈を学ぶことを通し、文学作品を客観的に読む能力を修得することが目標となる。文学と世紀転換期の思潮との連関の具体的様相を作品に読み込む作業を行う。さらに、英語の読解力全般の向上と、自分の作品解釈を英語で発表する基本的表現力とを身につける。
キーワード	英米文学 英米史 英米思想史
成績評価(合格基準60)	毎回の授業時の応答と、回収する小レポート・小論文(50%)と、論述式の最終評価試験(50%)を総合して評価する。ただし、最終評価試験に最低合格基準点を設ける。
関連科目	1年次で「英米文学概論」(必修科目)を履修していること、2年次で「英米文学史」(選択科目)を履修していることが望ましい。
教科書	指定せず、ハンドアウトを毎回、全員に配付する。受講者は、欠席した場合、次回講義開始時まで担当教員から指示を受けること。
参考書	川崎寿彦, 『イギリス文学史』, 成美堂, 1988年. 渡辺利雄, 『講義アメリカ文学史』全3巻+補遺, 研究社, 2007年.
連絡先	A 1号館10階 香ノ木研究室
注意・備考	アクティブラーニング(グループディスカッション、グループワーク、コメントシート)を取り入れる。試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による論述形式とする。具体的な問題形式や試験時の参照物件等は、初回の講義時に説明する。配付物は、当該講義後には配付しない。録音や撮影は不可とする。提出課題は、3回分をまとめて返却する。
試験実施	実施する

科目名	E S D理論と実践 (FES6Q210)
英文科目名	Theory and and Practical Approach to ESD
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	E S D創設の経緯や意義について解説する。
2回	持続可能な社会づくりに関わる問題を抽出・選択し、それらの特性について考察する。
3回	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力や態度について考察する。
4回	持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだす視点について解説する。
5回	E S Dの視点に立った学習指導を進める上での留意事項について解説する。
6回	E S Dの視点に立った学習指導の枠組みについて解説し、その実践例を紹介する。
7回	総合的な学習の時間とE S Dの関連について解説する。
8回	探究的な学習とE S Dの関連について解説する。
9回	社会に開かれた教育課程におけるE S Dについて解説する。
10回	社会教育におけるE S Dの現状と課題について解説する。
11回	E S Dにおける多様な主体の協働 (マルチ・ステークホルダー) について解説する。
12回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その1 >
13回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その2 >
14回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その3 >
15回	E S D化された指導計画を発表・共有し、改善点等について考察する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】E S Dとは何かについて、インターネットや文献等から調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S D創設の経緯と意義を理解し、E S Dとは何かを説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
2回	【予習】持続可能な社会につながる全世界的な問題のうち、教材として取り上げてみたいものについて調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりに関わる問題の特性を説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
3回	【予習】学習指導要領で重視されている「生きる力」を構成する資質・能力について復習し、理解しておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S Dで重視する能力や態度について説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
4回	【予習】「システム」から連想されることや意味することを整理しておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりの視点を理解し、活用できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
5回	【予習】「地域の魅力を発見しよう」の学習を展開する場合の指導方法を考えておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dを進める上での留意事項を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
6回	【予習】これまでの学習内容 (能力・態度、構成概念) を再確認して理解しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みを理解し、説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
7回	【予習】各自の小・中・高等学校での「総合的な学習の時間」の内容を思い出して整理しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】総合的な学習の時間の趣旨を理解し、E S Dとの関連が説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
8回	【予習】各自の「総合的な学習の時間」を探究的なものにするための構想を描いておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の過程を理解し、授業計画を構想できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。

9回	【予習】自身が受けてきた学校教育の中で、実社会とのつながりを意識した経験を整理しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】社会に開かれた教育課程とESD・PBLの関係を理解し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
10回	【予習】学校教育と社会教育の共通点・相違点について整理しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】社会教育におけるESDを理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】学校教育を充実する上で活用できそうな、学校外の教育資源の例を考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】多様な主体の協働の重要性や有効性を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】これまでの学習内容を再確認して理解しておくとともに、配付物を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】選定した教材について、各自の専門教科の側面から分析しておくこと（標準学習時間60分）。
13回	【予習】選定した教材について、ESDの視点に基づいて分析しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ESDの視点に基づいた教材の分析を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】ESDの視点に基づいた指導計画を立案しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】ESD化された指導計画を完成させておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】各自が作成した指導計画について、指定された時間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】各自が作成した指導計画を評価しておくこと（標準学習時間90分）。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	ESD（持続可能な開発のための教育）の理論や指導方法等に関する講義、実践事例の紹介、授業設計の演習等を通して、ESDの目的や内容についての理解を深めるとともに、ESDの指導過程を構想・展開するための考え方や方法を習得する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	持続可能な社会づくりに関する現状と課題について理解を深め、ESDの理論と実践の必要性を認識する（D）。 小・中・高等学校等におけるESD実践の目標・内容・方法等について理解する（D）。 ESDの効果的な教材や指導方法、教科等の連携、学社連携等について、事例に基づきながら理解する（D）。 ESDの授業が設計・実践できる力の基礎を身に付ける（D）。
キーワード	ESD, 持続可能な開発のための教育, 環境・経済・社会・文化, 問題解決学習
成績評価（合格基準60	提出課題60%, 最終評価試験40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。 授業中に資料を配付する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2号館 4F 岡本研究室 086-256-9717 okamoto@zool.ous.ac.jp
注意・備考	課題（【予習】で示した内容）については、次時の授業において討論や発表等を通して深化させる。 アクティブ・ラーニング（小集団でのグループ協議など）をほとんどの授業で取り入れる。
試験実施	実施する

科目名	英語科教材分析・開発演習 A (FES6Q310)
英文科目名	Analysis and Development of English Teaching Materials A
担当教員名	地村彰之(ぢむらあきゆき)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	英語学と英語科教材分析・開発について学習する。
2回	英語散文(小説)(1): 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
3回	英語散文(小説)(2): 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
4回	英語散文(エッセイなど)(1): 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
5回	英語散文(エッセイなど)(2): 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
6回	英米詩(1): 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
7回	英米詩(2): 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
8回	戯曲(1): 音韻論、形態論からの教材分析・開発をする。
9回	戯曲(2): 統語法、意味論、語用論からの教材分析・開発をする。
10回	教材作成の実践(1): 作品を選定する。
11回	教材作成の実践(2): 選んだ作品について論点を発表する。
12回	教材作成の実践(3): 選んだ作品に基づいた教案の発表する。
13回	教材作成の実践(4): 修正した教案で模擬授業をする。
14回	教材作成の実践(5): ディスカッションをする。
15回	教材作成の実践(6): 最終教案の回覧とディスカッションをする。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認、2回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
2回	1回目の授業内容の整理を行うこと。 3回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	2回目の授業内容の整理を行うこと。 4回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	3回目の授業内容の整理を行うこと。 5回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	4回目の授業内容の整理を行うこと。 6回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	5回目の授業内容の整理を行うこと。 7回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目の授業内容の整理を行うこと。 8回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	7回目の授業内容の整理を行うこと。 9回目の授業までに教材分析・開発について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	8回目の授業内容の整理を行うこと。 10回目の授業までに作品の選定について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	9回目の授業内容の整理を行うこと。 11回目の授業までに選んだ作品についての論点の準備を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	10回目の授業内容の整理を行うこと。 12回目の授業までに選んだ作品に基づいた教案の準備を行うこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	1 1 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 3 回目の授業までに修正した教案による模擬授業の準備を行うこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	1 2 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 4 回目の授業までに最終的なディスカッションの準備を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	1 3 回目の授業内容の整理を行うこと。 1 5 回目の授業までに最終教案の回覧とディスカッションの準備を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	教材分析・開発演習について理解すること。（標準学習時間60分）

講義目的	英語で書かれた各ジャンルの英語テキストを英語学（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）の視点から分析し、英語教材として有用な英語テキスト開発を試みる。中等教育の現場で活用することができる英語散文（小説）、英語散文（エッセイなど）、英米詩、戯曲などの英語科教育教材を受講者自らが開発できるように、英語学の立場から動機づけを与える。受講者が自分なりの教材を選定し、その教案を作成し、模擬授業の形式を用いて全員の前で発表する。その直後に行う合評会にて、さらに効果的な英語科教材のあり方について議論する。
達成目標	中等英語教育において必要とされている英語科教材を英語学（音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論など）の立場から分析・開発し、実際の教育現場で教材として利用することを目標とする。英語学の基礎能力を十分に活用して教材分析を行い、教育現場で有用な英語科教育教材を開発することを到達目標とする。中学校・高等学校の英語科教員に必要とされる基本的な知識を身につける（A, C）。（ ）内は中等教育学科（英語教育コース）の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	音韻論、形態論、統語法、意味論、語用論
成績評価（合格基準60	教材分析（50%）、教材作成の実践等（50%）
関連科目	英語学概論、現代英文法、英語史、英語探究、英語内容論
教科書	指定せず、ハンドアウトを毎回、全員に配付する。
参考書	河井迪男編注『英語学リーダー』（英宝社）
連絡先	A1号館 10F 地村研究室
注意・備考	予習・復習をしっかりとすること。辞書を必ず持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	日本文学史 (FES6R110)
英文科目名	History of Japanese Literature
担当教員名	山崎桂子 (やまさきけいこ)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 日本文学史の時代区分と文学のジャンルについて概説する。
2回	上代の文学として神話物語『古事記』を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト 中古の文学として作り物語『竹取物語』を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト 中古の文学として女流日記『蜻蛉日記』を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト 中古の文学として随筆『枕草子』を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト 中古の文学として歴史物語『大鏡』を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト 中古の文学として説話集『今昔物語集』を取り上げ、解説する。
8回	復習小テスト 中世の文学として軍記物語『平家物語』を取り上げ、解説する。
9回	復習小テスト 中世の文学として女流日記『とはすがたり』を取り上げ、解説する。
10回	復習小テスト 近世の文学として井原西鶴を取り上げ、解説する。
11回	復習小テスト 近世の文学として松尾芭蕉を取り上げ、解説する。
12回	復習小テスト 近世の文学として近松門左衛門を取り上げ、解説する。
13回	復習小テスト 近世の文学として上田秋成を取り上げ、解説する。
14回	復習小テスト 近代の文学として森鷗外を取り上げ、解説する。
15回	復習小テスト 近代の文学として夏目漱石を取り上げ、解説する。
16回	最終評価試験を行う。 編集したアンソロジーを回収する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。【標準学習時間60分】
2回	教科書の概説と古事記、万葉集のところを読んで理解しておくこと。【標準学習時間120分】
3回	教科書の竹取物語のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
4回	教科書の蜻蛉日記のところを読んで理解しておくこと。中古の他の日記作品についても教科書の当該部分を読んでおくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
5回	教科書の枕草子のところを読んで理解しておくこと。清少納言と併称される紫式部についても教科書の源氏物語のところを読んでおくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
6回	教科書の大鏡のところを読んで理解しておくこと。大鏡と併称される栄花物語についても調べておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
7回	教科書の今昔物語集のところを読んで理解しておくこと。中世の説話集である撰集抄についても教科書の当該部分を読んでおくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
8回	教科書の平家物語のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】

	準学習時間120分】
9回	教科書の『とはずがたり』のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
10回	教科書の井原西鶴のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
11回	教科書の松尾芭蕉のところを読んで理解しておくこと。俳諧について調べておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
12回	教科書の近松門左衛門のところを読んで理解しておくこと。人形浄瑠璃（文楽）について調べておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
13回	教科書の上田秋成のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
14回	教科書の森鷗外のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
15回	教科書の夏目漱石のところを読んで理解しておくこと。復習小テストの勉強をしておくこと。【標準学習時間120分】
16回	1回～15回までの内容をよく理解し、主要な事項を記憶しておくこと。アンソロジーを編集し、提出できるようにしておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	上代から現代までの文学の流れを概観した上で、個々の作品や作家を位置づけ、文学を理解する基盤とする。そのため各時代の主要な作品について原文の一部を書写・音読・鑑賞し、作家の特質についても解説する。主要な作品・作家でも他の講義で扱うものについては割愛している。本科目はカリキュラムポリシーのうち「歴史・文化、幅広い教養」「教科の内容」の修得を目的とする。
達成目標	上代・中古・中世・近世・近代・現代という文学史の時代区分を知る。 各時代の歴史的背景・文化の特徴・文学の特徴(文学思潮)を知る。 主要な作品の成立時期・作者・内容を知る。 本科目はディプロマポリシーのうち、A,Cに相当する。
キーワード	上代、中古、中世、近世、近代、現代
成績評価（合格基準60	提出物（20%）、小テスト（20%）、および最終評価試験（60%）により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	日本文学（古典）、日本文学（近・現代）
教科書	『日本文学史』／山崎桂子編／荻萩文庫／2018 書店販売しない。初回講義時に教室で販売する。
参考書	日本文学序説上・下／加藤周一／ちくま学芸文庫／2009／978-4480084873・978-4480084880 日本文学新史／小山弘志編／至文堂／1990／978-4784300600 岩波講座日本文学史全17巻別巻1／岩波書店／1995～1997
連絡先	A1号館9F 山崎研究室 E-Mail: yamasaki_ped.ous.ac.jp (@)
注意・備考	毎回400字詰原稿用紙を持ってくること。 提出物は検印の上、コメントを付して返却する。 講義中の録音のみ個人で利用する場合に限り許可する場合があるので、事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	国語科教育法 (FES6R310)
英文科目名	Teaching of Japanese IV
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業構想の視点や試験問題作成、評価の方法について説明を行う。
2回	文学作品を使った模擬授業の実施と合評を行う。
3回	小説を使った模擬授業の実施と合評を行う。
4回	説明的文章を使った模擬授業の実施と合評を行う。
5回	評論を使った模擬授業の実施と合評を行う。
6回	古文を使った模擬授業の実施と合評を行う。
7回	漢文を使った模擬授業の実施と合評を行う。
8回	詩歌を使った模擬授業の実施と合評を行う。
9回	「話す・聞く」ことや「音声言語」に関わる模擬授業の実施と合評を行う。
10回	実用的文章等を使った模擬授業の実施と合評を行う。
11回	法言語等に関わる模擬授業の実施と合評を行う。
12回	臨床こくご学に関する模擬授業の実施と合評を行う。
13回	言語事項等に関わる模擬授業の実施と合評を行う。
14回	科目横断的な模擬授業の実施と合評を行う。
15回	協同授業を念頭に置いた模擬授業の実施と合評を行う。

回数	準備学習
1回	あらかじめ、評価方法に関する文献を読んでおくこと。(60分)
2回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
3回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
4回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
5回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
6回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
7回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
8回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
9回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
10回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
11回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
12回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
13回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
14回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)
15回	学習指導案を作成し模擬授業の準備を行うこと。(120分)

講義目的	<p>国語科教育法 が基本、 が応用とすれば、 は「仕上げ」の内容である。 ~ で培った力をもとに授業ができる応用的実践力を養う。授業を「受ける」のではなく「行う」立場から授業を捉え直し、学習指導案作成を通じて何のために何をどのように教えるのか明確にして模擬授業を行う。模擬授業後の合評の時間を大事にしたい。自己の授業を振り返る目を養いながら、他者の授業に対しても批評できる力をつける内容にしたい。相互評価を通じて授業を見る視点を養うことを目指す。その視点を持つことは授業を創ることに生きるからである。(本科目はカリキュラムポリシーのうち「日本語表現および指導法」の修得を目的とする)</p>
達成目標	<p>国語科学習指導案に沿って授業しつつも、臨機応変に対応できる実践力を身に付ける。 国語科としての評価の方法を身に付ける。 自己の力量を客観的に捉える力を持つとともに、他者の授業に対して的確な批評ができる力を付ける。 (本科目はディプロマポリシーのうち(C)(A)に相当する)</p>
キーワード	模擬授業、批評する力、評価(方法)
成績評価(合格基準60)	模擬授業の内容や授業中に指示した課題の内容(50%)と最終レポート(50%)
関連科目	国語科教育法 . .

教科書	中学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/東洋館出版社/ 高等学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/出版社未定 検定教科書/現代の国語2/三省堂/978-4-385-70519-4 検定教科書/精選国語総合新訂版/大修館書店/978-4-469-623192
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	fudano@ped.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループディスカッション等を行う。 ・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・学生の理解度により内容、進度、順番を調整・変更することがある。また講義内容によってはゲストを招いて行うときもある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので事前に相談すること。 ・提出課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを心がける。
試験実施	実施しない

科目名	英語科教育法 (FES6R320)
英文科目名	Teaching of English IV
担当教員名	坂本南美(さかもとなみ)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	様々な教育現場と英語授業の実際について解説する
2回	理想の授業と実際の授業との距離を縮めるための秘訣について協議する
3回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 英語による学習指導案
4回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 英語・日本語による学習指導案
5回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) デジタル教科書の使用(中学校)
6回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) デジタル教科書の使用(高等学校)
7回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 様々なICTを用いた授業展開
8回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 英語で授業を行うこと
9回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 教材開発, teaching journal
10回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 国際交流と英語教育
11回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) これからの英語教育と英語教師に求められる力
12回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 自主研修型教師をめざして
13回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 教材作りと授業での活用
14回	教育実習に向けて授業研究を行う (1) 生徒に合わせた指導
15回	ポートフォリオ作成による学びの振り返りを行う
16回	1回～15回の総括を説明し、最終評価試験を実施する

準備学習	毎回の講義で中心となる内容の復習を行うこと 次時の授業で取り上げられる言葉や鍵概念、活動、教材について述べられるように予習し、準備しておくこと 授業発表の準備も丁寧に行うこと
講義目的	英語科教育法 では、英語科教育法 ～ で学んだことを礎にしながら、昨今、実際の教育現場で展開されている様々な英語教授法を学んだり、著名な現役英語教師の授業を見たりすることから、各自のteaching theoryを再構築する。同時に、海外や日本の教師教育における研究にも触れ、教職に就いた後も自ら研修を重ねていく教師としてのあり方について考える。同時に、教育実習に向けて、英語を教える英語科教師としてだけでなく、授業を通して生徒たちの英語の力だけでなく「人」を育てる教師としても必要な教師力を身につける。
達成目標	実際の授業実践の観察から、その特徴や工夫点を学び、それらを参考にしながら、自らの授業における知識と授業力を身につける(A, C, E) 英語で模擬授業を行うことのできる英語力を身につける(A, B) 5領域を統合的に織り交ぜた授業をデザインし、自己研修を重ねていく教師としての資質を身につける(A, D, E) ()内は中等教育学科(英語教育コース)の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	英語科授業デザイン/学習指導要領/学習指導案/模擬授業
成績評価(合格基準)	60 定期試験による評価50%, 模擬授業をルーブリックで評価25%, 提出課題による評価25% ・評価の観点: 理論的知識と実践との往還がなされている 実際の英語模擬授業における応用ができています
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法
教科書	中学校英語教科書『New Crown』1,2,3 / 三省堂:三省堂:高等学校英語教科書『U

	NICORN English Communication , , 』 / 文英堂
参考書	『学習指導要領』文部科学省のサイトを参照
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションや発表を行う 講義資料は授業で配布する
試験実施	実施する

科目名	国際理解教育概論 (FES6V110)
英文科目名	Introduction to Understanding International Education
担当教員名	奥西有理 (おくにしゆり)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	文化とは？民族・人種とは？ホスト言語・移民言語、第一言語・第二言語・外国語、バイリンガル・モノリンガル・セミリンガルについて説明する。
3回	アメリカの社会：人種のるつぼと民族のサラダボール、自由・主張・独立・交渉・競争について説明する。
4回	アメリカの教育：機会の平等と結果の平等、アファーマティブ・アクション、クリティカル・シンキングについて説明する。
5回	アメリカの国際理解教育：公民権運動、アメリカ平和部隊、異文化コミュニケーション論の発展、学校教育における多文化教育について説明する。
6回	オーストラリアの社会：イギリス系移民と先住民、アジア系移民、白豪主義と多文化主義について説明する。
7回	オーストラリアの教育：言語教育政策の推移(NPL / ALLP / NALSAS)、先住民の母語教育、エスニック・スクール、英語リテラシー教育、アボリジニ語と英語のバイリンガル教育について説明する。
8回	オーストラリアの国際理解教育：言語教育を通じた他文化理解、LOTE教育について説明する。
9回	マレーシアの社会：民族・文化共生の課題、プミプトラ政策の経緯と効果、民族融和政策と国民統合、多元的アイデンティティの獲得について説明する。
10回	マレーシアの教育：ポスト・プミプトラ政策時代のグローバル人材育成と英語の位置づけ、学校教育(授業)における使用言語について説明する。
11回	マレーシアの国際理解教育：早期英語教育と国語教育の重視、多様な言語力と多文化理解能力の育成、グローバル化社会の人材育成と英語教育について説明する。
12回	アメリカ・オーストラリア・マレーシアの社会、言語政策、教育についてまとめ、意見を交換する。
13回	アメリカ・オーストラリア・マレーシアの社会、言語政策、教育の日本との異同について考え、意見を交換する。
14回	日本社会における多民族・多言語・多文化共生の課題：英語学習と習得が促進される社会的環境について考え、意見を交換する。
15回	日本における国際理解教育の課題と展望について考え、意見を交換する。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、言語と文化に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第3回授業までに、アメリカの社会に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第4回授業までに、アメリカの教育に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第5回授業までに、アメリカの国際理解教育に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第6回授業までに、オーストラリアの社会に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第7回授業までに、オーストラリアの教育に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第8回授業までに、オーストラリアの国際理解教育に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第9回授業までに、マレーシアの社会に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第10回授業までに、マレーシアの教育に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)

10回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第11回授業までに、マレーシアの国際理解教育に関して予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第12回授業までに、授業で取り上げた各国の言語政策と教育に関して理解を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第13回授業までに、授業で取り上げた各国の言語政策と教育に関して理解を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第14回授業までに、日本における多民族・多文化共生の問題と英語教育の課題に関して自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあったレポートを作成すること。第15回授業までに、日本における国際理解教育に関して自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
15回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	英語圏であるアメリカおよびオーストラリア、および英語を教育上の主要言語として用いているマレーシアを取り上げ、これらの国の文化・社会について、学校教育および国際理解教育という観点から学び理解を深める。これらの国の社会において民族・文化・言語にまつわる問題に対し、どのような取り組みが行われてきたのかについて学ぶ。
達成目標	アメリカ、オーストラリア、マレーシアの社会を特徴づける基本概念について学び、学校教育の特徴や国際理解教育がどのような観点から実施されてきたのかについて理解する。その上で日本社会について比較の視点を持って振り返り、民族・言語・文化の問題や、学校教育の問題について考え、日本で取り組まれるべき国際理解教育はどのようなものかについて自らの意見を持てるようになる。(D)
キーワード	言語、文化、アメリカ、オーストラリア、マレーシア、国際理解教育
成績評価(合格基準)	小テスト20%、レポート課題40%、期末テスト40% で評価する。 総計で60%以上を合格とする。
関連科目	異文化理解、英語科内容論C
教科書	使用しない。関連論文や学術記事等、ハンドアウト等の資料を適宜配布する。
参考書	オーストラリアの言語教育政策 多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存 / 青木麻衣子著 / 東信堂 / 978-4887138803、アメリカ多文化教育の再構築 文化多元主義から多文化主義へ / 松尾知明著 / 明石書店 / 978-4750325545、英語化するアジア トランスナショナルな高等教育モデルとその波及 / 吉野耕作著 / 名古屋大 / 学出版会 / 978-4815807795、沈黙の言葉 文化・行動・思考 / エドワード T.ホール著 / 南雲堂 / 978-4523260202
連絡先	A1号館10階 奥西研究室 Tel 086-256-9634
注意・備考	事前に配布された資料については授業の前に必ず読んでおくこと。 授業中に行われるディスカッションには積極的に参加すること。 授業では英語で書かれた記事や文献も読みます。また、小テストは日・英バイリンガルで実施します。
試験実施	実施する

科目名	日本語文法 (FES6V120)
英文科目名	Japanese Grammar
担当教員名	河原修一 (かわはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	意味と文法の間係を説明する。日本語の構文の特色 (談話、文章) を説明する。語順と表現的意味の間係を説明する。
2回	助詞「が」「は」のはたらき (機能) の違いを事例に即して、説明する。
3回	文章のなかで、語り手の視点と語られるものごとの間係を説明する。読み手に対して話題にする事柄の示し方を説明する。
4回	文のなかで助詞はどのようなはたらきをしているかを説明する。機能に応じて、分類する。古語における係り結びのはたらきに言及する。
5回	指示語 (コソアド語) のはたらきについて説明する。
6回	ものの存在を表すとき、「ある」「いる」にはどのようなはたらきの違いがあるか考え、理解する。古語における「あり」のはたらきとの違いに言及する。
7回	ものごとの変化を表すとき、「なる」「する」にはどのようなはたらきの違いがあるか考え、理解する。様々な「なる」の用法について理解する。
8回	様々な「する」の用法について理解する。
9回	自他物の間係が動詞で示されることについて考え、理解する。古語のかたち (語形) における対応に言及する。
10回	こころのうちとそとの表現があることを理解する。語形における対応に言及する。
11回	動きの段階はどのように示されるか考え、理解する。
12回	「だ」「です」などで終る表現は、場に応じて、どのようなはたらきを示すかを考え、理解する。
13回	談話における文末表現に用いられる終助詞「わ」「よ」「ね」などのはたらきについて考え、理解する。
14回	ものやりとりに関わる授受動詞「やる (上げる)」「もらう (頂く)」「くれる (下さる)」などのはたらきについて考え、理解する。
15回	評価試験を実施し、実施後、解説する。
16回	評価試験を実施し、試験後に解説する。

回数	準備学習
1回	談話と文章で、表現されるかたち (文) にどのような違いがあるか、考えてみること (標準学習時間60分)
2回	「象は鼻が長い。」という文のなかでの「は」と「が」の機能の違いを考えてみること (標準学習時間60分)
3回	小説や随筆の文章にあらわれる「が」「は」の後にどのような表現が用いられているか、考えてみること (標準学習時間60分)
4回	「りんごが好きだ。」という文のなかでの「が」、「道を行く。」という文のなかでの「を」のはたらきを考えてみること (標準学習時間60分)
5回	話し手が聞き手にもものを指さすとき、「これ」「それ」は話し手、聞き手のどの領域にあるものを示すか、考えてみること (標準学習時間60分)
6回	A「何かある。」B「何かいる。」という文のなかでの「何か」の違いについて考えてみること (標準学習時間60分)
7回	A「氷になる。」B「氷にする。」という文では、どのようなものごとの捉え方の違いがあるか、考えてみること (標準学習時間60分)
8回	A「気になる。」B「気にする。」という文では、どのような感じ方や心情の違いがあるか、考えてみること (標準学習時間60分)
9回	「見える」「見る」「見せる」という語によって、それぞれどのような人やもの間係が示されているか、考えてみること (標準学習時間60分)
10回	A「心がいたむ。」B「腰がいたむ。」C「机がいたむ。」という文では、こころのうちとそとのいずれを示しているか、考えてみること (標準学習時間60分)
11回	A「生きている。」B「死んでいる。」という文では、どのような状態を示しているか、考えてみること (標準学習時間60分)
12回	「僕はうなぎだ。」という文は、どのような場面で成り立つか、考えてみること (標準学習時間60分)

13回	A「行くわ。」B「行くよ。」C「行くね。」という文では、話し手の聞き手に対する態度にどのような違いがあるか、考えてみること(標準学習時間60分)
14回	授受動詞「やる(上げる)」「もらう(頂く)」「くれる(下さる)」は、動きの起点は自分か他者か、考えてみること(標準学習時間60分)
15回	復習してくること(標準学習時間120分)
16回	1回~15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	現代日本語の実態を観察し、古代日本語の事実を参照しながら、変化するところと変化しないところを見極め、日本語文法の本質を探る。本講義はカリキュラムポリシーA、Dに該当する。また、英語、中国語(漢文)の文法とも比較する。日本語文法の本質としての基本的な枠組を理解する。そのうえで、場(脈絡、状況)を踏まえた表現と理解につながる実践的な文法の必要性を実感する。(ディプロマポリシーAに対応する)
達成目標	国語教育の現場に生かせる日本語の文法についての知識と探究方法を身につける。日本語の文法について、具体的な言語資料をもとに、様々な文献を参照しながら、自ら探究し考察する力を身につける。現代語の文法を中心としながら、折々に古語の文法に言及し、同じ日本語として、古語と現代語とは連続していることを理解する。併せて、古語文法の必要性を実感する。本講義はディプロマポリシーC、Dに該当する。
キーワード	構文、語順、視点と焦点、題目、描写と説明、助詞の機能と分類、指示語、存在表現、変化の表現、動詞の自他、裏表の表現、動きの段階(アスペクト)、場(コンテキスト)依存型の表現、主客一体の表現、談話における文末表現、授受表現、待遇表現、敬語表現
成績評価(合格基準60)	定期試験により成績を評価し、60点以上を合格とする。ただし、定期試験(100点満点)の評価に、講義中の小演習への取り組みを3点以内で加減する。
関連科目	日本語学概論、日本語史、日本語表現
教科書	使用しない。
参考書	吉川武時(1989)『日本語文法入門』アルク、小池清治(1994)『日本語はどんな言語か』ちくま新書、三上章(1960)『象は鼻が長い』くろしお出版、池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店、金田一春彦(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房、奥津敬一郎(1978)『「ボクハ ウナギダ」の文法』くろしお出版、鈴木一彦・林巨樹(1973)『品詞別日本文法講座』全10巻明治書院、松村明(1971)『日本語文法大辞典』明治書院
連絡先	A1号館9階910室(研究室TEL.086-256-9774)
注意・備考	古語文法については、「日本語史」の講義で言及する。
試験実施	実施する

科目名	Practical Communication (FES6V210)
英文科目名	Practical Communication II
担当教員名	ナカムライエン* (なかむらいえん*)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 6 Buying & Selling に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
3回	Unit 6 Buying & Selling に関して、プレゼンテーションを行う。
4回	U6の学修についてReviewを実施する。
5回	Unit 7 Weather に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
6回	Unit 7 Weather に関して、プレゼンテーションを行う。
7回	Unit 8 Mysteries に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
8回	Unit 8 Mysteries に関して、プレゼンテーションを行う。
9回	U7-U8の学修についてReviewを実施する。
10回	Unit 9 Education に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
11回	Unit 9 Education に関して、プレゼンテーションを行う。
12回	Unit 10 Water に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
13回	Unit 10 Water に関して、プレゼンテーションを行う。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を行う。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていきける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。(Practical Communication 1~4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第二段階目にあたる。)(中等教育学科英語教育コースディプロマポリシーのA,Dに対応する。)
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
成績評価(合格基準60)	小テスト30%、プレゼンテーション・スピーチ30%、口述試験20%、最終評価試験(ライティング)20%で評価する。総計で60%以上を合格とする。

関連科目	Practical Cummunication I, III, IV、発信英語 I-IV
教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8
参考書	
連絡先	
注意・備考	この授業はアクティブラーニングの一環としてディスカッションを実施する。
試験実施	実施する

科目名	日本文学（近・現代）（FES6V220）
英文科目名	Japanese Literature II(modern)
担当教員名	木村功*（きむらたくみ*）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス：国語教育概説
2回	現代詩：詩に関する概説と国語教育について講義する。
3回	現代詩：中学校教材を例に、表現と内容について分析と考察をする。
4回	現代詩：中学校教材を例に、表現と内容について分析と考察をする。
5回	近代詩：高校教材を例に、表現と内容について分析と考察をする。
6回	近代詩：高校教材を例に、表現と内容について分析と考察をする。
7回	小説作品の概説「少年の日の思い出」：「僕」とエーミールの人物像について分析・考察する。
8回	「少年の日の思い出」：「僕」の行動について分析・考察する。
9回	「少年の日の思い出」：「僕」の人物像を異化して理解する。
10回	太宰治「走れメロス」：メロスとディオニス王の人物像を分析・考察する。
11回	太宰治「走れメロス」：メロスの行動を異化する。
12回	太宰治「走れメロス」：メロスの変容とその内容について分析・考察する。
13回	論理的文章概説：論理的文章の指導について、段落構成や文章表現を中心に概説する。
14回	評論文の分析・考察：形式段落とキーワード
15回	評論文の分析・考察：意味段落と、表現と論理の工夫、主題について学ぶ。
16回	1回から15回までの授業内容に基づき、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習を行い、第2回授業までに、事前配布された詩の作品について、表現上の工夫・内容について自分の見解をノートに記しておくこと。（標準学習時間60分）
2回	国語教育に関する授業内容について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。（標準学習時間・90分）
3回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートに記しておくこと。（標準学習時間・90分）
4回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。（標準学習時間・90分）
5回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。（標準学習時間・90分）
6回	詩作品の分析と考察について、確認しておくこと。事前配布されたプリントに従い、詩の表現・内容の特徴が何か分析・考察し、ノートにメモしておくこと。次回の教材プリントに目を通し、課題について考えてくること。（標準学習時間・90分）
7回	事前に作品に目を通し、僕とエーミールの人物像の特徴に関する情報を抽出し、自分なりに人物像を把握しておくこと。（標準学習時間90分）
8回	「僕」とエーミールの人物像の分析・考察について復習すること。次にくじゃくやままゆを盗む一連の行動について、異化した読解を考えておくこと。（標準学習時間90分）
9回	「僕」の人物像の分析・考察について復習すること。「走れメロス」を通読し、メロスとディオニス王の人物像を考えておくこと。（標準学習時間90分）
10回	「僕」の心情について授業内容を確認しておくこと。事前に「走れメロス」に目を通し、王とメロスの人物像の特徴を表現している箇所を把握し、人物像を考えておくこと。（標準学習時間90分）
11回	王とメロスの人物像について、授業内容を確認しておくこと。「走れメロス」の次の場面に目を通し、メロスの行動で異化できる箇所を考えておくこと。（標準学習時間90分）
12回	メロスの行動について授業内容を確認しておくこと。「走れメロス」の次の場面に目を通し、メロスが変容した箇所とその内容について考えておくこと。（標準学習時間90分）
13回	メロスの変容について確認しておくこと。事前に論理的文章のテキストプリントを読み、内容を要約してノートに記しておくこと。（標準学習時間90分）
14回	論理的文章の読み方、指導法について、確認しておくこと。各形式段落を構成する題材、筆者の主張の大まかな内容について整理・確認しておくこと。（標準学習時間90分）
15回	各形式段落の題材、表現の工夫と論理構成について理解すること。また筆者の主張を理解すること

	。(標準学習時間90分)
16回	1回から15回までの配布物・ノートによって、授業内容を確認し、理解を定着させておくこと。
講義目的	<p>中学校・高等学校国語科の授業で扱われている文学教材を対象に、国語科教員として必要な文学に関する基本的・一般的な事項について概説するとともに、実際に文学作品を用いて、教材研究の方法・考え方を具体的に解説する。</p> <p>その際文学を教えるのではなく、高度な言語情報である言語文化として教材を捉え、近代・現代の詩歌・児童文学・小説の代表的な作品を取り上げ、演習を交えながら、分析・考察を加えることで、現代における言語情報・言語文化を理解・継承することの意味と、それらに対する教材研究の重要性の理解を深めることとする。</p> <p>ディプロマ・ポリシーB,Cと対応する。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の国語科教員として、詩歌・小説・評論に関する基本的な言語情報を身につけ、教材となっている作品への理解こそが、授業を成立させる最大の要件であることを認識する。 ・国語と言語文化に対する理解を深めるとともに、国語科教員として必要な知識・指導力を意識しながら、自己形成を实践できる。
キーワード	読解力、思考力、想像力、表現力
成績評価(合格基準60)	提出物・発表20%、試験 80%
関連科目	教科内容に関する専門の授業を履修していること。
教科書	当該授業前にテキストプリントを配布する。授業時にも資料を配付する。教科書販売はしない。
参考書	授業時に、適宜紹介する。
連絡先	kimutaku@okyamma-u.ac.jp
注意・備考	授業中の、携帯・スマホの使用、私語は、指導中の教員や他の受講生の迷惑となるので禁じる。
試験実施	実施する

科目名	漢文学 (FES6W110)
英文科目名	Chinese Classics I
担当教員名	奥野新太郎 (おくのしんたろう)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 漢文(詩文)の歴史と文体について概説する
2回	詩は情を詠う 『詩経』 「毛詩大序」に見る漢文学における詩の位置付けについて論じる
3回	古代の心 『文選』 「古詩十九首」について論じる。
4回	王者の思い (前漢) 劉邦「大風歌」、(前漢) 漢武帝「秋風辞」について論じる
5回	亡き妻への思い (西晋) 潘岳「悼亡詩」について論じる
6回	民衆の素朴な心 (南北朝) 「子夜歌」について論じる
7回	友との別れの情 (盛唐) 王維「送元二使安西」「送秘書晁監還日本国」について論じる
8回	家族への思い (盛唐) 杜甫「月夜」「春望」について論じる
9回	哀情の描かれ方 (中唐) 白居易「長恨歌」について論じる
10回	親子の情 (中唐) 白居易新樂府「母別子」について論じる
11回	過去へ馳せる思い (北宋) 蘇軾「赤壁賦」について論じる
12回	夫婦の愛情 (北宋) 李清照「如夢令」「声声慢」について論じる
13回	祖国への思い (南宋) 陸游「示兒」、(南宋) 文天祥「正気歌」について論じる
14回	詩論 (南宋) 嚴羽『滄浪詩話』について論じる
15回	講義のまとめ 「情」を読み解くということについて論じる

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んでくること 漢文学概論で学んだことをよく復習しておくこと【120分】
2回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】 *必ず漢和辞典を使うこと
3回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
4回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
5回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
6回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
7回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
8回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
9回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
10回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
11回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
12回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
13回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
14回	配付資料を熟読し、語句の意味調べや日本語訳をしてくること【120分】
15回	授業の内容を総復習しておくこと【120分】

講義目的	本講義では「詩は情を詠う」という『詩経』以来の中国文学の根本的テーマをテーマに、様々な漢詩文について講義する。中国では、陶淵明、李白、杜甫、白居易、蘇軾、陸游等の多くの詩人たちが、自身の様々な情を詩に詠じてきた。これら各作品を「情」に着目しつつ読み解くことで、漢文学の根幹を知るとともに、漢文学の読解及び教授に関する実践的な知識を学習する。授業では、毎回テーマ及び中心となる作品を設定し、関連作品も交えつつ、読んでいく。 本科目はカリキュラムポリシーのうちA、B、C、Dに該当する
達成目標	様々な作品の読解を通じて、漢詩文の変遷を概観し、総合的かつ実践的な漢詩文の知識を学習する。漢和辞典等を用いた漢文読解の実践的技術を習得する。漢詩文の歴史や作者の背景とともに、そこに表れる普遍性を理解する。 本科目はディプロマポリシーのうちA、C、Dに該当する。
キーワード	漢文 中国文学 中国史 中国語 日本文学 日本語 漢字
成績評価(合格基準60)	小テスト(20%)、学期末のレポート(80%)により、総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	漢文学概論 日本文学概論 日本文学史
教科書	使用しない。

参考書	『中国文学史』 / 前野直彬[編] / 東京大学出版会 / 1975年 / 9784130820363 : 『中国思想文学史』 / 日原利国 / 朋友書店 / 1999年 / 978489281069 5 : 『中国文学史新著(増訂本)』上中下 / 章培恒・駱玉明[主編] / 井上泰山等[訳] / 関西大学出版部 / 2011~2014年 / 9784873545127, 9784873545554, 9784873545738 : 先秦漢魏晉南北朝詩 / 逯 欽立 / 中華書局 / 7-101-00735-X : 全唐詩 / 彭 定求 / 中華書局 / 9787101006384 : 漢詩大系シリーズ(集英社) : 新釈漢文大系シリーズ(明治書院) : 中国詩人選集シリーズ(岩波書店) : * その他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館9F奥野研究室 okuno_ped.ous.ac.jp [@]
注意・備考	予習必須。 資料は授業開始時に配布する。 課題については授業中に適宜解説する。 受講生の理解度により、内容や進度を調整・変更することがある。
試験実施	実施しない

科目名	書写・書道 (FES6W210)
英文科目名	Penmanship/Calligraphy
担当教員名	前田秀雄* (まえだひでお*)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	導入。「書写」での学習を振り返り、「書写・書道」学習への目標を確認する。
2回	筆順に留意して、楷書(毛筆)基本点画の執筆方法を復習する。
3回	字源に留意して、楷書(毛筆)を臨書しながら毛筆書の本質を再確認する。
4回	腕法・姿勢・用具に留意して、行書(毛筆)の執筆練習を指導する。
5回	書体・字体に留意して、行書(毛筆)の執筆練習を指導する。
6回	書写・書道教育の意義に留意して、楷隸(毛筆)の執筆練習を指導する。
7回	書写・書道教育の意義に留意して、行草(毛筆)の執筆練習を指導する。
8回	正確な平仮名(毛筆)の形に留意して、執筆方法を復習する。
9回	上代用の平仮名(毛筆)の形に留意して、執筆方法を指導する。
10回	鉛筆の持ち方に留意して、楷書(硬筆)の執筆方法を復習する。
11回	筆脈に留意して、行書(硬筆)の執筆練習を指導する。
12回	身の回りにある実用書(硬筆)に留意して、生活に生かした表現の可能性を指導する。
13回	身の回りにある実用書(毛筆)に留意して、生活に生かした表現の可能性を指導する。
14回	1～13回で得た成果を踏まえて、創作作品(漢字仮名交じり)の制作方法を指導する。
15回	まとめ。1～14回で仕上げた課題を踏まえて、「書写・書道」の鑑賞法と評価法を指導する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。「書写」で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。「書写」で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。「書写」で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	行書の楷書との違いを理解してその用筆法について、授業で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	行書の楷書との違いを理解してその用筆法について、授業で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	書体変遷の歴史を理解して、授業で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	書体変遷の歴史を理解して、授業で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	平仮名の歴史を理解して、授業で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	平仮名の歴史を理解して、授業で学んだことを復習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間60分)
11回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、行書学習の成果を高めること。(標準学習時間60分)
12回	生活の中に手書き文字を積極的に取り入れて、現代における手書き文字の価値を考えること。(標準学習時間60分)
13回	生活の中に手書き文字を積極的に取り入れて、現代における手書き文字の価値を考えること。(標準学習時間60分)
14回	生活の中に手書き文字を積極的に取り入れて、現代における手書き文字の価値を考えること。(標準学習時間60分)
15回	書写・書道の本質を理解すること。生涯学習、独習の方法を確認すること。(標準学習時間120分)

講義目的	中等教育の現場で自信を持って書写指導が出来る教師の育成を目指す。そのため、中学校における国語科書写・書道として必要な、用筆・筆順・字形・字体・字配りなどに関して、硬筆と毛筆とを併用しながら、知識と技能を習得させる能力の養成を目指す。文字文化の豊かさを理解し、身の回りの多様な表現を通して、現代における文化伝承の上からも、不易と流行の両者に、臨機応変に適切な指導のできる能力の養成を目指す。ディプロマポリシーCと関わる。
------	---

達成目標	中学校の国語科書写・書道に必要な基礎的技能について、毛筆での臨書の実習を中心に、仮名・漢字（楷書・行書）の結構・用筆などを理解して書くことができること。 ・生活の中で行書を使って文字が書けること。 ・文字文化の多様性を理解して、文字に興味を持ち、正しい指導が出来ること。
キーワード	不易流行・臨機応変
成績評価（合格基準60	毎回の課題作品60%、レポート20%、最終評価試験20%による総合評価。
関連科目	書写
教科書	用いない。
参考書	特になし。
連絡先	河原研究室電話086-256-9774
注意・備考	毛筆書道用具・2B鉛筆・新聞紙など、実習に必要な備品を各自準備すること。
試験実施	実施する

科目名	Practical Communication (FES6W220)
英文科目名	Practical Communication II
担当教員名	ナカムライエン* (なかむらいえん*)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	Unit 6 Buying & Selling に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
3回	Unit 6 Buying & Selling に関して、プレゼンテーションを行う。
4回	U6の学修についてReviewを実施する。
5回	Unit 7 Weather に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
6回	Unit 7 Weather に関して、プレゼンテーションを行う。
7回	Unit 8 Mysteries に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
8回	Unit 8 Mysteries に関して、プレゼンテーションを行う。
9回	U7-U8の学修についてReviewを実施する。
10回	Unit 9 Education に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
11回	Unit 9 Education に関して、プレゼンテーションを行う。
12回	Unit 10 Water に関して、リスニングおよびスピーキングを行う。
13回	Unit 10 Water に関して、プレゼンテーションを行う。
14回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施する。
15回	これまでの学修についてReviewとSpoken Assessmentを実施した上で、総評を行う。
16回	これまでの授業内容のおさらいをする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。第2回授業までに、授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	スピーキングおよびリスニングスキルの向上に焦点化し、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語リスニングおよびスピーキングの継続的な学習によりグローバル社会で通用する実践的英語コミュニケーション能力及び、将来英語教員として英語で授業を行っていきける基礎力としてのスピーキング力およびリスニング力を身に付けることを目標とする。(Practical Communication 1~4の4ステップを通して段階的にコミュニケーション能力の向上を図るよう企画されているが、本授業はその第二段階目にあたる。)(中等教育学科英語教育コースディプロマポリシーのA,Dに対応する。)
達成目標	・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。 ・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	実践的英語コミュニケーション、リスニング、スピーキング
成績評価(合格基準60)	小テスト30%、プレゼンテーション・スピーチ30%、口述試験20%、最終評価試験(ライティング)20%で評価する。総計で60%以上を合格とする。

関連科目	Practical Cummunication I, III, IV、発信英語 I-IV
教科書	Inspire 1 / Nancy Douglas & Andrew Boon / Cengage Learning / 978-1-133-96357-8
参考書	
連絡先	
注意・備考	この授業はアクティブラーニングの一環としてディスカッションを実施する。
試験実施	実施する

科目名	応用言語学 (FES6X310)
英文科目名	Applied Linguistics
担当教員名	ナカムライエン* (なかむらいえん*)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：授業の目的と概要、学習の進め方、成績評価について説明する。
2回	言語のインプットについて学習する。
3回	言語のアウトプットについて学習する。
4回	インタラクションについて学習する。
5回	エラー修正について学習する。
6回	中間試験に向けて学習した内容について準備する（言語のインプットとアウトプットについてを中心に）。
7回	中間試験に向けて学習した内容について準備する（インタラクションとエラー修正についてを中心に）。
8回	中間試験を実施する。プレゼンテーションとリフレクションを行う。
9回	中間試験の内容に関して復習と解説を実施する。
10回	談話分析：社会的インタラクションにおける言語について説明する。
11回	談話分析：社会的インタラクションにおける言語について、ディスカッションを実施する。
12回	今日のトピック：バイリンガル教育、イマージョン教育、共通語（リンガ・フランカ）としての英語について解説する。
13回	今日のトピック：バイリンガル教育、イマージョン教育、共通語（リンガ・フランカ）としての英語についてディスカッションを実施する。
14回	最終評価試験に向けて学習内容を整理して説明する。
15回	最終評価試験に向けて学習内容を総括し全体討論を実施する。

回数	準備学習
1回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
2回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
3回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
4回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
5回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
6回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
7回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
8回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
9回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
10回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
11回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
12回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
13回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
14回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）
15回	授業中指示のあった課題に取り組んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	英語教員を目指す学生にとって将来必要不可欠となる言語教育および言語研究分野における背景知識を獲得させることを目指す。言語習得に関する理論を概観し、言語学習や言語教授に関してより幅広い気づきとより深い理解を発展させることができるようになる。（中等教育学科英語教育コースのA, Dに対応する。）
達成目標	本授業の受講により以下のことができるようになる。・言語学習に関する基礎的かつ著名な原則について理解している。・言語教育や言語研究に関する考え方について英語で説明することができる。・ディスカッションに参加することにより教員になるために必要な自信を育てる。
キーワード	言語学習と言語教授、理論と実践の統合、アクティブラーニングと言語教育
成績評価（合格基準60	中間試験30%最終評価試験50%アクティブラーニングの実践と討論への参加20%で評価し、総計60%以上で合格とする。
関連科目	英語コミュニケーションⅠ, Ⅱ英語科教育法Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ
教科書	使用しない。
参考書	

連絡先	
注意・備考	この授業は、アクティブラーニングの一環としてディスカッションを実施する。
試験実施	実施する

科目名	国語科教材分析・開発演習 A (FES6X320)
英文科目名	Analysis and Development of Japanese Teaching Materials A
担当教員名	河原修一(かわはらしゅういち)
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	演習の概要を説明し、グループ分け(分担)をする。
2回	詩歌の分析演習をする。
3回	それぞれ分担する詩歌の分析の発表をする。
4回	詩歌の教材開発演習をする。
5回	小説の分析演習をする。
6回	引続き、小説の分析演習をする。
7回	それぞれ分担する小説の分析の発表をする。
8回	小説の教材開発演習をする。
9回	引続き、小説の教材開発演習をする。
10回	随筆・評論の分析演習をする。
11回	随筆・評論の分析の発表をする。
12回	随筆・評論の開発演習をする。
13回	国語表現の分析演習をする。
14回	国語表現の分析の発表をする。
15回	国語表現の開発演習をする。

回数	準備学習
1回	高校の教科書「現代文」「国語表現」や中学校の教科書の現代文・国語表現の教材を通覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	それぞれ分担する詩歌の分析をすること。(標準学習時間60分)
3回	それぞれ分担する詩歌の発表の準備をすること。(標準学習時間60分)
4回	事前に配付された資料を基に、教材としての活用について考察すること。(標準学習時間60分)
5回	それぞれ分担する小説の分析をすること。(標準学習時間60分)
6回	引続き、それぞれ分担する小説の分析をすること。(標準学習時間60分)
7回	それぞれ分担する小説の分析の発表の準備をすること。(標準学習時間60分)
8回	事前に配付された資料を基に、教材としての活用について考察すること。(標準学習時間60分)
9回	小説の教材開発の可能性について考察すること。(標準学習時間60分)
10回	それぞれ分担する随筆・評論を分析すること。(標準学習時間60分)
11回	それぞれ分担する随筆・評論の分析の発表の準備をすること。(標準学習時間60分)
12回	事前に配付された資料を基に、随筆・評論の教材としての活用を考察すること。(標準学習時間60分)
13回	それぞれ分担する国語表現について分析すること。(標準学習時間60分)
14回	それぞれ分担する国語表現の分析の発表の準備をすること。(標準学習時間60分)
15回	事前に配付された資料を基に、国語表現の教材としての活用を考察すること。(標準学習時間60分)

講義目的	現代文現代文・国語表現について、教育的配慮に基づき、教材として活用できる観点を身につけることを目的とする。本演習はカリキュラムポリシーA、B、Cに該当する。
達成目標	中学校・高校国語教科書に記載されている現代文・国語表現の教材を分析し、発展的な教材を開発できることを目標とする。本演習はディプロマポリシーB、C、Dに該当する。受講生が自ら開発することを目標とする。
キーワード	現代文、国語表現、教材分析、教材開発
成績評価(合格基準60)	演習の内容、発表の仕方を評価する。分析演習70%、開発演習30%で、評価する。
関連科目	日本語学概論、日本語表現、国語科内容論
教科書	用いない。
参考書	随時、紹介する。
連絡先	A1号館9階河原研究室(直通電話086-256-9774)
注意・備考	国語辞典を持参すること。
試験実施	実施しない

科目名	国語科教育法 (FES6Y210)
英文科目名	Teaching of Japanese II
担当教員名	札埜和男 (ふだのかずお)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	主に小説を読むことについての授業デザインや教材研究の方法について説明する。
2回	小説の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。
3回	評論を読むことについて、授業デザインや教材研究の方法について説明する。
4回	評論の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。
5回	詩歌を読むことについて授業デザインや教材研究の方法、実践例について説明する。
6回	「伝え合う」というテーマでの授業デザインや教材研究の方法について説明する。
7回	「伝え合う」というテーマでの授業における指導方法について説明する。
8回	「聞くこと・話すこと」というテーマでの授業デザインや教材研究の方法について説明する。
9回	「インタビュー」をテーマとしてワークショップ的に授業を行う。
10回	「書く」ことの指導法として「聞き書き」の方法についてワークショップ的に授業を行う。
11回	古文を読むことについて授業デザインや教材研究の方法について説明する。
12回	古文の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。
13回	漢文を読むことについて授業デザインや教材研究の方法について説明する。
14回	漢文の具体的教材をもとに、模擬授業を構想する。
15回	これまでの講義内容を深化させてワークショップ的に授業を企画化することを試みる。

回数	準備学習
1回	中学校・高校時代の小説を扱った国語授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	あらかじめ指定した小説教材をどう授業化するか構想し、学習指導案を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	中学校・高校時代の評論を扱った国語授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	あらかじめ指定した評論教材をどう授業化するか構想し、学習指導案を作成すること。(標準学習時間120分)
5回	中学校・高校時代の詩歌を扱った国語授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べ、どんな授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
6回	「伝え合う」ことをテーマとして、どんな授業実践があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	「伝え合う」というテーマでどのような授業ができるか考えること。(標準学習時間60分)
8回	「聞くこと・話すこと」をテーマとして、どんな授業実践があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	あらかじめ指定した文献を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
10回	あらかじめ指定した文献を読んだり、課題に取り組むこと。(標準学習時間60分)
11回	中学校・高校時代の古文を扱った国語授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	あらかじめ指定した古文教材をどう授業化するか構想し、学習指導案を作成すること。(標準学習時間120分)
13回	中学校・高校時代の漢文を扱った国語授業を思い出しつつ、どんな授業実践があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
14回	あらかじめ指定した漢文教材をどう授業化するか構想し、学習指導案を作成すること。(標準学習時間120分)
15回	これまでの講義内容を整理しつつ、与えられた条件の下で模擬授業プランを考えること。(標準学習時間120分)

講義目的	生徒の考える意欲や興味ひいては「ことば」を引き出し、関心を抱く国語の授業を展開するには、入念な教材研究が必要となる。「読む」だけでなく「聞く・話す・書く」の教材研究をどうやって進めるか、さらにそれをどう授業化するかの基本的な力を養うことが目的である。さらに教材の中から考えるに値する問いとは何かの重要性を理解することも
------	---

	目的としてある。 (本科目はカリキュラムポリシーのうち「日本語表現および指導法」の修得を目的とする)
達成目標	教材観を養い、「読むこと」についての指導法について基本的な考え方、学習指導案の書き方(型)を習得する。 聞くこと、話すこと、書くことについての指導方法の一部を身に付ける。 国語科教員を目指す者として、インタビューと聞き書きのスキルを身に付ける。 (本科目はディプロマポリシーのうち(C)(A)に相当する)
キーワード	国語・国語科・国語科教育・教材研究・教材観・聞き書き・インタビュー
成績評価(合格基準60)	授業ごとの提出課題50%。最終レポート課題50%。
関連科目	国語科教育法 ・ を続けて履修することが望ましい。
教科書	中学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/東洋館出版社/978-4491-034-706 高等学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/出版社未定
参考書	高等学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/教育出版/978-4-316-30021-4 検定教科書/現代の国語2/三省堂/978-4-385-70519-4 検定教科書/精選国語総合新訂版/大修館書店/978-4-469-623192 藤本英二/1988/ことばさがしの旅—国語表現の試み(下)/高校出版/906277-06 -3 ほか、適宜授業中に紹介する。
連絡先	fudano@ped.ous.ac.jp
注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループディスカッション等を行う。 ・講義資料は講義開始時あるいは時間中に配布する。 ・学生の理解度により内容、進度、順番を調整・変更することがある。また講義内容によってはゲストを招いて行うことがある。 ・演劇的手法を用いたり、フィールドワーク等の体験実践型の方法を用いることもある。 ・講義中の録音、録画、撮影は個人で利用する場合に限り許可する場合があるので事前に相談すること。 ・提出課題については講義中に解説したり紹介したりしながらフィードバックを心がける。
試験実施	実施しない

科目名	探究活動 C (FES6Z110)
英文科目名	Investigation Activities IIC
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。社会の成り立ちと活動について説明する。
2回	マーケットセグメンテーションについて説明する。
3回	テーマ設定(研究課題の決定)について説明する。
4回	対象組織(研究課題となる企業や自治体等の決定)について説明する。
5回	調査計画書の策定(全体計画書の策定)について説明する。
6回	事前調査(文献調査)について説明する。
7回	フィールド調査(訪問)
8回	フィールド調査(訪問)
9回	調査経過報告書について説明する。
10回	調査結果の分析について説明する。
11回	調査報告書について説明する。
12回	調査報告書について説明する。
13回	調査結果の報告(プレゼンテーション)
14回	調査結果の報告(プレゼンテーション)
15回	ビジネスフィールドワークの総括

回数	準備学習
1回	企業で働くことのイメージを抱いて、株式会社について予習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
3回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
4回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
5回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
6回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
7回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
8回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
9回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
10回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
11回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
12回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
13回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
14回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
15回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	探究活動により修得した、科学的、客観的態度で物事の本質を追求し続ける基礎的能力を、具体的なフィールド活動を通して向上させることを講義目的とする。実社会では、営利を目的とした活動から非営利活動に至るまで様々機能を持った組織体が社会を構成している。個々の組織体(企業、NGO・NPO、自治体、各種団体等)がどのような活動を通して社会に貢献しているかを事前調査、フィールド調査、調査結果の分析を通して社会の仕組みや活動について理解を深める。
達成目標	企業活動や非営利団体の活動の一端を、文献調査と実地調査により、実態と課題について分析を行う。これらを通して企業の現場に触れる機会を持つとともに、活動後の発表や提言を行うことによって、探究に必要な観察力、実践力、分析力を培うことを達成目標とする。
キーワード	PBL(問題発見 解決型学習(Problem-Based Learning))、地域ブランド、フィールドワーク、企業、自治体、プレゼンテーション
成績評価(合格基準60)	ビジネスフィールドワーク全体(テーマと対象組織体の設定方法、全体計画の策定、事前調査、実地調査、報告書のまとめ、報告会の発表)を通じた取り組み方。全体計画の策定30%、フィールド調査の成果30%、報告書の策定と発表(プレゼンテーション)40%
関連科目	探求活動
教科書	都度、プリントを配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	経営学部経営学科 山口研究室(A1号館7階)

	t-yama@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	基本的にはグループワーク中心の集中講義です。 今年度は、10/13(土)、11/10(土)、12/8(土)の各1コマ~5コマを予定しております。
試験実施	実施しない

科目名	英語コミュニケーション (FES6Z120)
英文科目名	English Communication II
担当教員名	バロズクリスチャン* (ばろうずくりすちゃん*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを実施する。
2回	英語コミュニケーション能力を育てる英語教授法について説明する。
3回	文法訳読法について説明する。
4回	概念・機能法について説明する。
5回	直接アプローチについて説明する。
6回	体験学習、分析内容について発表する。
7回	ナチュラル・アプローチについて説明する。
8回	読解アプローチについて説明する。
9回	オーディオリンガル・アプローチについて説明する。
10回	体験学習、発表を実施する。
11回	コミュニカティブ・アプローチについて説明する。
12回	トータル・フィジカル・レスポンスについて説明する。
13回	コミュニティー言語学習法について説明する。
14回	沈黙式教授法について説明する。
15回	体験学習、コミュニカティブ・アプローチ、トータル・フィジカル・レスポンス、コミュニティー言語学習法、沈黙式教授法について発表を実施する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の目的や内容、評価方法、授業の進め方について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テーマに沿って学生の発表と討論を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	文法訳読法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	概念・機能法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	直接アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	文法訳読法、概念・機能法、直接アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	ナチュラル・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8回	読解アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9回	オーディオリンガル・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10回	ナチュラル・アプローチ、読解アプローチ、オーディオリンガル・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11回	コミュニカティブ・アプローチに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	トータル・フィジカル・レスポンスに関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	コミュニティー言語学習法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
14回	沈黙式教授法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	コミュニカティブ・アプローチ、トータル・フィジカル・レスポンス、コミュニティー言語学習法、沈黙式教授法に関し予習を行うこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの授業内容の復習をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	本授業では、生徒の英語コミュニケーション能力を高める英語科授業とは何かについて考えることができるようになる前提として必要な、英語コミュニケーションと第二言語習得に関する基礎的知識を学習する。(中等教育学科英語教育コースのディプロマポリシーA,Dに対応する。)
達成目標	・さまざまな言語理論を認識する。・現代社会におけるグローバルな視点に基づいた問題に関心を持つことができる。・日常的な言葉を用いて効果的に英語コミュニケーションを図ることができる。
キーワード	英語コミュニケーション、第二言語習得
成績評価(合格基準60)	レポート【2回】50%、定期試験 50%
関連科目	英語コミュニケーションI、英語科教育法I～VI
教科書	特になし(プリント、ワークシート、ユーチューブビデオ、パワーポイントファイル、雑誌、記事などを使用する)
参考書	Teaching by Principles: An Interactive Appro

	ach to Language Pedagogy (3rd Edition) by H. Douglas Brown
連絡先	
注意・備考	この講義では、アクティブラーニングの一形態であるグループ・ディスカッションやペア・ワークを行う。
試験実施	実施する

科目名	探究活動 A (FES6Z130)
英文科目名	Investigation Activities IIA
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションおよび野外活動における一般的な注意および解説を行う。実態調査を綿密に行い、安全面への意識を高めた上で日程やグルーピングを行う。
2回	旭川の地質・地形・気象・水質・動植物について解説し、それらがカヌー実習に及ぼす影響と、カヌーによって始めて体感できる内容を理解する。
3回	カヌーの名称や特性、操縦法の基本を解説するとともに野外活動における危険性とその回避方法について理解する。
4回	現地の実習場所で地理・地形・水量・危険区域・危険生物等をグループごとに把握する。
5回	現地の実習場所で、現地での危険をどのように回避すればいいかをグループごとに議論する。
6回	現地の実習場所で、危険項目の洗い出しと回避方法をグループごとに発表し、議論する。
7回	現地実習場所で、全員の健康状態を把握した後、ライフジャケットの使用法、浮かび方、安全姿勢等を学ぶ。
8回	現地実習場所で、パドルの操作方法と前進および後退・回転方法を身につける。
9回	現地実習場所で、カヌーの乗降りおよび沈した場合のレスキュー方法を身につける。
10回	旭川周辺の動植物について解説し、実際に同定ができるようにする。生息環境から、生息条件を推測できるようにする。
11回	旭川と百間川の歴史を追いながら、川とどのようなつきあい方を行い、どのように変え、どのように利用したかを実際の遺跡を見学しながら考察する。
12回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、それぞれのテーマでまとめる。
13回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、修正し、発表に備える。
14回	全グループを半分に分け、前半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。
15回	全グループを半分に分け、後半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。

回数	準備学習
1回	旭川の上流から下流までの流路を地形図で確認しておくこと。(60分)
2回	旭川の流域の地質・地形について、地質図等で確認しておくこと。(60分)
3回	カヌーの名称や特性について、十分に予習して多くこと。(60分)
4回	旭川の危険生物について、十分に調べておくこと。(45分)
5回	危険回避の方法について十分に予習しておくこと。(60分)
6回	現地下見を行う観点を自分なりに整理しておくこと。(60分)
7回	ライフジャケットの使用法、スローボトルでの救助法などを予習しておくこと。(60分)
8回	パドルの操作方法について十分に予習しておくこと。(60分)
9回	カヌー実習時の緊急事態を想定し、どのような救急方法を行うか、また、レスキューをどのように行ったらいいかを十分に検討しておくこと。(60分)
10回	旭川の周辺にどのような生物が生息しているかをそれぞれの分類グループに分けておくこと。(60分)
11回	旭川のこれまでの歴史をたどりながら、利用法や災害時の状況および対策を調べておくこと。(60分)
12回	自分なりのテーマを設定し、グループでの発表に備えること。(60分)
13回	発表の分担を決め、分担部分については十分に準備を行っておくこと。(60分)
14回	リハーサルを行い、改善および修正を行うこと。(60分)
15回	グループごとの発表に積極的に意見ができるようにしておくとともに、自分たちのグループの発表全体の総括を行う(60分)

講義目的	本講義は自然探究活動を中心とした体験重視の授業である。主な目的はカヌーの技能や危険回避等のテクニックを身につけることはもちろんのこと、将来フィールドでの指導者として必要な資質や能力の育成を図るものである。初等教育学科の学位授与の方針Eに関連する科目である。
達成目標	・野外での自然探究活動における注意点を理解し、危険性を回避する方法を学ぶ。(E)・水上でのツールとなるライフジャケット使用法やカヌー操縦の基礎を習得する。(E)・野外での

	自然観察を通して抱いた疑問を解決するためのアプローチの仕方，調べ方を習得する．学位授与の方針Eに関連する科目である。(E)・調べたことがらをまとめ，パワーポイントによる発表法を習得する。(E)
キーワード	カヌー・危険回避・フィールド学習・自然探究・協力性・指導法・旭川・百間川・発表法
成績評価(合格基準60)	・カヌーの基本的な操作法が身についていること(チェック法20%)・下見の方法や観点を身につけて実習を行っていること(主にレポート20%)・安全面の確保を十分に行った上で実習していること(チェック法20%)・発表方法を習得していること(チェック法20%)・グループの中で活発な議論を行っていること(主にレポート20%) これらの合計100%のうち60%以上を合格とする．
関連科目	探究活動 (山下担当分)
教科書	適宜配布する．
参考書	シリーズ『岡山学』3～6，旭川を科学する Part 1～4．(吉備人出版) 「カヌー&カヤック入門(辰野 勇著)山と溪谷社
連絡先	A1号館山下研究室(1012)
注意・備考	本授業はアクティブラーニングによって本講義目標達成を目指す．本授業は受講者の安全と体験の質確保のために今年度から抽選により40名の履修制限を行うこととする．また，この授業は集中で行われるため，主に土曜日曜日に行われることも考慮すること．日程については後日教育学部掲示板9F10F等に掲示する．受講決定後5日以後のキャンセルは認めないので注意すること．指導計画は受講状況により変更することがある．講義中の録音・録画・撮影は指導教官が認める範囲で可とするので事前に相談すること．
試験実施	実施しない

科目名	教育ボランティア (FES6Z220)
英文科目名	Educational Volunteer II
担当教員名	河原修一(かわはらしゅういち), 奥西有理(おくにしゆり), 山崎桂子(やまさきけいこ), 地村彰之(ぢむらあきゆき), 香ノ木隆臣(こうのきたかおみ), 奥野新太郎(おくのしんたろう), 坂本南美(さかもとなみ), 札埜和男(ふだのかずお)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	中等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	事前指導を行う (全教員)
2回	実習(1) (全教員)
3回	実習(2) (全教員)
4回	実習(3) (全教員)
5回	実習(4) (全教員)
6回	実習(5) (全教員)
7回	実習(6) (全教員)
8回	実習(7) (全教員)
9回	実習(8) (全教員)
10回	実習(9) (全教員)
11回	実習(10) (全教員)
12回	実習(11) (全教員)
13回	実習(12) (全教員)
14回	グループ・リフレクションを行う (全教員)
15回	成果発表を行う (全教員)

回数	準備学習
1回	NPO等でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)

2回	事前指導を踏まえ、一般の人々とのコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	今後の活動の中で、自分ができることについてよく考えること。(標準学習時間60分)
4回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
9回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
10回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
12回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
13回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
14回	これまでの活動を踏まえ、自分の成果と課題について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
15回	自身の活動について、レポート・プレゼンテーションとしてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	「教育ボランティア」での活動体験を踏まえて、この授業においても大学の授業外の時間を使い、教育関連施設のボランティアとして、教育的活動の補助及び子どもの遊びや学習の支援活動を行う。特に近隣の教育関連NPOとの連携により、主として児童生徒の集团的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもを理解し、教師として子どもの学習や生活の集団を支持的風土に満ちた集団に高めていく力の育成を目指す。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	NPO職員や子どもの保護者、他のボランティア参加者など、多様な人々との関わりの中で活動を企画し運営して行く中で、学校関係者や子どもだけでなく様々な人と円滑にコミュニケーションできる力を身につけること。 組織の中で自発的に自分の役割を見つけ、率先しかつ協調して動けるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準)	ボランティア受け入れ先からの評価および、事後指導におけるレポートを総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	教育ボランティア
教科書	なし
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない